

# 松山市埋蔵文化財調査年報 16

平成15年度

2004

松山市教育委員会  
財団法人松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター

# 松山市埋蔵文化財調査年報 16

平成15年度

2004

松山市教育委員会  
財団法人松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター



巻頭図版1 樽味四反地遺跡8次調査地 大型建物 古墳時代初頭



巻頭図版 2 久米官衙遺跡群 政庁遠景



巻頭図版3 大蓮古代ハス

## 序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、開発事業等によって失われようとしている遺跡について、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、埋蔵文化財センターが平成15年度に松山市内において実施した発掘調査の報告ならびに松山市考古館が主体となって開催した展示会、講演会などの教育普及活動内容の概要をまとめたものであります。

当該年度の発掘調査では、弥生時代から近世にいたる数多くの遺構・遺物を発見しました。特に、樽味四反地遺跡8次調査地では、古墳時代初頭に時期比定される西日本最大級の大型掘立柱建物址がみつき、樽味地区において首長にかかわる重要な建物群が存在していたことが明らかになりました。また、坂の上の雲記念館（仮称）建設工事に伴って実施した番町遺跡では、江戸時代の池跡がみつき注目されました。

このような資料・成果が得られましたのも、関係各位の皆様の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げる次第です。

なお本書が、松山市民の皆様をはじめ、多くの方々に埋蔵文化財に対するご理解を深めていただける資料としてご活用いただければ、幸いに存じます。

平成16年12月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団  
理事長 中村時広

# 例 言

1. 本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成15年4月1日から平成16年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。
2. 本格調査については、第II章の表にその概要をまとめた。
3. 各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は相原秀仁が行った。
4. 本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。
5. 位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。
6. 遺構は、以下の略号で記した。  
SB：竪穴式住居址（建物址） 掘立：掘立柱建物址 SR：自然流路 SD：溝  
SE：井戸 SK：土坑 SA：欄、柱列 SP：柱穴 SX：性格不明遺構
7. 各図の方位は、国土座標第4座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。
8. 刊行組織は、以下の通りである。（平成16年4月1日現在）

松山市教育委員会	教 育 長	中矢 陽三
事 務 局	局 長	久保 浩三
	企 画 官	丹生谷博一
	企 画 官	石丸 修
	企 画 官	仙波 和典
	企 画 官	渡部 一
文化財課	課 長	篠原 忠人
	主 幹	家久 則雄
	副 主 幹	田城 武志
	主 査	栗山 正芳
(財)松山市生涯学習振興財団	理 事 長	中村 時広
	事 務 局 長	三宅 泰生
	事 務 局 次 長	石丸 允良
	事 務 局 次 長	池田 政勝
埋蔵文化財センター	所 長	杉田 久憲
	専門学芸学芸係長	早瀬 忠幸
	次長兼調査係長	西尾 幸剛
	管 理 係 長	岸本 照修

所長 杉田久憲 (兼調査係長)	次長 西尾幸剛	管理係長 岸本照修	栗原伸二、本日祐一、藤岡建紀、水安和
専門学芸係長 (兼学芸学芸係長)	早瀬忠幸	調査係長 (兼部)	栗田茂敏、藤本謙一、宮内慎一、高尾和光
松山市考古館 館長 沢穴貞明		学芸係長 (兼部)	相原秀一、山本健一、河野史知、橋本謙一
		学芸係長 (兼部)	水本弘光、宮崎次弘、小笠原善治、武止良博
		学芸係長 (兼部)	石田和成、北野秀仁、大沢清子
		学芸係長 (兼部)	山之内志郎、小玉野紀子、柳原肇子、野津由佳
		学芸係長 (兼部)	深見真美

整理作業協力者（順不同）

水口あをい・山下満佐子・平岡直美・大西陽子・口之西美春・西本三枝・渡部英子・青野茂子・西川千秋・松本美代子・政本和人・山邊進也・黒田竜弥・山口由浩・田崎真理・高尾久子・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・宮内真弓・中村 崇・猪野美喜子・平岡華美・吉岡智美・森山利恵・木西嘉子・鈴鹿八恵子・丹生谷道代・多知川富美子・矢野久子・萩野ちよみ・岩本美保・木下奈緒美・村上真山美・大野裕子・伊賀瀬京子・篠森千里・石丸由利子・松下郁子・福岡志保美・渡辺佐代枝・末光美恵・新藤奈緒子・菅原紗代・石川千代美・佐伯利枝・忽那理恵・林 頌子・松友山美・新保恵美子・池内芳美・樋口千恵・江島淳子・玉井順子・川添利恵

9. 以下の方々より、ご指導・ご協力を賜った。（順不同・敬称略）

下條信行（愛媛大学）／崎崎博之（愛媛大学）／村上恭通（愛媛大学）／吉山 広（愛媛大学）／三吉秀充（愛媛大学）／内田九州男（愛媛大学）／高瀬哲郎（佐賀県立名護屋城博物館）／宮本長二郎（東北芸術工科大学）／石野博信（徳島文理大学）／武末純一（福岡大学）／岡村道雄（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所）／前岡美知雄（奈良芸術短期大学）／名本二六雄（日本考古学協会会員）／大久保徹也（徳島文理大学）／岡田敏彦（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター）／柴田昌児（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター）／真鍋昭文（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター）／広瀬和雄（奈良女子大学）／田中哲雄（東北芸術工科大学）／三浦正幸（広島大学）／小田富士雄（福岡大学）／亀田修一（岡山理科大学）／大平 茂（兵庫県教育委員会）／谷若倫郎（愛媛県教育委員会）／阿部義平（国立歴史民俗博物館）／山中敏史（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所）／上原真人（京都大学大学院）／田中清美（大阪府文化財協会）

10. ご指導・ご協力を賜りました機関は、次のとおりである。（順不同・敬称略）

文化庁／国立歴史民俗博物館／独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所／愛媛大学／徳島文理大学／奈良芸術短期大学／京都大学／福岡大学／広島大学／岡山理科大学／奈良女子大学／東北芸術工科大学／佐賀県立名護屋城博物館／愛媛県歴史文化博物館／愛媛県立歴史民俗資料館／兵庫県教育委員会／愛媛県教育委員会／日本考古学協会／大阪府文化財協会／財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター／財団法人元興寺文化財研究所／株式会社古環境研究所／株式会社京都科学／四建環境株式会社

11. 本書の仕様は以下のとおりである。

製版 カラー写真・写真図版-175線  
印刷 オフセット印刷  
用紙 カラー写真：マットコート、本文：マットカラーHG  
製本 アジロ綴じ

# 本文目次

I 平成15年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
辻遺跡5次調査地	2
樽味四反地遺跡8次調査地	6
樽味高木遺跡7次調査地	12
樽味高木遺跡8次調査地	16
東本遺跡7次調査地	20
西石井荒神堂遺跡3次調査地	24
西石井遺跡3次調査地	28
北久米遺跡3次調査地	34
七刈屋遺跡4次調査地	38
水泥遺跡	40
水泥遺跡2次調査地	42
南梅本上方遺跡	44
松山城本丸跡3次調査地	48
松山城三之丸2次調査地	50
來住庵寺29次調査地	54
來住庵寺30次調査地	58
久米高畑遺跡57次調査地	60
久米高畑遺跡58次調査地	64
久米高畑遺跡60次調査地	68
久米地区公共工事に伴う確認調査	72
政庁における試掘調査(H14-321)	76
久米官衙遺跡群 ～平成15年度の成果と今後の展望～	82
II 平成15年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
松山市埋蔵文化財本格調査-覧	88
III 平成15年度 保存処理及び出土遺物整理	
1. 平成15年度出土遺物整理の概要	92
2. 保存処理	93
3. 出土遺物整理	97
4. 自然科学分析	107
5. 平田町採取品	120
IV 平成15年度 普及啓発事業	
1. 展示活動	122
2. 教育普及活動	123
3. 収集・保管活動	127
4. 広報・出版活動	127
5. 施設の利用	128
6. 資料の貸出・調査	128
7. 職員研修・会議	131
8. その他	131

## 挿図・写真目次

- 巻頭図版1 樽味四反地遺跡8次調査地 大型建物 古墳時代初頭  
 巻頭図版2 久米官衙遺跡群 政庁遠景  
 巻頭図版3 大連古代ハス

### 辻遺跡5次調査地 ..... 2

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000) | 写真1 調査地遠景 (北より)  |
| 図2 遺構配置図 (縮尺1:60)      | 写真2 遺構完掘状況 (南より) |
| 図3 出土遺物実測図 (縮尺1:3、1:1) |                  |

### 樽味四反地遺跡8次調査地 ..... 6

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000) | 写真1 遺構完掘状況 (北東より)                               |
| 図2 主要遺構配置図 (縮尺1:300)   | 写真2 建物101 (大型建物B) 測量風景<br>(北東より)                |
| 図3 大型建物配置図 (縮尺1:150)   | 写真3 復元的に柱が建てられた建物101<br>(北東より)                  |
|                        | 写真4 現地説明会開催風景 (南東より)                            |
|                        | 写真5 古墳時代中～後期 S B 201～203と<br>中世の S K 205 (北東より) |
|                        | 写真6 古墳時代中～後期の掘立柱建物201<br>(北東より)                 |

### 樽味高木遺跡7次調査地 ..... 12

- |                        |                                 |
|------------------------|---------------------------------|
| 図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000) | 写真1 遺構完掘状況 (北東より)               |
| 図2 主要遺構配置図 (縮尺1:200)   | 写真2 古墳時代中期前半の S B 208<br>(北より)  |
|                        | 写真3 古墳時代中期前半の S B 204<br>(北東より) |

### 樽味高木遺跡8次調査地 ..... 16

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000) | 写真1 1・2区完掘状況 (東より)      |
| 図2 遺構配置図 (縮尺1:250)     | 写真2 3区完掘状況 (東より)        |
|                        | 写真3 S B 201遺物出土状況 (西より) |
|                        | 写真4 S B 204遺物出土状況 (西より) |

### 東本遺跡7次調査地 ..... 20

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)     | 写真1 遺構完掘状況 (北より)            |
| 図2 遺構配置図 (縮尺1:80)          | 写真2 S B 1高床部の主柱穴断面<br>(北より) |
| 図3 出土遺物実測図 (縮尺1:4、1:3、2:3) |                             |

### 西石井荒神堂遺跡3次調査地 ..... 24

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000) | 写真1 遺構完掘状況 (北より) |
| 図2 遺構配置図 (縮尺1:150)     |                  |
| 図3 出土遺物実測図 (縮尺1:4)     |                  |

西石井遺跡3次調査地 .....	28
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 2区遺構完掘状況 (北西より)
図2 調査地測量図 (縮尺1:1,000)	写真2 S E103断面 (西より)
図3 井戸S E301出土遺物実測図 (縮尺1:4)	写真3 S E301遺物出土状況 (西より)
北久米遺跡3次調査地 .....	34
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 遺構完掘状況 (西より)
図2 遺構配置図 (縮尺1:250)	写真2 5区S D7遺物出土状況 (北より)
図3 出土遺物実測図 (縮尺1:3)	
上莉屋遺跡4次調査地 .....	38
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 土坑S K4検出状況 (西より)
水泥遺跡 .....	40
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 1区完掘状況 (南より)
	写真2 完掘状況 (南より)
水泥遺跡2次調査地 .....	42
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 4区完掘状況 (北東より)
	写真2 調査地全景 (南より)
南梅本七方遺跡 .....	44
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 1区完掘状況 (北より)
図2 1区遺構配置図 (縮尺1:150)	写真2 S D4完掘状況 (北西より)
図3 出土遺物実測図 (縮尺1:3)	
松山城本丸跡3次調査地 .....	48
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地全景 (南より)
	写真2 S D1完掘状況 (北より)
	写真3 S D1遺物出土状況 (北より)
	写真4 S D1側石検出状況 (北より)
松山城三之丸2次調査地 .....	50
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 VI区完掘状況 (北西より)
図2 調査区位置図 (縮尺1:1,000)	写真2 VII区石垣完掘状況 (北東より)
図3 VI区遺構配置図 (縮尺1:100)	
来住庵寺29次調査地 .....	54
図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地遠景 (北東より)
図2 遺構配置図 (縮尺1:100)	写真2 調査地近景 (北より)
図3 S T001測量図・出土遺物実測図 (縮尺1:20、1:3)	写真3 S T001半截状況 (東より)
	写真4 S T001遺物出土状況 (南より)

来住廃寺30次調査地 .....	58
図1 調査地位位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査区全景 (北より)
図2 遺構配置図 (縮尺1:150)	
久米高畑遺跡57次調査地 .....	60
図1 調査地位位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地全景 (南東より)
図2 遺構配置図 (縮尺1:200)	写真2 西部完掘状況 (南より)
	写真3 掘立001全景 (東より)
	写真4 南東部竪穴式住居址群完掘状況 (西より)
久米高畑遺跡58次調査地 .....	64
図1 調査地位位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地全景 (北より)
図2 遺構配置図 (縮尺1:250)	写真2 竪穴式住居址群調査状況 (北より)
	写真3 S B02・S X01遺物出土状況 (東より)
久米高畑遺跡60次調査地 .....	68
図1 調査地位位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地全景 (北西より)
図2 遺構配置図 (縮尺1:200)	写真2 S B001完掘状況 (北より)
図3 出土遺物実測図 (縮尺1:3、1:2、2:3)	写真3 S B001遺物出土状況 (南より)
	写真4 S K004完掘状況 (南西より)
	写真5 S K013完掘状況 (北東より)
久米地区公共工事に伴う確認調査 .....	72
図1 調査地位位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 T 6完掘状況 (南西より)
図2 確認調査トレンチ位置図 (縮尺1:1,500)	写真2 T20自然流路完掘状況 (南より)
図3 出土遺物実測図 (縮尺1:3、1:2)	
政庁における試掘調査 (H14-321) .....	76
図1 調査地位位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地北部検出状況 (南より)
図2 政庁周辺における遺構配置図 (縮尺1:600)	写真2 S D1完掘状況 (北東より)
図3 S D1遺物出土状況図 (縮尺1:20)	写真3 S D1土層堆積状況と出土遺物 (東より)
図4 調査地北部遺構配置図 (縮尺1:200)	写真4 S D1須恵器出土状況 (北東より)
久米官衙遺跡群 ～平成15年度の成果と今後の展望～ .....	82
図1 来住廃寺5次・S D6ならびにS X1遺物出土状況図 (縮尺1:100、1:6)	
図2 S D6ならびにS X1位置図 (縮尺1:500)	
図3 久米官衙遺跡群全体図 (縮尺1:2,000)	
松山市埋蔵文化財調査関係資料 .....	88
図1 松山市埋蔵文化財本格調査位置図 (縮尺1:75,000)	

2. 保存処理 .....	93
写真1 瀬戸風峠1号墳出土轡(処理前)	
写真2 瀬戸風峠1号墳出土轡(処理後)	
写真3 瀬戸風峠1号墳出土鉄斧(処理前)	
写真4 瀬戸風峠1号墳出土鉄斧(処理後)	
写真5 瀬戸風峠1号墳出土刀子(処理前)	
写真6 瀬戸風峠1号墳出土刀子(処理後)	
写真7 瀬戸風峠1号墳出土鍬身部(処理前)	
写真8 瀬戸風峠1号墳出土鍬基部(処理前)	
写真9 瀬戸風峠1号墳出土鍬(処理後)	
写真10 瀬戸風峠1号墳出土鍬側面(処理後)	
写真11 福音小学校構内遺跡出土鋤造鉄斧(処理前)	
写真12 福音小学校構内遺跡出土鋤造鉄斧(処理前)	
写真13 福音小学校構内遺跡出土鋤造鉄斧(処理後)	
写真14 福音小学校構内遺跡出土摘鎌(処理前)	
写真15 福音小学校構内遺跡出土摘鎌(処理後)	
写真16 福音小学校構内遺跡出土鋤・鋤先(処理前)	
写真17 福音小学校構内遺跡出土鋤・鋤先(処理後)	
3. 出土遺物整理 .....	97
図1 陶質・陶質系土器(縮尺1:6)	
図2 非陶器系須恵器(1)(縮尺1:6)	
図3 非陶器系須恵器(2)(縮尺1:6)	
図4 軟質・軟質系土器(1)(縮尺1:6)	
図5 軟質・軟質系土器(2)(縮尺1:6)	
図6 瓦質系土器(縮尺1:6)	
4. 自然科学分析 .....	107
図1 久米高畑遺跡27次調査地における植物珪酸体分析結果	
図2 試料サンプル地点(縮尺1:60、1:20、1:40)	
写真1 久米高畑遺跡27次調査地出土の植物珪酸体の顕微鏡写真(1)	
写真2 久米高畑遺跡27次調査地出土の植物珪酸体の顕微鏡写真(2)	
写真3 花粉・胞子遺体の顕微鏡写真	
写真4 久米高畑遺跡27次調査地出土炭化材の顕微鏡写真	
5. 平田町採取品 .....	120
図1 位置図(縮尺1:5,000)	
図2 採取遺物実測図(縮尺1:6)	
6. 普及啓発事業 .....	122
写真1 特別展風景	
写真2 「とことん考古学Ⅲ」第3回風景	
写真3 「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう!Ⅲ」風景	
写真4 「ガラス勾玉を作ろう!Ⅳ」風景	
写真5 「伊豫のまほろば探訪Ⅲ」風景	
写真6 出前考古学教室風景(松山市立北中学校)	

# 表 目 次

Ⅱ 松山市埋蔵文化財調査関係資料 .....	88
表1 平成15年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧	
Ⅲ 保存処理及び出土遺物整理	
2. 保存処理 .....	93
表1 平成15年度 金属製品保存処理遺跡名一覧	
表2 平成15年度 調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧	
3. 出土遺物整理 .....	97
表1 陶質土器・陶質系土器一覧	
表2 非陶器系須恵器一覧	
表3 軟質土器・軟質系土器一覧	
表4 瓦質土器・瓦質系土器一覧	
4. 自然科学分析 .....	107
表1 久米高畑遺跡27次調査地における植物珪酸体分析結果	
表2 久米高畑遺跡27次調査地における植物珪酸体の分類	
表3 久米高畑遺跡27次調査地における花粉分析結果	
表4 久米高畑遺跡27次調査で出土した炭化材の樹種同定結果表	
Ⅳ 普及啓発事業 .....	122
表1 展示活動一覧表	
表2 教育普及活動一覧表(1)	
表3 教育普及活動一覧表(2)	
表4 教育普及活動一覧表(3)	
表5 教育普及活動一覧表(4)	
表6 教育普及活動一覧表(5)	
表7 出版物一覧表(1)	
表8 出版物一覧表(2)	
表9 施設利用一覧表	
表10 資料の貸出一覧表	
表11 資料の調査一覧表	
表12 職員研修・会議一覧表	
表13 平成15年度 考古館月別入館者数調（平成15年4月1日～16年3月31日）	



# I 平成15年度 松山市埋蔵文化財調査概要

## つし 辻遺跡5次調査地

所在地	松山市南江戸5丁目1529-2・ 1529-1の一部
期間	平成15年8月5日～同年8月29日
面積	245.35㎡
担当	河野史知



図1 調査地位置図

**経 過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地〔No.33大峰ヶ台弥生遺跡B・大峰ヶ台古墳群B〕内における宅地開発に伴う事前調査である。周辺地域では以前より調査が行われ、調査地の北西約350mの大峰ヶ台丘陵頂上部には弥生時代中期の高地性集落である大峰ヶ台遺跡4次調査地、北側約100mの辻遺跡からは弥生時代後期の土器群が検出されている。北東隣の辻遺跡2次調査地からは、古墳時代後期や中世の集落跡が検出され、東側の松山環状線の調査である南江戸桑田遺跡2次、辻遺跡3次・4次調査地からは、古墳時代から近世にかけての集落跡が検出されている。

**遺構・遺物** 調査地は、松山平野西部、大峰ヶ台丘陵東麓の標高約26～27mに立地する。基本層序は、第Ⅰ層明褐色土、第Ⅱ層明黄褐色土、第Ⅲ層にぶい黄褐色土、第Ⅳ層黄褐色土であり、西から東へ高低差1.25mの傾斜を測る。第Ⅲ層は、調査区の最も高い西端中央部を除くほぼ全域において堆積しており、土師器・須恵器を包含する古墳時代の堆積層であることが判った。

今回の調査では、古墳時代の遺構や遺物を検出した。遺構は、第Ⅳ層上面から掘立柱建物址3棟、柵列1条、土坑3基、溝3条、柱穴21基、性格不明遺構1基を検出した。遺物は、土師器・須恵器・石器が出土した。

**【古墳時代】** 調査区内の傾斜面上には、西端と東端の南北方向に段を有する。西端の段は、埋土から古墳時代に埋没しており、東端の段は、埋土から古墳時代以降のものと考えられる。掘立1の西側は東側に比べて深く掘られており、傾斜部に構築する際に掘立柱建物の基底面は、水平を意識して掘削を行っている。掘立2は柱穴の平面形態が方形でほぼ垂直に掘られているが、北側の1基だけは円形を呈している。掘立3は掘立1・2に比べ規模の小さい掘立柱建物址で、掘立2と平行な位置関係にある。柵列SA1は4本の柱穴が南北に並んでいるが、調査区外の東側に延びる掘立柱建物址の可能性もある。SX1は溝状に延びているが、基底面がほぼ平坦になっており、僅かではあるが焼成を受けた粘土塊や炭を検出していることから、工房跡の可能性をもつ。

**【近世以降】** SK1の基底面から出土した棟瓦は、並べられた状態で出土しており意図的に埋納された可能性がある。

**小 結** 今回の調査では、大峰ヶ台丘陵東麓部の緩斜面上に古墳時代後期の集落跡が確認できた。今後は調査地周辺の遺跡との関連性を検討し、集落構造を解明することが課題である。

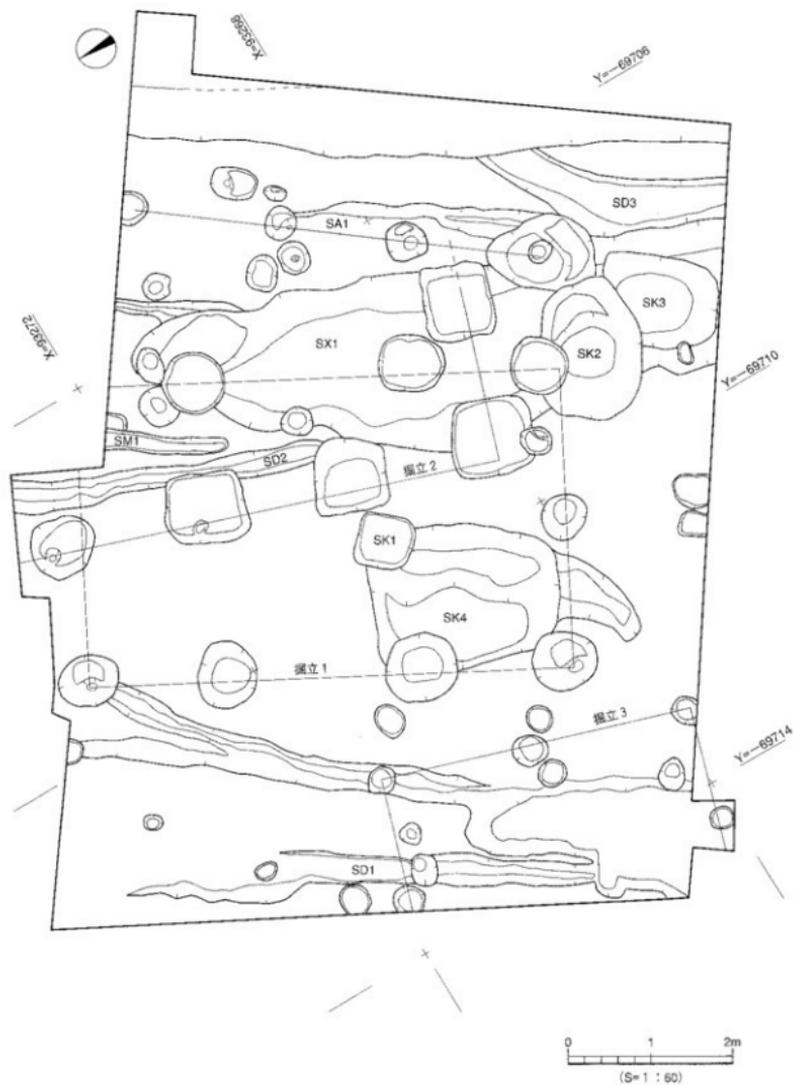
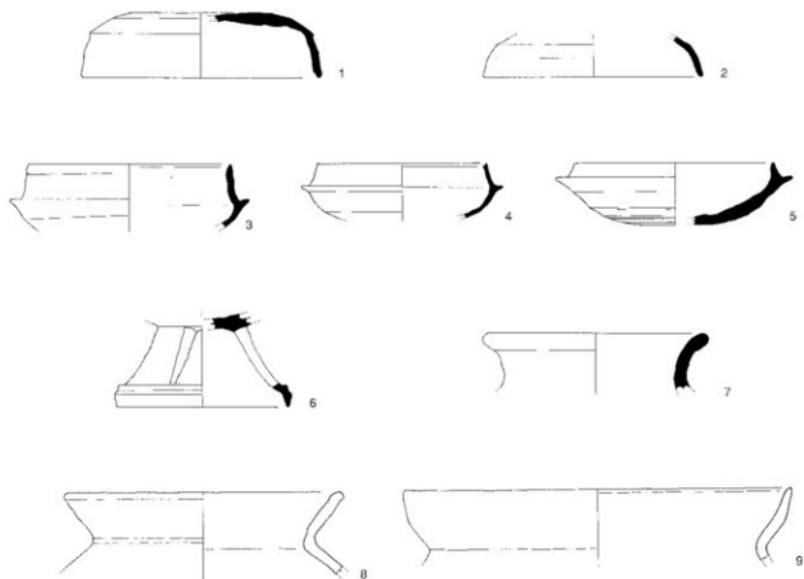


図2 遺構配置図



孤立 1 : 2  
 SK 1 : 11  
 SK 2 : 3  
 SK 3 : 1・4・8  
 SD 1 : 7  
 SD 2 : 12  
 SX 1 : 5・9  
 第三層 : 6・10

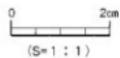
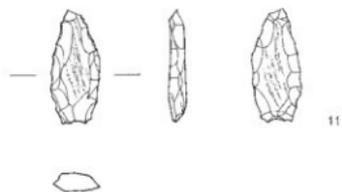
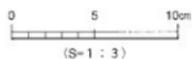
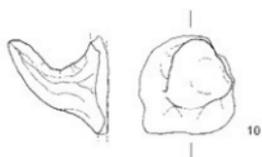


図3 出土遺物実測図



写真1 調査地遠景（北より）



写真2 遺構完掘状況（南より）

## 榑味四反地遺跡 8 次調査地

所在地	松山市榑味4丁目229番 外
期間	平成15年4月10日～同年9月15日
面積	1,177.9㎡
担当	加島次郎・高尾和長



図1 調査地位置図

**経過** 本調査は、松山市道榑味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『No81榑味遺物包含地』内にあり、周知の遺跡として知られている。調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は水田と畑であった。現地地形は調査地の南西側を通る市道桑原50号線を境界として、この南西側に比べ地表面が3m程度高くなっており、標高はおよそ39mを測る。周辺では、これまでに枝松遺跡1～6次、榑味四反地遺跡1～7次、榑味高木遺跡1～6次の調査等、数多くの本格調査が実施され、周知の遺跡として知られている。試掘調査を実施したところ、竪穴式住居址、土坑、柱穴等を多数検出し、さらに弥生時代から中世の遺物包含層が確認されたことから、集落の帰属時期とその広がり、古地形と古環境復元の為の基礎データ収集を主目的として、本格調査を実施することとなった。

**遺構・遺物** 基本層位は第Ⅰ層耕作土（層厚20cm）、第Ⅱ層灰黄褐色土（層厚5～7cm）、第Ⅲ層黒色土（層厚10～50cm）、第Ⅳ層にぶい黄橙色土（層厚10～85cm）、第Ⅴ層褐色砂礫である。

遺物包含層は第Ⅱ層と第Ⅲ層である。第Ⅱ層は碎片化した土師器と陶磁器とがわずかにみられることから、中世以降の堆積層と判断される。一方、第Ⅲ層には弥生土器、土師器、須臾器等が多量に包含されており、木層が古代までに堆積した遺物包含層の可能性が高いものと考えられる。

遺構の多くは第Ⅳ層上面にて検出することができたものであり、調査区西半部に多く分布する傾向が認められた。第Ⅳ層上面を地形測量した結果、調査地は北東から南西方向に延びる微高地の南西部にあたり、主稜線から南にやや下がりつつある緩傾斜地であることが判明した。

検出遺構は竪穴式住居址8棟、掘立柱建物址4棟、溝1条、土坑19基、柱穴388基である。各遺構の帰属時期は、検出面と遺構重複関係、遺構内埋土と出土遺物をもとに、五段階に大別することが可能である。以下では、時期毎に主要な遺構を抽出し、その概略を説明する。

【古墳時代初頭以前】 調査区西半部に位置するS D101が該当する。この溝は北西～南東方向へ延びる溝で、規模は、検出長16m、幅0.4～0.5m、横断面形態は逆台形を呈する。埋土は極暗褐色を帯びた黒色土で、溝底面にはわずかに砂粒を含む。遺物は出土していないが、本遺構は後述する建物101を構成する柱穴とS K114に切られている。

【古墳時代初頭】 調査区西半部に位置する建物101が該当し、本調査において最も注目される遺構のひとつである。建物の一部は調査地外へ続くため、北側の柱穴の多くは未検出である。建物の平面形態は長方形を呈し、規模は、梁間6間（南北方向11.5m）、桁行6間（東西方向13.3m）、床面積152.9㎡を測る。柱通り全てに柱を有す総柱建物で、「床束式」高床構造の建物と考えられる。建物を構成する柱穴には副柱と束柱とがあり、両者には相対的に掘り方と柱径の規模に違いがある。

側柱の柱穴は、平面形態が隅丸長方形を指向し、縦断面の片側（外寄り）に段を有した二段掘り状を呈することを基本とする。掘り方規模は長軸方向が1.3～2.5m（平均値1.8m）、短軸方向が0.8～1.5m（平均値1.1m）、深さは現存で0.5～0.9m（平均値0.7m）を測り、掘り方埋土には版築状にたき締められた状況が観察された。検出した18基の側柱の柱穴のうち、6基において柱痕を確認した。柱痕は柱穴掘り方の内寄りに位置し、直径40cmを測る。一方、東柱の柱穴は、平面形態が隅丸長方形を指向するが、二段掘り状を呈するものはない。掘り方規模は長軸方向が0.6～1.5m（平均値0.9m）、短軸方向が0.5～1.0m（平均値0.7m）、深さは現存で0.2～0.7m（平均値0.4m）を測る。検出した24基の東柱の柱穴のうち、3基において、直径15～20cmの柱痕を確認した。なお、建物中央に位置する柱穴（柱穴30）は他の東柱と異なり、大きく且つ深く掘られ、柱痕は直径40cmを測る。これは先述した側柱の柱穴と共通するものとなる。柱穴30は、床を支えるだけでなく、天井まで柱が通る「屋内棟持ち柱」として機能していた可能性があり、これは建物の構造を考える上で興味深い。

遺物は柱穴埋上や柱痕から土器が一定量出土しているが、いずれも破片であり完存するものはみられない。本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断する限り、古墳時代初頭に位置付けられる。なお、側柱の柱穴には、二段掘りの段部、すなわち柱痕の外側のおよそ1.20m（平均値）の位置で、直径20cm程度の立柱痕を有するものがあり、建物に縁や庇が取り付く可能性が考えられる。

【古墳時代中期～後期】調査区西半部のS B 104と105、同中央部のS B 201～206、掘立柱建物201～203が該当する。S B（竪穴式住居跡）は隅丸方形を呈するものに限られる。帰属時期が中期前半と中期末～後期初頭に区分され、前者は土師器で構成され、須恵器を伴わない可能性が高い。

【古代】調査区西半部のS K 114が該当し、S D 101と建物101を切る（後続する）。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸2.8m、短軸1.1m、深さは0.2mを測り、埋土は灰色みを帯びた黒色土である。床面からは人頭～握り拳大の礫とともに、土師器の坏、須恵器の壺や高台付坏などが出土した。

【中世】調査区中央部のS K 205が該当し、平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸2.7m、短軸2.3m、深さ1.4mを測る。埋土は黄灰色土である。遺物は、土師器の坏・三足付羽釜、須恵器が出土した。

小 結 本調査では、古墳時代初頭以前、古墳時代初頭、古墳時代中～後期、古代、中世の各期の遺構と遺物を確認することができた。確認された遺構の大半は生活関連遺構であり、これは既往の調査成果を追認するものである。ただし、古墳時代初頭の建物101は、該期のものとしては日本列島においては屈指の規模を誇り、その構造とともに注目される遺構となる。過去（平成10年度）に調査された樽味四反池遺跡6次調査地からは同時期の建物（床面積128.6㎡）が確認され、これは建物101とは直交する位置関係にあるものの、建物間はずか5mと近接し、西側の柱筋は同一線上にある。両者の出土遺物には大きな時期差は認めることはできず、建物の配置が計画的であったことを示唆している。これにより、本遺跡が立地する石手川中流域南岸の微高地南西端には、松山平野を統括していた、いわゆる首長にかかわる重要な建物群が存在していたことが確定的となった。弥生時代から古墳時代への移行期における階級社会の発達と権力者の出現・確立の過程を考える上で、極めて重要な調査事例となる。なお、過去の調査で指摘された溝と柵列による区画施設が伴うとの見解については、本調査では溝と柵列を検出するに至らなかったことから、少なくとも建物群の東側にはこれらが展開する可能性は低く、建物群を囲繞するものにならないことを付記しておきたい。（加島）



図2 主要遺構配置図

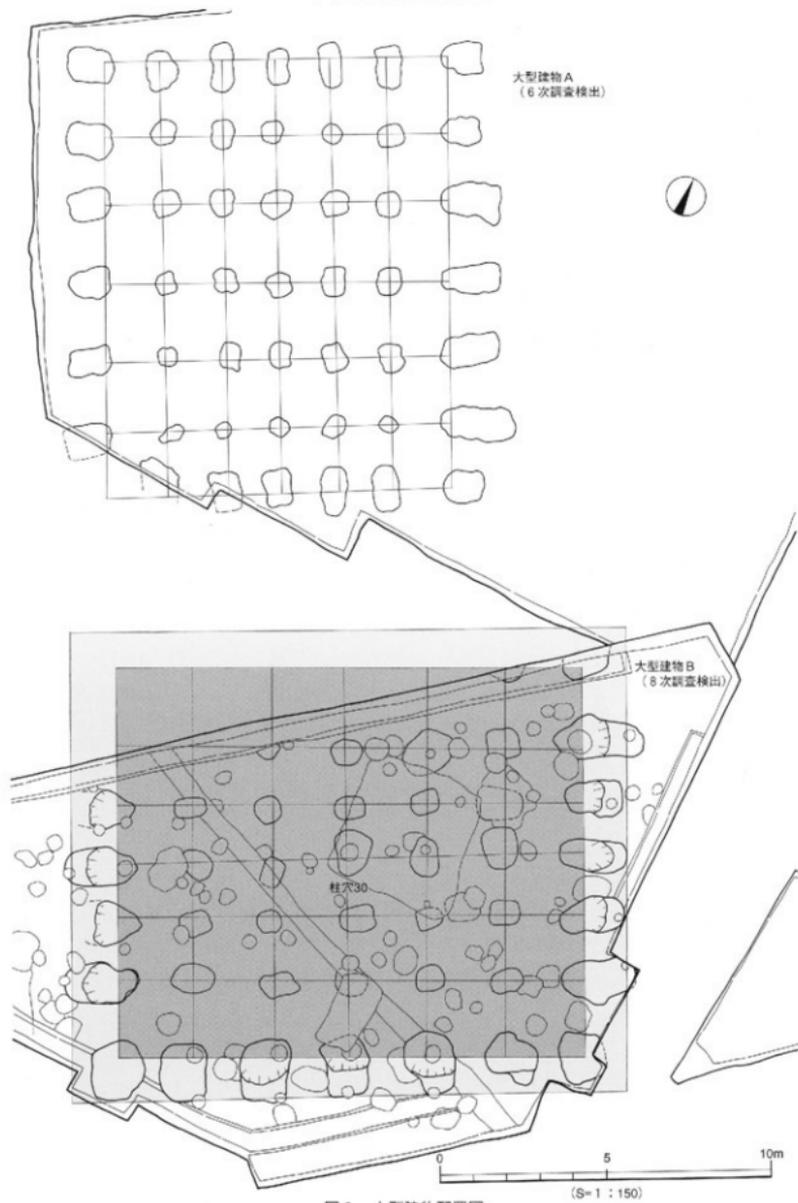


図3 大型建物配置図



写真1 遺構完掘状況(北東より)



写真2 建物101(大型建物B)測量風景(北東より)



写真3 復元的に柱が建てられた建物101(北東より)



写真4 現地説明会開催風景(南東より)



写真5 古墳時代中～後期のS B201～203と中世のS K205（北東より）



写真6 古墳時代中～後期の掘立柱建物201（北東より）

## 樽味高木遺跡7次調査地

所在地	松山市樽味4丁目260番 外
期間	平成15年4月10日～同年9月15日
面積	671.63㎡
担当	高尾和長・加島次郎



図1 調査地位位置図

**経過** 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『No81樽味遺物包含地』内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は水田と畑であった。現地形は調査地の南西側を通る市道桑原50号線を境界として、この南西側に比べて地表面が4m程度高くなっており、標高はおおよそ40mを測る。周辺では、これまでに枝松遺跡1～6次、樽味四反地遺跡1～7次、樽味高木遺跡1～6次の調査等、数多くの本格調査が実施され、周知の遺跡として知られている。試掘調査を実施したところ、土坑、柱穴等を多数検出し、さらに弥生時代～古代の遺物包含層が確認されたことから、集落の帰属時期とその広がり、古地形と古環境復元のための基礎データを得ることを主目的として、本格調査を実施する運びとなった。

**遺構・遺物** 基本層位は第Ⅰ層耕作土（層厚20cm）、第Ⅱ層灰黄褐色土（層厚5～7cm）、第Ⅲ層黒色土（層厚10～50cm）、第Ⅳ層にぶい黄橙色土（層厚10～85cm）、第Ⅴ層褐色砂礫である。

遺物包含層は第Ⅱ層と第Ⅲ層である。第Ⅱ層は碎片化した土師器と陶磁器とがわずかにみられることから、中世以降の堆積層と判断される。一方、第Ⅲ層には弥生土器、土師器、須恵器等が多量に包含されており、本層が古代までに堆積した遺物包含層の可能性が高いものと考えられる。

遺構の多くは第Ⅳ層上面にて検出できたものであり、遺構は調査区のほぼ全域に分布する。第Ⅳ層上面の地形を測量したところ、調査地は北東から南西方向に延びる微高地にあたることが判明している。

検出遺構は竪穴式住居址13棟、土坑9基、柱穴153基である。これらの帰属時期は、検出面と遺構重複関係、遺構内埋土と出土遺物をもとに、弥生時代中期後葉～後期前葉と古墳時代中期前半の二段階に大別でき、後者が圧倒的の主体を占める。特筆すべきはS B204とS B208で、一定量の出土遺物が各々に伴っており、これらは該期の松山平野における基準資料を補うものとなろう。

**小結** 本調査では、弥生時代中期後葉と古墳時代中期前半の遺構と遺物を確認することができた。調査によって検出した遺構の大半は生活関連遺構であるが、後者は既往の調査では稀少であったことから、これを補う調査事例となる。古墳時代中期前半の主要遺構が竪穴式住居址であることから、該期の集落の広がりや構造を考える上で、興味深いものとなる。さらに、昨年度実施した樽味四反地遺跡7次調査地検出のS B304からは同時期の軟質土器（把手付き鍋）と算盤玉形紡錘車が確認されており、該期における、いわゆる中国大陸や朝鮮半島から日本へ渡ってきた人々（渡来人）との文化交流と、これに伴う在地文化の変容を検証していく上で、興味深い調査事例となろう。（加島）

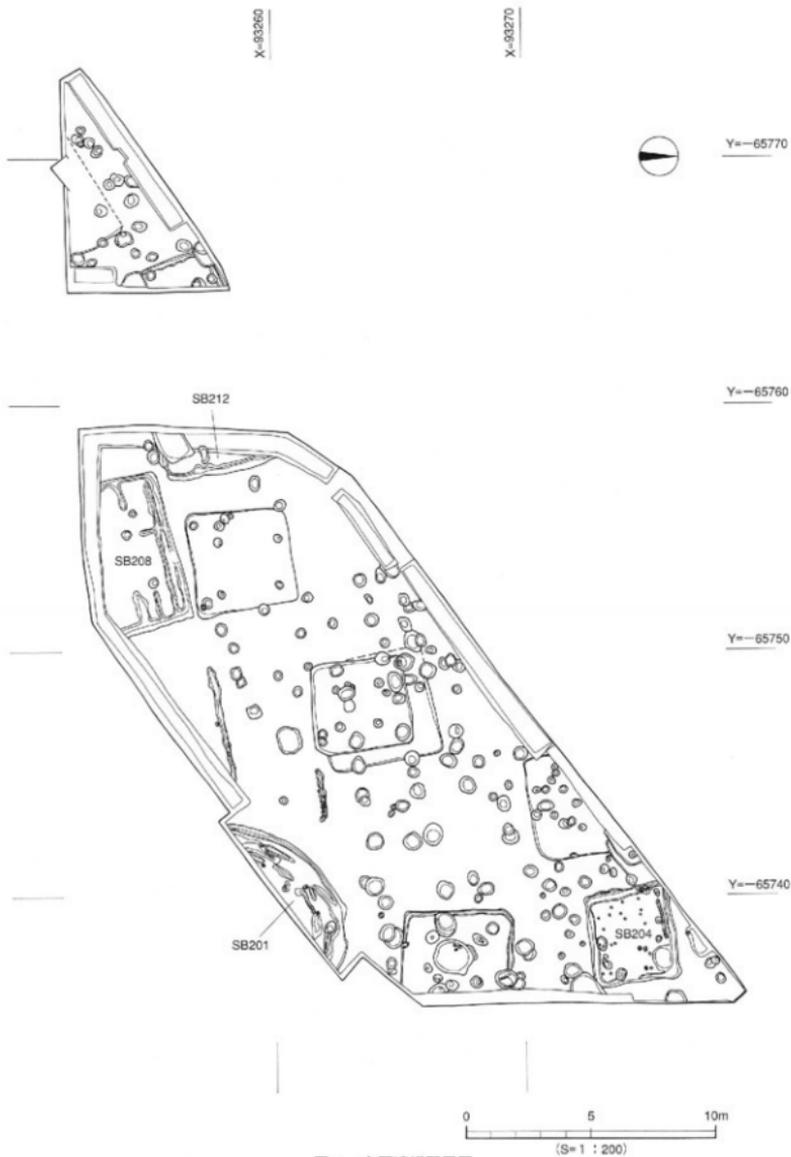


図2 主要遺構配置図



写真1 遺構完掘状況（北東より）



写真2 古墳時代中期前半のS B208（北より）

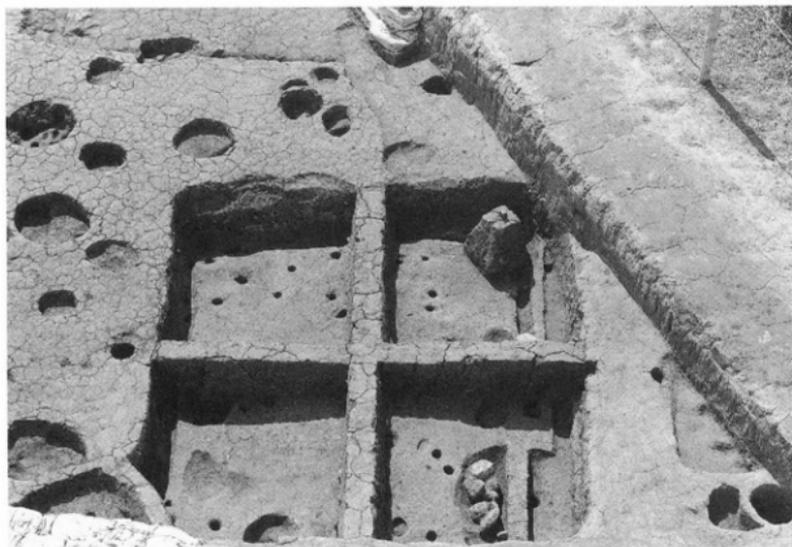


写真3 古墳時代中期前半のS B204（北東より）

## 樽味高木遺跡 8次調査地

所在地	松山市樽味2丁目90番 外
期 間	平成15年8月1日～16年1月30日
面 積	1,217.03㎡
担 当	高尾和長・加島次郎



図1 調査地位置図

**経 過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No81樽味遺物包含地』内における松山市道樽味清辺線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野を西流する石手川中流域の左岸に位置する。調査地周辺では、北に弥生時代後期～古代の樽味立添遺跡、南側には弥生時代中期～後期の樽味高木遺跡、弥生時代中期～中世の樽味四反地遺跡、弥生時代前期～古墳時代後期の樽味遺跡、西側には弥生時代～中世の枝松遺跡や東本遺跡がある。これらのことから、弥生時代から中世の集落関連遺構の広がりや構造解明を主目的として調査を実施した。

**遺構・遺物** 調査地は、石手川中流域左岸の扇状地上の微高地に立地し、標高42.60mを測る。調査以前は水田として利用されていた。調査区内には水路が通る関係上、調査区を西から1区・2区・3区と区分し1区から調査を行った。基本層位は4層に分層できる。第1層耕作土は調査区全域で検出した。第2層は3層に細分でき、第Ⅱ①層床土、第Ⅱ②層旧耕作土で調査区全域で検出した。第Ⅱ③層灰色砂質土は調査区南西部と北部中央で検出し、土師器、須恵器が出土した。第Ⅲ層黒色土は1区・2区全域と3区北西部で検出し、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。第Ⅳ層黄褐色土は調査区全域で検出した。遺構は、第Ⅳ層上面にて検出した。

検出遺構は、竪穴式住居18棟、土坑4基、溝3条、性格不明遺構5基、柱穴365基（小穴含む）である。これらの遺構は弥生時代後期、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代中期～後期、古代、中世の5基に大別でき、古墳時代中期～後期に帰属するものが多い。遺物は弥生土器（甕形土器、壺形土器、鉢形土器、鉢形土器、高坏形土器、支脚形土器）、土師器（甕形土器、壺形土器、高坏形土器、甕形土器）、須恵器（坏、高坏、壺、壺）、石器（鎌、台石、蔽石）、鉄器（鋤先、鉄鎌）が出土した。

**小 結** 本調査では、弥生時代後期から古代までの遺構・遺物を検出した。

遺構は、竪穴式住居と溝との関係が注目される。3区北東部から南西部に検出した溝S D301は、弥生時代後期末から古墳時代にかけて機能していたことが出土遺物から判明した。このS D301を境にして、西側からは弥生時代後期から古墳時代中期までの竪穴式住居を検出したが、東側からは竪穴式住居が検出されなかった。また、溝の埋土は粘質土が覆い水が流れた状態でない。このことから、溝S D301は調査区の西側にある集落を区切る溝ではないかと考えられる。

遺物は、須恵器、土師器、石製品、鉄製品がある。その中には、須恵器の算盤玉紡錘車、平底の小型壺があり、松山平野でも出土例の少ない貴重なものである。これらの遺構と遺物の検出により、古墳時代中期には調査地周辺が松山平野の主要な遺跡地帯のひとつであることが考えられ、今後の調査と整理によって集落の広がりがより明確になるものと思われる。（高尾）

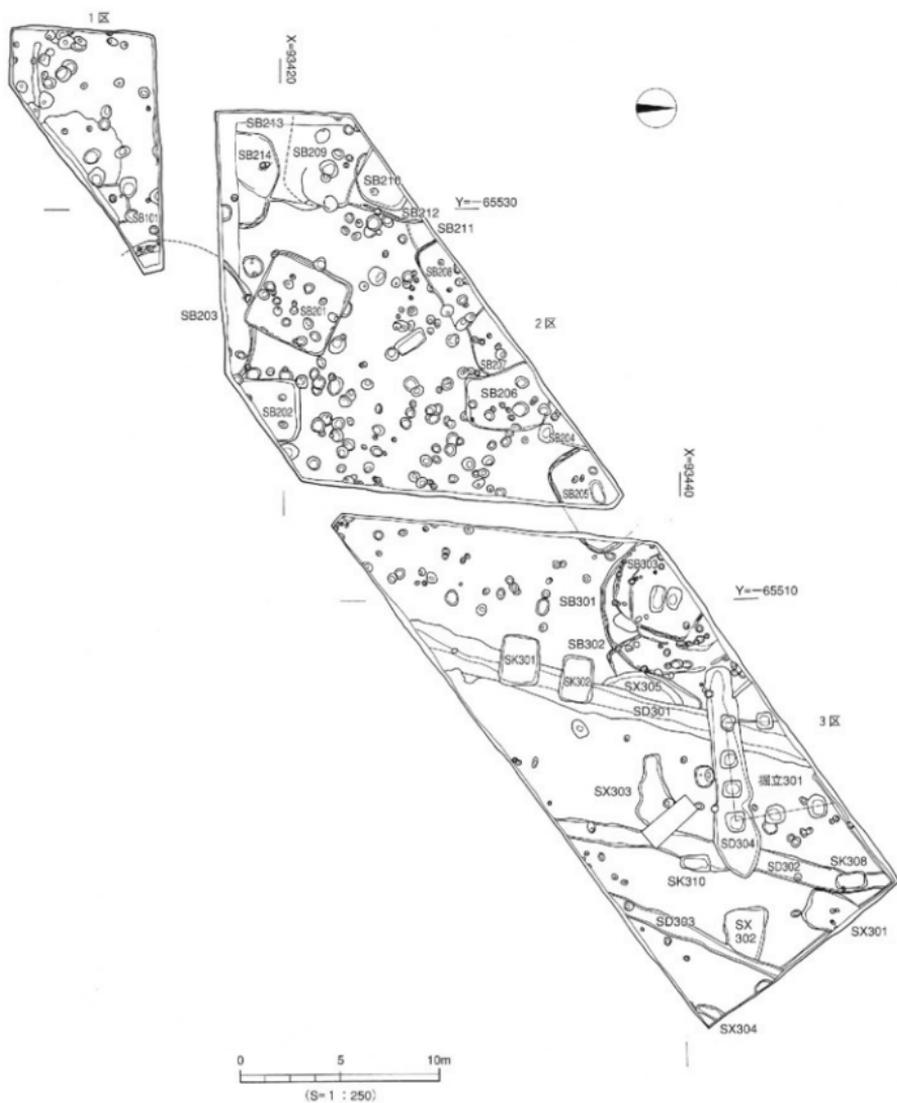


図2 遺構配置図

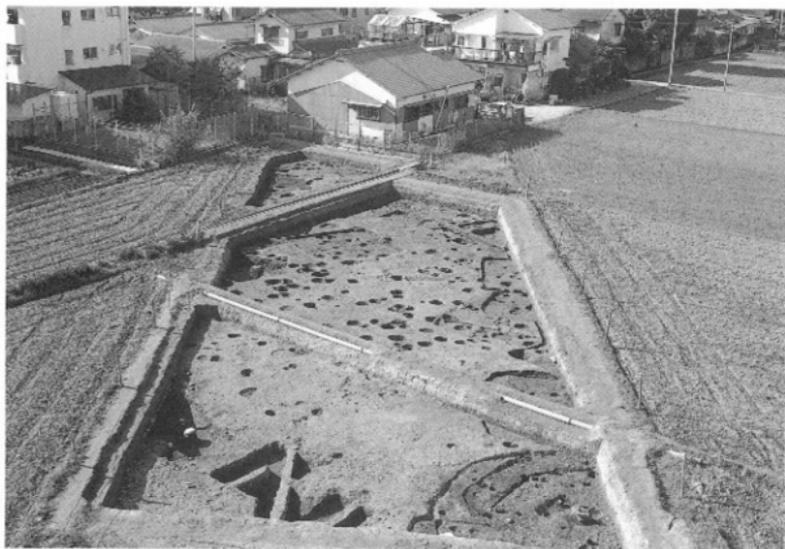


写真1 1・2区完掘状況(東より)



写真2 3区完掘状況(東より)



写真3 SB201遺物出土状況（西より）



写真4 SB204遺物出土状況（西より）

## つかもと 東本遺跡 7次調査地

所在地	松山市東本1丁目119番5
期間	平成16年2月2日～同年3月19日
面積	165.30㎡
担当	河野史知



図1 調査地位位置図

**経過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No83枝松遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。同包含地内では、これまでに数多くの調査が行われ、弥生時代から古墳時代にかけての集落関連遺構や遺物が多数検出されている。なかでも調査地西側の東本遺跡4次調査地では、円形の大型竪穴式住居址内から青銅鏡が出土し、東本遺跡の弥生集落は、松山平野の拠点集落であることが判明している。

**遺構・遺物** 調査地は、石手川左岸の低位段丘上、標高35mに立地する。基本土層は第Ⅰ層浅黄色土（造成土）、第Ⅱ層灰褐色土（水田耕作層）、第Ⅲ層褐色土（水田耕作に伴う床土）、第Ⅳ層黄褐色土（第Ⅲ層以前の堆積土）、第Ⅴ層暗褐色土（灰褐色土塊と黄褐色土塊を多含する）、第Ⅵ層暗褐色土（上面にて遺構を検出）、第Ⅶ層褐色土（土壌に黄色のガラス質細粒を含む性質から、AT火山灰の2次堆積の可能性が高い。）である。調査では、弥生時代と古代の遺構や遺物を検出した。遺構は竪穴式住居址3棟、溝3条、土坑5基、柱穴21基がある。遺物は主に遺構内から出土したものであり、弥生土器、石器、鉄器、種子等がある。

S B 1は、西隣の東本遺跡5次調査地の南東隅で検出した竪穴式住居址につながる東半部であり、竪穴式住居址を合成すると、東西規模は約10mを測る大型の竪穴式住居址となる。内部施設には、高床部の内側角部には主柱穴があり、中央部にも2本分を検出したことから4本柱を配する二重構造をもつ。また、高床部の主柱穴の内側にも貼床の下から主柱穴や周壁溝を検出したことから、主柱穴の位置をずらして住居を建て替えたことが判明した。住居址床面で検出した円形土坑は、S B 1に伴う貯蔵穴と考えられる。南東部の一辺には高床部と異なる地山削り出しの段があり、出入口と考えられる。S B 2の炉跡は、主柱穴間の中央部やや南寄りにあり、5次調査地で検出した炉跡と同様に、南寄りに炉跡を設ける傾向が確認できた。また、床面から主柱穴2本分を検出し、1基の柱穴から口縁部を欠失した長頸壺が出土した。この土器は柱を抜き取った後、柱穴に納められており、建物の廃絶に伴う祭祀に使用された可能性がある。S B 3は、5次調査地東端で検出したS B 7壁体の延長部である。今回の検出で規模が6.1mの方形住居址であることが判り、床面からは長方形土坑の東半部も検出した。S K 1・2は、平面形態が長方形で垂直に掘られ、基底面が平坦なことから貯蔵施設と考えられる。

**小結** 今回の調査では、弥生時代後期末の竪穴式住居址を主とした集落を形成する遺構や遺物など、当時の集落構造を解明する資料が得られた。今後の調査では、調査地周辺で展開している弥生時代末期の詳細な集落構造や住居構造を検討する必要がある。

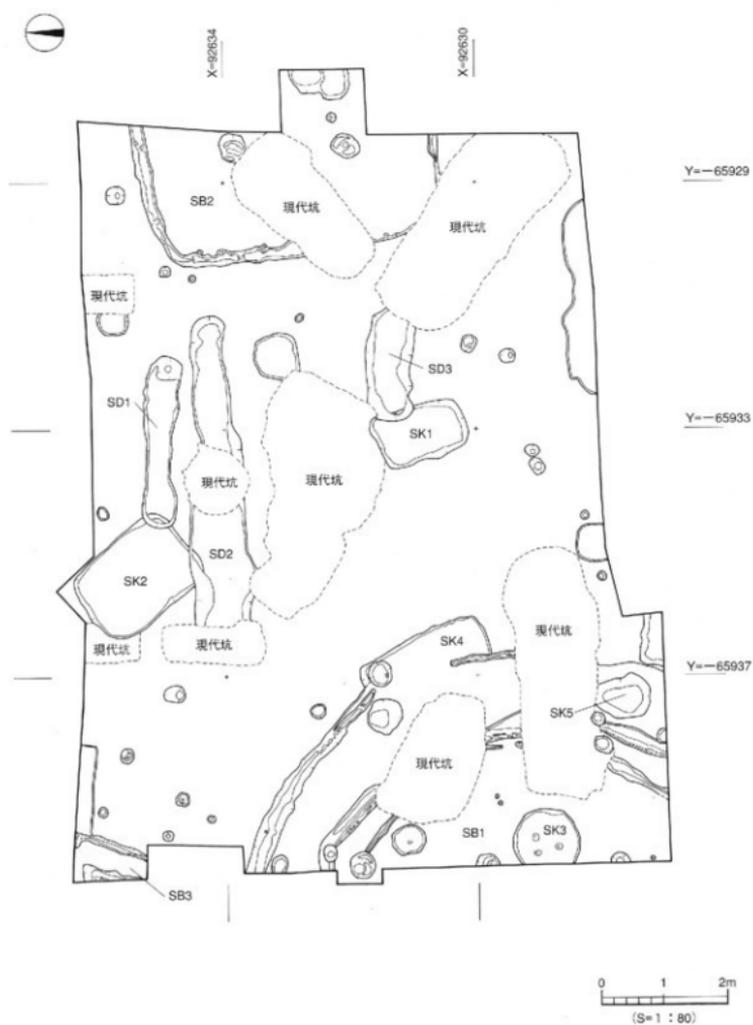


図2 遺構配置図

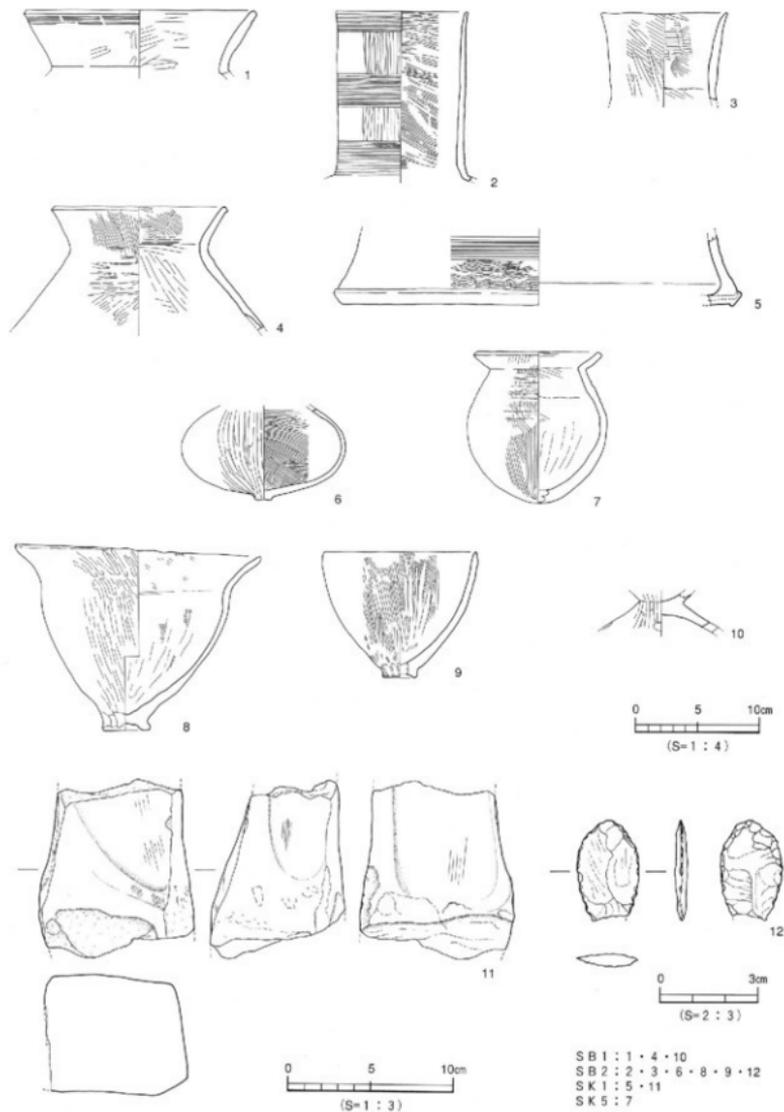


図3 出土遺物実測図

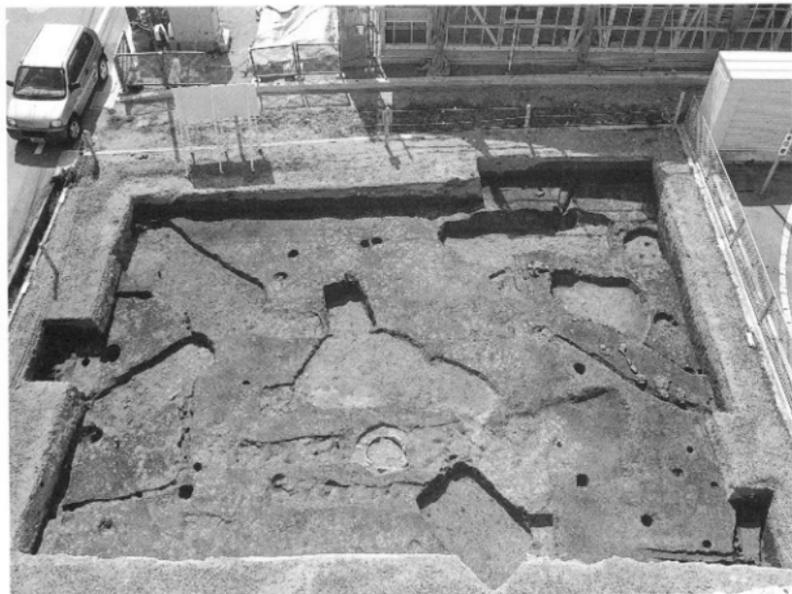


写真1 遺構完掘状況（北より）

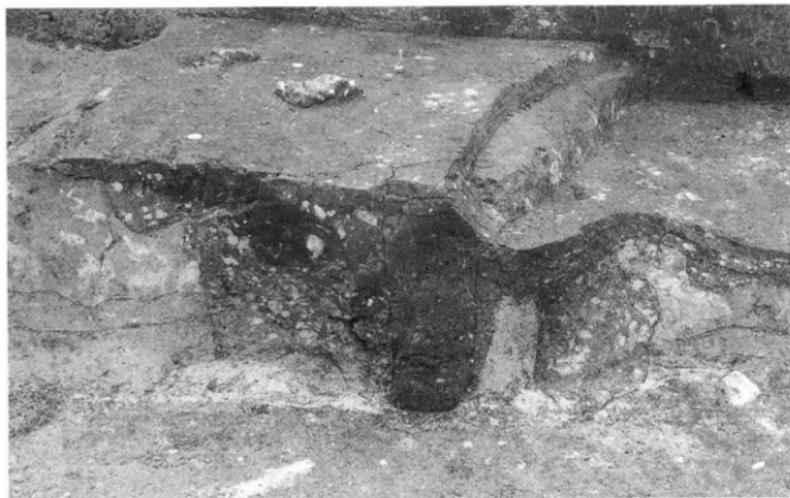


写真2 SB1高床部の支柱穴断面（北より）

## にししい こうじんどう 西石井荒神堂遺跡 3次調査地

所在地	松山市西石井2丁目251番1
期間	平成15年4月14日～同年5月16日
面積	992.38㎡のうち150㎡
担当	河野史知



図1 調査地位置図

**経 過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No119西石井遺物包含地』内における宅地開発に伴う事前調査である。同包含地内では、西石井荒神堂遺跡1・2次調査地や石井幼稚園遺跡1・2次調査地などがあり、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物が多数検出され、集落の存在や規模が明らかになりつつある。

**遺構・遺物** 調査地は、松山平野南部にあり、小野川左岸の沖積低地上、標高20mに立地する。基本層序は、第Ⅰ層灰黄褐色土～暗灰黄色土、第Ⅱ層にぶい黄色土～黄褐色土、第Ⅲ層にぶい黄褐色土、第Ⅳ層灰黄褐色砂礫～褐灰色砂礫である。第Ⅲ層は、第Ⅳ層上面の凹みに堆積し、南側を中心に薄く堆積がみられ、SD1に切られていることから、弥生時代後期後葉以前に堆積していたことが判る。調査地は北側約0.6kmに位置する小野川と、南側約1kmの内川に挟まれた位置に立地することから、第Ⅳ層の砂礫層は旧河川の氾濫原と考えられる。

今回の調査では、弥生時代の遺構や遺物を検出した。遺構は、第Ⅲ層上面から柱穴2基、第Ⅳ層上面から溝1条、性格不明遺構1基を検出した。遺物は、弥生土器・土師器が出土した。

SD1は主軸N-40°-Eを指向する北東方向から南西方向に直線的に延びる溝である。検出長6.1m、上場幅1.9～2.1m、深さ63～74cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は大きく3層に分かれる。上層と中層に含まれる礫は、検出面である第Ⅳ層の礫が流れ込んだものである。下層は薄く溝底付近に堆積するが、SD1の南側に広がる第Ⅲ層の流れ込みと思われる。埋土の堆積状況からSD1が弥生時代後期後葉に掘られ、後期末に埋没したものと考えられる。また、ほぼ直線的に延びており、礫層を掘り込んだ集落を区画する溝と考えられる。調査地の南側約70mに位置する荒神堂遺跡からは、弥生時代後期末の竪穴式住居址や土壇墓を検出しており、SD1はこれらの集落に伴うものと推測される。SD1の北東部で検出した半円形の掘り込みは、円形の様相を呈しており、SD1より古い段階の竪穴式住居址の可能性もある。

**小 結** 荒神堂遺跡の北側周辺での調査例はなく、今回、区画溝を検出したことで弥生時代後期末頃の集落が調査地周辺に広がることが確認できた。SX1は一部だけの検出で内容は不明であるが、浅い溝状遺構の可能性をもつ。今後の周辺の調査では、この溝を伴う集落の広がりを解明することが課題である。

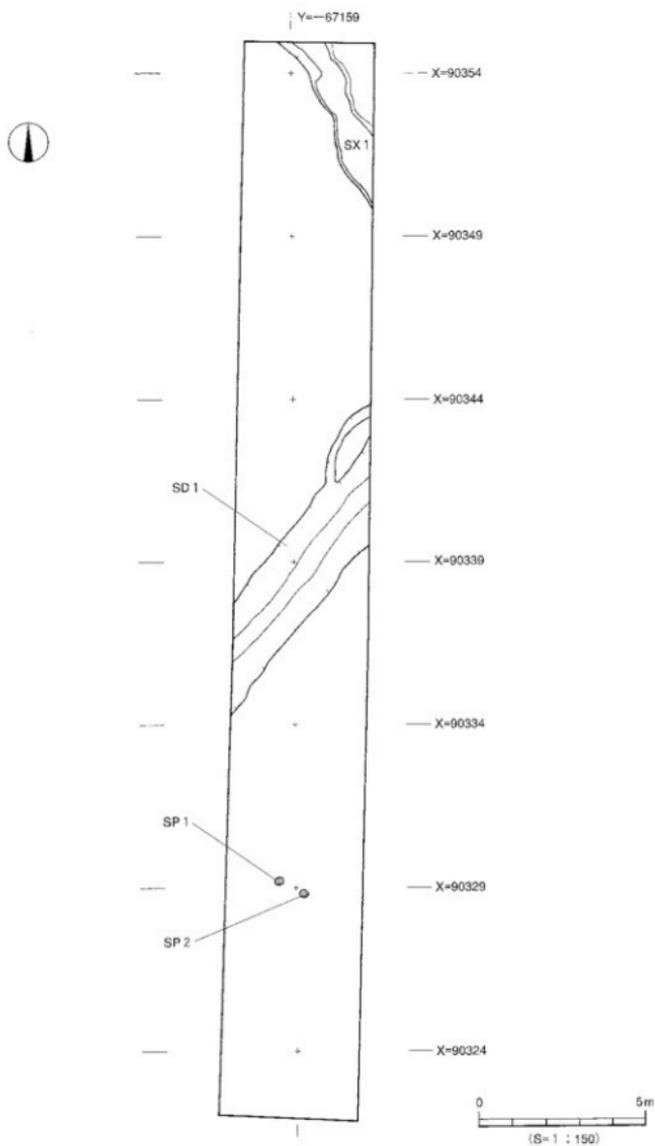
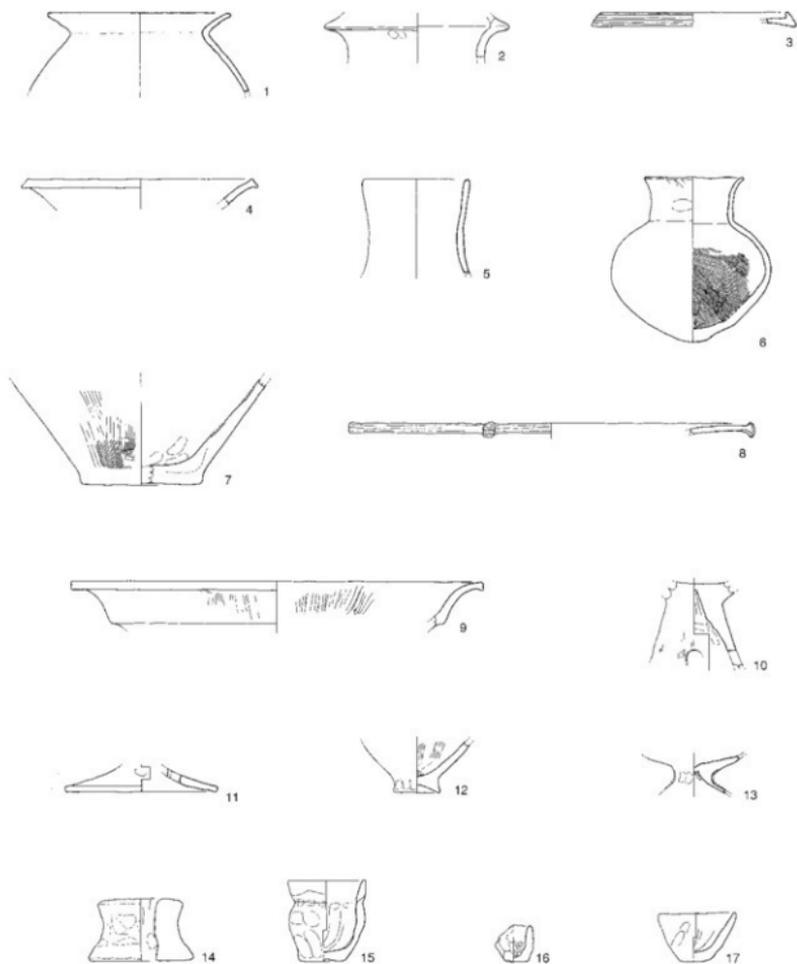


図2 遺構配置図



SD1:1・3~17  
SX1:2

0 5 10cm  
(S=1:4)

図3 出土遺物実測図



写真1 遺構完掘状況（北より）

## にししい 西石井遺跡3次調査地

所在地	松山市西石井6丁目200番地11 外
期間	平成15年3月10日～平成16年2月13日
面積	3,200㎡
担当	宮内慎一・相原秀仁



図1 調査地位置図

**経過** 本調査は、松山市道北久米・和泉線道路改良工事に伴う事前調査である。調査地は、全長230m、道路幅16m、調査対象面積3,200㎡である。調査地の西側では西石井遺跡1次調査が実施され、弥生時代末から古墳時代初頭の竪穴式住居址や溝などの集落遺構が多数確認されている。さらに、北側には西石井荒神堂遺跡があり、弥生時代末の遺構や遺物が確認されている。これらのことから、弥生時代の集落様相や範囲確認を主目的とし、埋蔵文化財センターが主体となり、調査を実施した。調査は、調査地内を3つの地区に分けて実施した。調査地西側から東側に向けて1区、2区、3区とし、3区はさらに3つの区に細分し、3A地区、3B地区、3C地区とした。調査の結果、弥生時代後期から中世の集落遺構や遺物を確認した。

**遺構・遺物** 調査地は松山平野南部、石手川の支流である小野川と重信川の支流である内川の2つの河川の氾濫に起因する扇状地上に位置する。調査以前は宅地であった。現況の地形は北東から南西に向かって緩傾斜をなし、標高21.00～21.70mを測る。

基本土層は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層黒灰黄色土、第Ⅴ層明黄褐色土、第Ⅵ層黄色土、第Ⅶ層黒色粘土、第Ⅷ層茶褐色土、第Ⅸ層灰色砂礫である。第Ⅶ層以下の土層は、調査壁沿いに深掘りトレンチを掘削して堆積状況を確認した。第Ⅰ層は近現代の造成に伴う客土で、地表下12～80cmまで開発が行われており、調査地全域にみられる。第Ⅱ層は水田耕作に伴う耕土で、調査地全域にみられ、層厚2～30cmを測る。第Ⅲ層は1区のみにみられ、調査地北東部から南西部に向けて緩傾斜堆積をなし、層厚3～25cmを測る。本層上面にて遺構を検出した。第Ⅳ層は2区のみにみられ、調査地北東部から南西部に向けて緩傾斜堆積をなし、層厚2～10cmを測る。本層中からは、主に弥生時代後期後半から末に時期比定される土器が出土した。第Ⅴ層は調査地全域にみられ、層厚13～70cmを測る。本層上面にて遺構を検出した。本層中からは、主に弥生時代後期初頭頃に時期比定される土器が出土した。第Ⅵ層は調査地全域にみられ、層厚2～28cmを測る。本層上面にて遺構を検出した。第Ⅶ層は調査地全域にみられ、層厚2～15cmを測る。第Ⅷ層は調査地全域にみられ、層厚2～50cmを測る。第Ⅸ層は小野川や内川の氾濫に起因する河川氾濫堆積物で、径5～10cm大の円礫と灰色の粗砂で構成される。本層上面は起伏に富み、さらに調査地北東部から南西部に向けて緩傾斜をなす。本層中からの遺物の出土はない。

調査で検出した遺構は、竪穴式住居址2棟、掘立柱建物址2棟、溝30条、土坑40基、土器棺墓2基、井戸5基、柱穴245基である。ここで、主な遺構について時期別に概略を説明する。

**【弥生時代後期】** 弥生時代後期の遺構は、竪穴式住居址2棟、溝1条、土坑9基、土器棺墓2基、井戸5基である。すべて第Ⅴ層（明黄褐色土）上面での検出である。注目される遺構は、1区で検出し

た土器棺墓2基（土器棺101・102）と1区と3A地区で検出した井戸5基（SE101～104・301）である。1区西部で検出した土器棺墓101は、墓坑の平面形態が楕円形を呈し、規模は東西1.36m、南北1.23m、深さ12～37cmを測る。掘り方埋土は灰黄褐色砂質土である。棺身には複合口縁壺を使用する。本調査検出の5基の井戸はすべて素掘りである。3A地区で検出した井戸SE301は平面形態が円形を呈し、規模は径1.53～1.65m、深さは検出面下0.84mを測る。井戸底面は第Ⅸ層砂礫層に及ぶ。断面形態は井戸上部から中位付近まではすり鉢状となり、井戸下位は筒状となる。埋土は上・中・下層に分層され、埋土下層は黒褐色土～灰黄色砂、中層は灰黄褐色土～褐色土、上層は黒褐色土に礫が混じる。遺物は中層と下層から10点あまりの完形品と破片が出土した。

【古墳時代】古墳時代の遺構は、掘立柱建物址2棟、溝6条である。すべて、第Ⅴ層（明黄褐色土）上面での検出である。注目される遺構は2区で検出した掘立柱建物址2棟（掘立201・202）と溝2条（SD201・202）である。

2区中央部で検出した掘立201はSB201、SD203を切る。2×4間の東西棟で、建物規模は、桁行長5.30m、梁行長3.90mを測る。柱穴間隔は1.4～2.0mを測る。各柱穴の平面形態は円～楕円形を呈し、規模は径60～80cmを測る。埋土は黒褐色土～褐色土である。遺物は掘り方埋土中から須恵器、土師器の小片のほか、朝鮮系軟質土器や白玉、有孔円板が出土した。

【中世】中世の遺構は、溝2条と土坑6基である。注目される遺構は1区で検出した土坑2基（SK108・109）である。土坑SK109の平面形態は方形を呈し、規模は南北検出長1.45m、東西検出長0.97m、深さ30cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は灰色土である。遺物は完形の土師器坏が底面付近から出土した。

## 小 結

今回の調査では、弥生時代後期から中世までの遺構や遺物を検出した。

- (1) 弥生時代後期の遺構は、竪穴式住居址、溝、土坑、土器棺墓、井戸がある。井戸はすべて素掘りで、井戸内からは完形品を含む多量の土器片のほか甕型土製品が出土した。ひとつの遺跡で5基の井戸が検出されることは松山平野でも珍しく、弥生時代の井戸の研究における貴重な資料となる。
- (2) 古墳時代の遺構は、掘立柱建物址と溝がある。掘立201と202は建物方位が同じことから同時期の建物址と考えられる。掘立201からは朝鮮系軟質土器や白玉、滑石製有孔円板が出土したことから、何らかの祭祀行為が行われた可能性がある。SD201、202は南北に方位をとり、ほぼ平行に走る同規模の溝であることから区画溝の可能性もある。
- (3) 中世の遺構は土坑と溝がある。SK109は方形プランを呈し、床面から土師器坏が出土した。平面形態や遺物出土状況からSK109は上坑墓の可能性もある。

以上のことから、調査地を含む西石井地区には弥生時代後期集落が広範囲にわたり営まれていることがわかった。また、古墳時代に関連する集落遺構も少数ではあるが検出されており、弥生時代から継続して集落が営まれていたものと考えられる。さらには、中世12～13世紀には、墓域として土地利用された可能性もあり、弥生時代から中世にいたる複合遺跡であることが判明した。（相原）

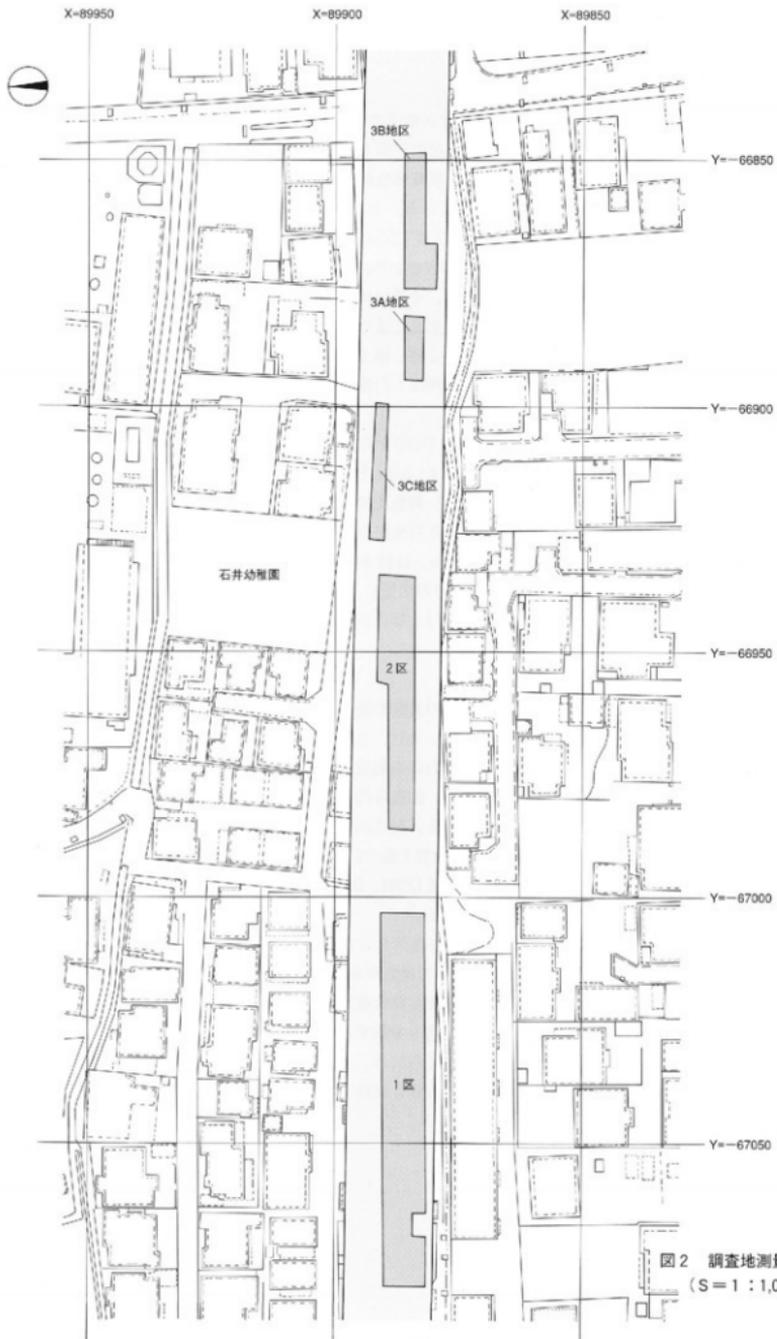


図2 調査地測量図  
(S = 1 : 1,000)

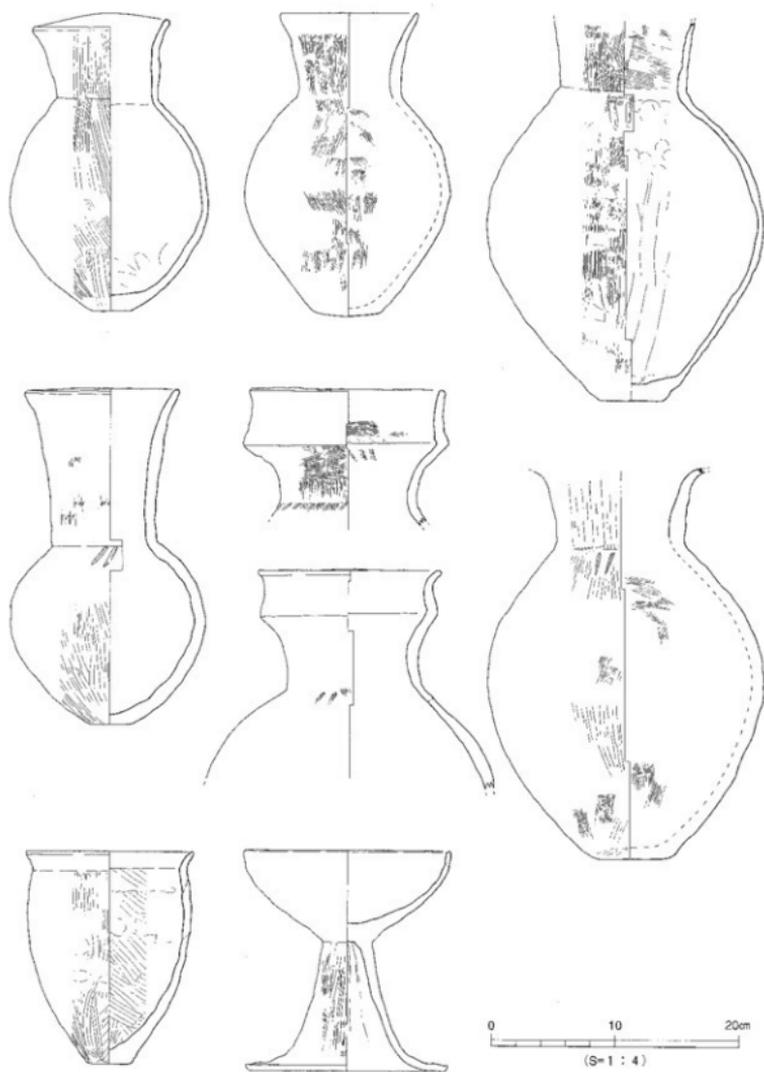


図3 井戸 S E 301出土遺物実測図



写真1 2区遺構完掘状況(北西より)



写真2 SE103断面(西より)



写真3 SE301遺物出土状況(西より)

## 北久米遺跡3次調査地

所在地	松山市北久米町754-1・755-1・ 756-1
期間	平成15年11月4日～同年12月25日
面積	2,806㎡のうち443.83㎡
担当	河野史知



図1 調査地位置図

**経過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地【No124北久米遺物包含地】内における給油所及び店舗建設に伴う事前調査である。周辺では数多くの発掘調査が実施されており、北西には弥生時代から古墳時代の集落関連遺構を主体とした筋違遺跡や古墳時代の大集落跡である福音小学校構内遺跡、南東には古墳時代から古代にかけての集落跡を検出した北久米浄蓮寺遺跡などがあり、当該地周辺は弥生時代から古代にかけての集落地帯であったことが明らかとなっている。

**遺構・遺物** 調査地は松山平野南東部、微高地上の標高約31mに立地する。基本層序は、第Ⅰ層灰色砂質土、第Ⅱ層褐灰色土～暗灰黄色土、第Ⅲ層褐灰色土～明褐色土、第Ⅳ層灰褐色土～黒色土、第Ⅴ層黄色土である。なお、旧地形は北東より南西に微傾斜している。調査では、古墳時代から中世の遺構や遺物を検出した。遺構は、土坑15基、溝8条、柱穴69基、倒木痕2基、性格不明遺構3基がある。遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・石器が出土した。

【古墳時代】SK2・3・5・6・8・9・12、SD1・4・6・8がある。SK8やSK9は削平を受けており全容は不明であるが、形状や規模などから小型の堅穴遺構の可能性をもつ。SD1は屈曲部を伴う溝であり、埋土が単一層で砂層の堆積を含んでいないことから水利に伴うものではなく、集落内の区画に伴う施設と考えられる。

【古墳時代～古代】SK1・10、SD2・5がある。SD2は、SD1より新しい段階の溝であるが、この溝も埋土から集落内の区画に伴う溝と考えられる。SD5とSD7は、埋土が同じであることや位置関係、出土遺物などから同一の溝と考えられ、古墳時代から継続して調査地周辺に古代集落が存在したことが窺える。

【中世】SK4・7・11・13・14、SD3、SX2・3がある。SX2は南北に長い不整形の掘り込みみであるが、現段階ではどのような性格をもつ施設かは不明である。SX3は平面形態がL字形の様相を示しており、基底面は直線的に延びる細く深い小溝を伴っているが、この小溝は仕切り等の施設とも考えられる。

**小結** 今回の調査により、古墳時代から中世における遺物包含層の堆積と、古墳時代から中世にかけての集落関連遺構や遺物を確認することができ、同時代における北久米地区の集落の一部が明らかとなった。今後の整理課題として、福音小学校構内遺跡と北久米浄蓮寺遺跡の両集落の中間地点に存在する本遺跡の役割を解明する必要がある。

北久米遺跡3次調査地

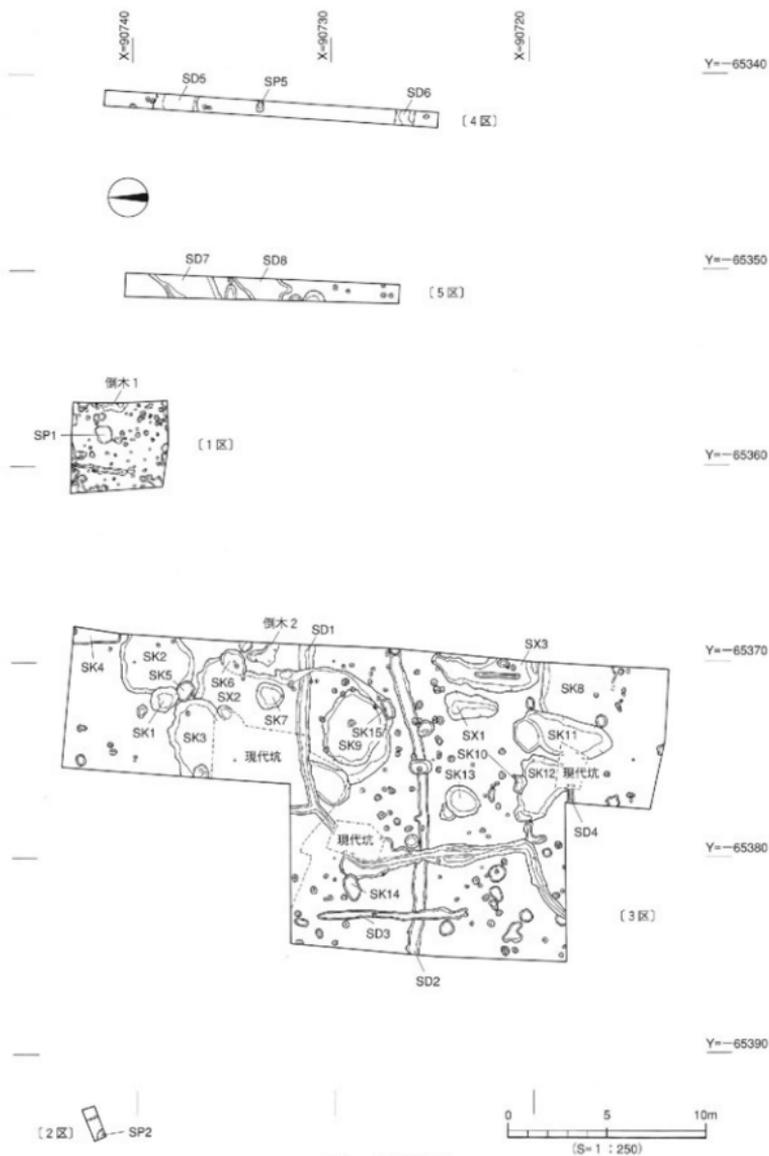


図2 遺構配置図

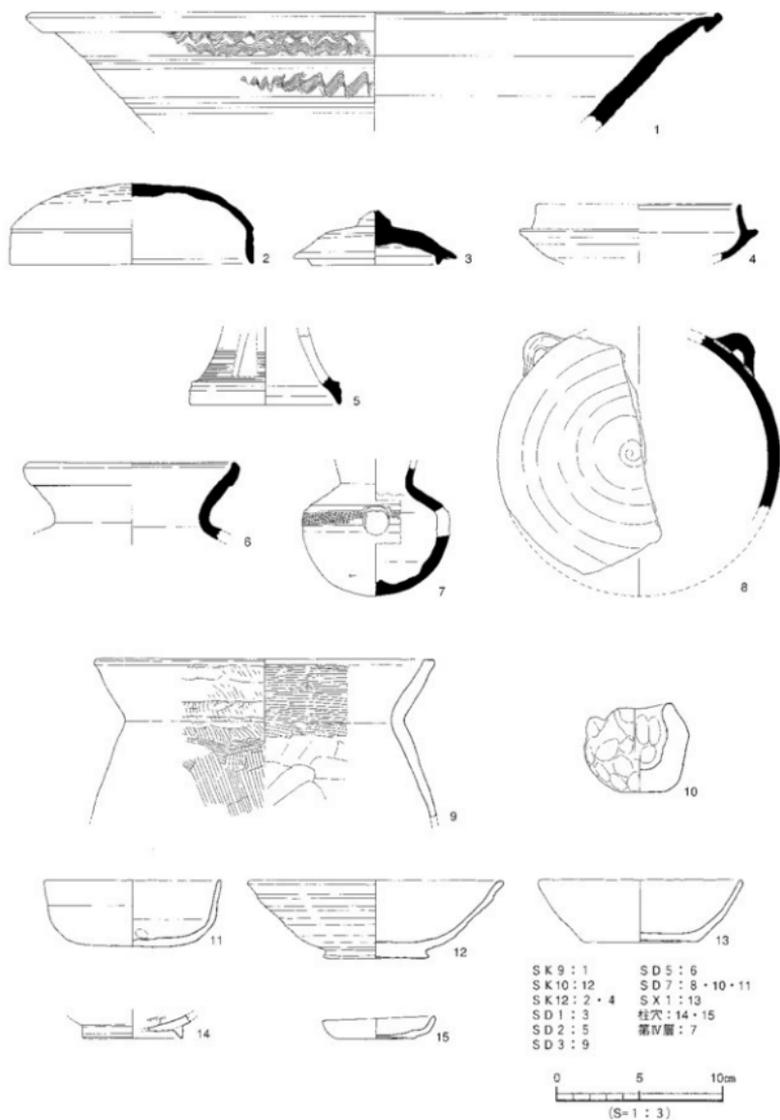


図3 出土遺物実測図



写真1 遺構完掘状況(西より)

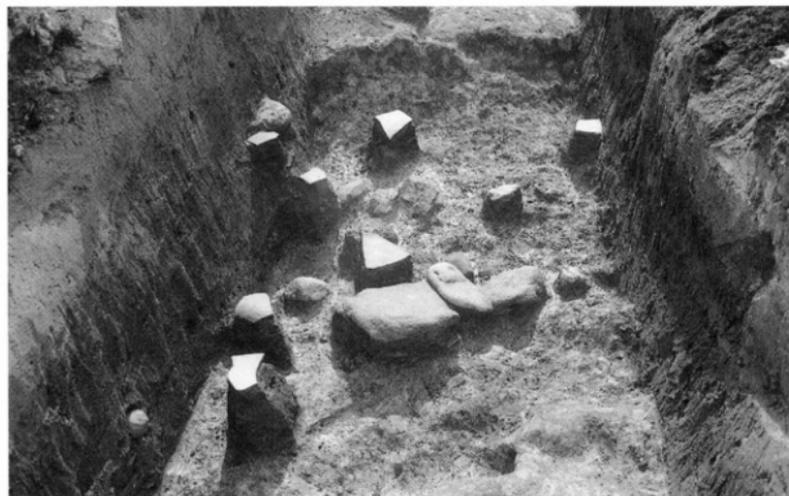


写真2 5区SD7遺物出土状況(北より)

## かみかりや 上苧屋遺跡 4 次調査地

所在地	松山市平井町甲176番地 外
期間	平成15年2月1日～同年7月31日
面積	9,000㎡のうち936.2㎡
担当	栗田茂敏・吉岡和哉



図1 調査地位位置図

**経過** 本調査は、松山市道小野158号線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は平成8年以来、松山市道平井・水泥線関連遺跡として断続的に調査が実施されているこの改良路線の最も東の区間にあたる。この路線関連の既往の調査を列挙していくと、西から「下苧屋遺跡2次調査地」、「下苧屋遺跡3次調査地」、「古市遺跡2区」、「古市遺跡1区」、「上苧屋遺跡3次調査地」となり、古墳時代後期から古代の集落を中心に、中世集落や、縄文時代・弥生時代の遺物を包含する流路など各時期にわたる遺構、遺物が検出されている。

**遺構・遺物** 検出された遺構は、土坑8基、溝1条、柱穴約170基、その他の遺構2基で、遺物の出土により所属年代が判定できる遺構には弥生時代のものが多く、埋土や層位からみても弥生時代の遺構が大多数を占める。中でもまとまった遺物を出土したのが、土坑SK4、SK8である。SK4は、長径1.2m、短径1.1m、深さ0.25mのほぼ平面円形の土坑で、出土した土器には壺・甕がある。量としては壺が多く、器高1m近い大型品から、中・小型品が揃っている。石器には、石磨丁、敲石、台石などの調理具のほか石鏃がある。これらの土器や石器には二次的に火熱を受けているものが多く、埋土中には焼土を多量に含んでいる。しかし、土坑の壁面や底面に火熱を受けた痕跡は見られない。なお、土坑埋土中や周辺の土壌から多量の炭化植物種実が検出された。SK8も、直径1.1mのほぼ円形のプランをなす土坑である。形状、規模、および多量の弥生土器、殊に壺を多く出土していることでSK4と共通しているが、土器に二次的な被熱の痕跡がなく、調理具などの石器や種実、焼土を伴わない点で大きく異なっている。そのほか、SK4の北東2m付近で築石遺構SX1が検出された。この遺構に伴う石材には被熱した砂岩が多く、これらの石材の上に載ったり、間に落ち込んだ状態で弥生土器片が出土している。

**小結** 調査では、主として弥生時代の遺構・遺物が多く検出され、土坑SK4、SK8ではまとまった遺物の出土がみられた。これらの土坑出土の土器は、次のような共通した特徴を持っている。

壺においては、頸部や胴部に数条の沈線や削り出し突帯、あるいは連鎖状刻目突帯などが施文されており、口縁部内面に突帯を持つものが多く、また、外面にヘラ磨きを多用するといった特徴を持つ。甕は壺に比べると出土量が少ないが、頸部に多条沈線を持つものが多い。その他の遺構出土のものも、これらに準じる特徴を持っており、弥生時代の遺構は概ね前期末～中期初頭といわれる時期の遺構とすることができる。これらの遺構のうち、破損土器が多量に入れられたSK8のようなものは廃棄土坑であるとして、SK4はそのありかたにおいて、廃棄土坑とはいっても特別な性格がありそうである。SK4からは、多くの被熱痕跡を有する土器とともに、石器にも被熱した取換具や調理具があり、炭化種実や焼土といった遺物も出土している。これらのことから、SK4は食物調理にかかわる道具

や容器類、あるいは食物残滓を廃棄した廃棄土坑と考えるのが最も考えやすい。土坑自身には被熱した痕跡がないことから考えると、この土坑以外の場所で被熱した遺物類を廃棄したものであろう。直近のSX1で、やはり被熱痕跡を持つ多量の石で構成される集石遺構と、これにからむ弥生土器の出土があることからみると、SK4とSX1はお互いに関連しあう遺構とみられる。通常火にかけることのない壺類が被熱した状態で多数廃棄されていることから推して、SX1において火を用いた食物祭祀のようなことを行った後、この祭祀に用いた道具類をSK4に埋納したものと理解できようか。

(栗田)



写真1 土坑SK4検出状況(西より)

## みどろ 水 泥 遺 跡

所在地	松山市水泥石町1346番1外
期間	平成15年4月1日～同年8月29日
面積	2,800㎡
担当	水本 完児・梅木 謙一



図1 調査地位位置図

**経 過** 本調査は、松山市道水泥石南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野の南東部、標高50.2～51.6mに立地する。調査地の北側には平井遺跡1・2次調査地があり、縄文時代晩期から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

**遺構・遺物** 調査地の基本層位は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層明黄褐色土、第Ⅳ層灰褐色土、第Ⅴ層明灰白色土、第Ⅵ層黄色土、第Ⅶ層灰白色粘質土である。遺構は、第Ⅵ層上面で溝(SD)2条、自然流路(SR)3条、畝状遺構9条、鋤跡34条、柱穴(SP)3基、性格不明遺構(SX)1基を検出した。これらの遺構は、古墳時代から中世に時期比定されるものである。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器が出土している。調査は1区～5区に分けて実施した。

3区のSX1は、調査区中央やや北寄りで見出した。規模は13.4m、幅3.0～8.0m、深さ40cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は暗茶褐色土で、遺物は土師器が出土している。時期は、出土遺物より古墳時代後期6世紀後半～7世紀前半とする。

3区のSD1は、調査区北部で見出した。溝の両端は、東壁土層北から西壁土層北にあり、調査区外に続く。規模は検出長8.5m、幅2.0～3.0m、深さ25cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、石器が出土している。時期は、出土遺物より古代、7～8世紀とする。

1区の畝1は、調査区中央やや北寄りで見出し、畝の東側は調査区外に続く。畝1はSR2を切る。規模は検出長6.5m、幅20～50cm、深さ15cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は灰黄褐色土である。遺物は土師器が出土している。時期は、出土遺物より中世とする。

1区の畝2は、調査区中央部で見出し、SR2を切る。規模は検出長7.9m、幅20～50cm、深さ19cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は灰黄褐色土で、遺物は土師器が出土している。時期は、出土遺物より中世とする。

**小 結** 今回の調査では、水泥石遺跡における古墳時代から中世の集落の存在を推測される資料が得られた。今後は、調査地周辺の遺跡との関係を検討し、古墳時代から中世の集落構造を究明しなければならない。(水本)



写真1 1区完掘状況（南より）



写真2 完掘状況（南より）

## みどり 水泥遺跡 2 次調査地

所在地	松山市水泥町464-1 外
期 間	平成15年 8 月 1 日～平成16年 3 月31日
面 積	1,764㎡
担 当	水本 完児・梅木 謙一



図1 調査地位位置図

**経 過** 本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野の南東部、標高50.2～50.5mに立地する。調査地の北側には水泥遺跡1次調査地、平井遺跡1・2次調査地があり、縄文時代晩期から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

**遺構・遺物** 調査地の基本層位は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層明黄褐色土、第Ⅳ層灰褐色土、第Ⅴ層明灰白色土、第Ⅵ層茶褐色土、第Ⅶ層黄色砂礫である。遺構は、第Ⅵ層上面で溝（SD）12条、自然流路（SR）1条、畝状遺構1条、鋤跡51条、柱穴（SP）1基、性格不明遺構（SX）2基を検出した。検出した遺構は中世に時期比定される。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。調査は、調査区を1区～4区に分けて行い、ここでは遺構が集中している2区を取り上げ概要を報告する。

2区のSD1は、調査区中央部東側で検出し、溝の東側は調査区外に続く。規模は検出長6.0m、幅40～100cm、深さ11cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は灰黄褐色土で、遺物は土師器が出土している。時期は、出土遺物より中世、15世紀とする。

2区のSD2は、調査区中央部西側で検出し、溝の西側は調査区外に続く。規模は検出長4.5m、幅40～80cm、深さ9cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は灰黄褐色土である。遺物は土師器が出土している。時期は、出土遺物より中世、15世紀とする。

**小 結** 調査の結果、中世の遺構と弥生時代から中世までの遺物を確認することができた。当地は1次調査地を含め、古墳時代から生産地として徐々に利用され始め、本格的に畑作地及び水田地として利用されるのは中世以降であることが今回の調査で明らかになってきた。今後は、調査地周辺の遺跡との関係を検討し、中世の居住地を明らかにしなければならない。（水本）



写真1 4区完掘状況(北東より)



写真2 調査地全景(南より)

みみうめもとかみがた  
南梅本上方遺跡

所在地	松山市南梅本町甲331 外
期間	平成15年9月1日～平成16年1月30日
面積	1,302m <sup>2</sup>
担当	相原浩二・武正良浩



図1 調査地位位置図

**経過** 本調査は、松山市道南北梅本線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野東部、重信川の支流である小野川、悪社川及び内川によって形成された扇状地上の標高71mに立地する。調査直前まで水田耕作が営まれていた。近接する播磨塚古墳群内には、かつて20基とも30基ともいわれる多数の古墳が存在していたと言われている。しかし明治時代に、梨・柑橘類の栽培適地として開墾され、その後、陸上自衛隊松山駐屯地として造成・削平を受けている。そのため、過去に存在したと考えられる古墳の大半が消滅し、現在では平成10年度に当埋蔵文化財センターによって発掘調査され、6世紀前半の前方後円墳と確認された播磨塚天神山古墳と駐屯地内に7世紀前半とされる横穴式石室の一部が残っているにすぎない。

**遺構・遺物** 調査地の基本層序は、第Ⅰ層客土（真砂土）、第Ⅱ層褐灰色土～浅黄色土（耕作土・床土）、第Ⅲ層黄褐色粘質土～明黄褐色粘質土、第Ⅳ層明黄褐色土、第Ⅴ層浅黄色粘質土、第Ⅵ層黄色砂質土、第Ⅶ層灰色土（微砂質系）、第Ⅷ層灰黄色粗砂である。遺構・遺物は主に中世期のものである。遺構は第Ⅷ層上面で、掘立柱建物址4棟、柵列1条、土坑6基、溝5条、柱穴160基、性格不明遺構3基を検出した。遺物は、土師器・須恵器・瓦器・石器が出土した。

今回の調査では、概ね14～15世紀と考えられる遺物包含層の堆積と、中世集落関連遺構・遺物を確認した。これまで南梅本地区は集落遺跡の希薄な地域であったが、本調査により中世集落の一端が明らかとなった。

SB1：構成する柱穴群内から土師器皿（完形品が含まれる）が出土した。これは、建物の廃絶に伴う祭祀遺物と考えられる。時期は出土遺物から14世紀代と考える。

SD2とSD4：溝と溝の芯々距離は約12mである。検出面自体が脆弱な地盤であり、平面プランに若干の凹凸が見られる。南北を示す方向性と平行する位置関係から、人為的に配された可能性を残す遺構である。時期は出土遺物から14～15世紀代と考える。

**小結** 調査では、掘立柱建物址、溝・土坑、その他柱穴群等から、それらが構成する当時の集落が悪社川の周囲に営まれていたことが分かった。この調査結果は、今後周辺にて発掘調査が行われた場合、貴重なデータになるものである。なお、周辺地域には、近接する播磨塚天神山古墳に代表される古墳が存在することから、中世集落のみならず古墳時代の集落が検出される可能性がある。（武正）

【参考文献】吉岡和哉 2001 『播磨塚天神山古墳』【松山市文化財調査報告書83】

南梅本上方遺跡

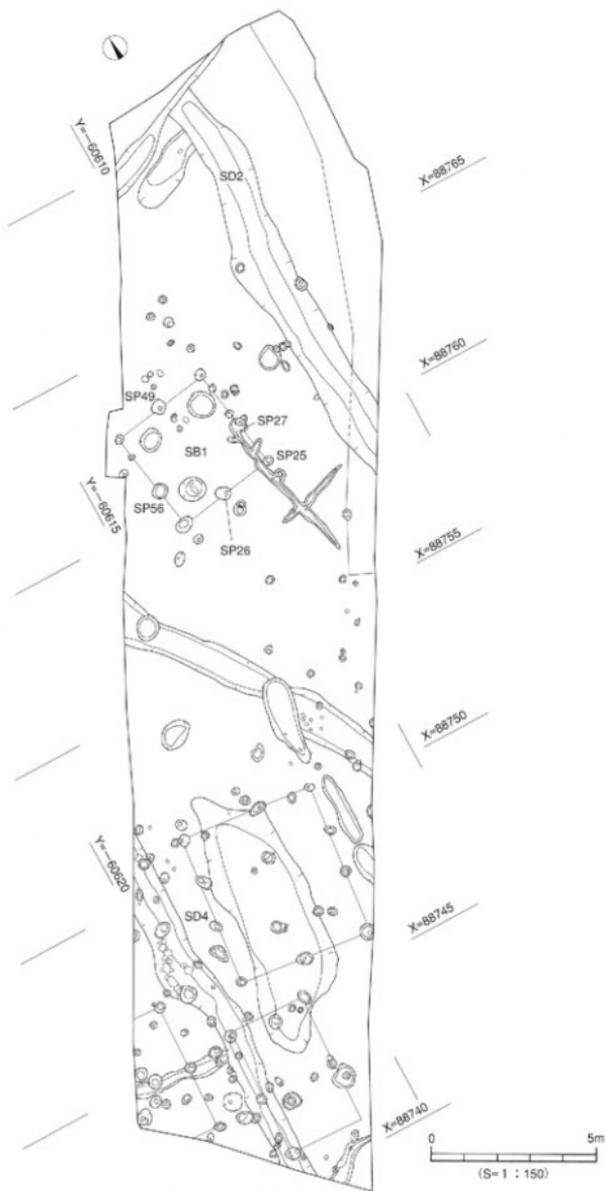


図2 1区遺構配置図

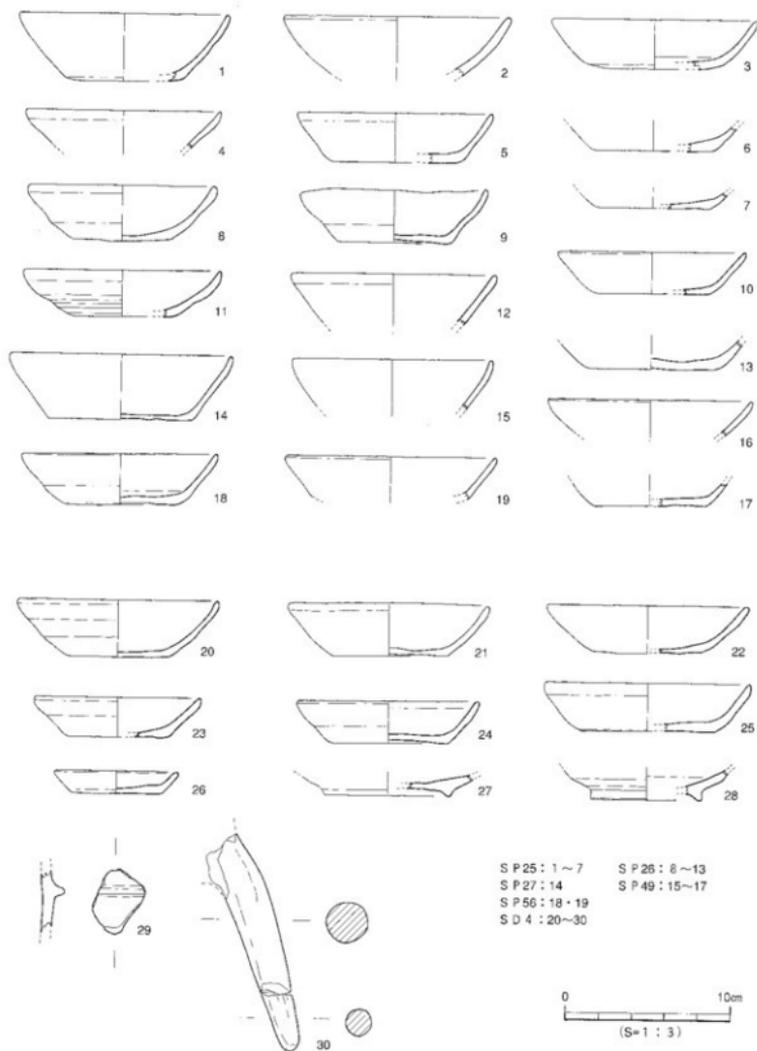


図3 出土遺物実測図



写真1 1区完掘状況（北より）



写真2 SD4完掘状況（北西より）

## まつやまじょうほんまるあと 松山城本丸跡 3次調査地

所在地 松山市丸之内1  
期 間 平成16年1月6日～同年3月31日  
面 積 約35㎡  
担 当 栗田正芳  
(文化財課)



図1 調査地位位置図

**経 過** 史跡松山城跡は、加藤嘉明が慶長7（1602）年1月15日から約二十余年かけて丘陵「勝山」に本丸、南山麓に二之丸、その西に堀をめぐらせた三之丸を築いた城郭で、全国でも有数の連立式平山城である。松山城本丸における発掘調査は、昭和59（1984）年に広場内東側で1次調査が実施されている。

平成13（2001）年3月24日に発生した芸予地震と同年6月の長雨によって、広場の石垣近くに地割れや陥没が発生し、石垣に変位を及ぼしかねない状態となった。それら地割れ等の被害状況を把握するため、平成13年度にトレンチ調査を実施した。平成14年度の2次調査は、本丸広場の排水施設を整備するため西面石垣にある排水口（馬具槽と太鼓槽の中間）に伴う排水施設の確認調査として実施した。この結果、排水口から東へ延びる石組排水溝が確認された。この石組排水溝は、明治時代以降に、大部分の石材等が抜き取られているため遺存状況は良好ではなかった。平成15年度は、2次調査地で確認された石組排水溝の東側において、連続する石組排水溝の遺存状況の把握と幕末絵図に描かれている「用水口」の確認並びに振り分け構造の有無（天守へ向かう道の側溝との関係等）を主目的に実施した。

**遺構・遺物** 調査区の西端で、2次調査の溝と連結する南北方向の排水溝（SD1）が確認される。SD1は、岩盤をU字状に掘り窪めたもので、幅約50～60cm、検出長約7.9mを測る。溝の側石は一部しか残っていない。大部分は明治時代以降に抜き取られ、多量の円礫や瓦で埋められている（写真3）。2次調査地の石組排水溝には加工された花崗岩が使用されていたが、SD1には自然石が単に側石として並べられ（写真4）、遺存状況は良好ではない。SD1からは、19・20世紀代の陶磁器片と平瓦片・丸瓦片が出土している。

**小 結** SD1は、2次調査地の石組排水溝と連結する南北方向の排水溝であり、天守へ続く大手道の側溝である可能性が高い。また、加工石材を使用しない自然石を両側に並べただけの簡易な溝であったと考えられる。明治時代になって、排水溝としての構造を破棄して暗渠の構造に改変させられた可能性がある。

今回の調査では、絵図に描かれている「用水口」とおぼしき遺構は検出されなかったが、1～3次調査によって確認された結果は、広場全体の排水計画を検討する上で重要なデータであると考えられる。広場内にはまだ未調査な部分があるため、確認調査を今後も継続して実施していかなければならない。

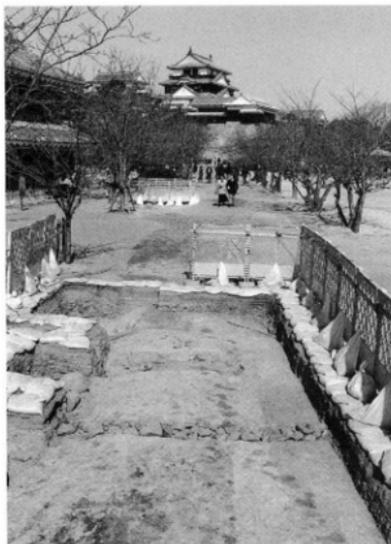


写真1 調査地全景（南より）



写真2 SD1完掘状況（北より）



写真3 SD1遺物出土状況（北より）



写真4 SD1側石検出状況（北より）

## まつやまじょうきんのまる 松山城三之丸2次調査地

所在地	松山市堀之内
期間	平成16年1月19日～同年3月26日
面積	約339m <sup>2</sup> （Ⅵ区：172m <sup>2</sup> 、Ⅶ区：140m <sup>2</sup> 、 Ⅷ区：27m <sup>2</sup> ）
担当	田城武志・西村直人 （文化財課）



図1 調査地位位置

**経過** 本調査は松山市の「城山公園（堀之内地区）整備事業」にともなう確認調査である。松山市では平成13年度より国庫補助を受け、堀之内中枢施設の遺構群の範囲・性格・内容を把握することを目的とした「確認調査」を実施している。なお、この調査は松山市教育委員会文化財課が都市整備部公園緑地課の依頼を受けて実施している。

今回の調査では、14年度と同じく、①三之丸（堀之内）を南北縦断し、調査区内へも延長すると予想される南北幹線道路の有無の確認、②Ⅱ区石垣の東側への連続部分の確認、③西之丸の範囲・性格の確認の3点を目的とした。調査区名は前年度調査のⅠ～Ⅴ区から継続して、南側をⅥ区、北側をⅦ区、南東側をⅧ区とした。

**遺物・遺構** 【Ⅵ区】遺構は標高約21m～22mの間、地山上面（風化土含む）および各段階の整地層上面で確認した。主な遺構として、近世の石組溝、石組暗渠、太鼓塀、建物礎石等を検出した。

石組溝1は長さ10.4m、幅約0.6m～0.7mを検出し、南側が若干幅広い。全体としてさらに南北に延長すると考えられる。また、東側列の裏込石は石組溝の裏込石にしては幅が広いことから、元々東側は石垣で、南西方向（見せる石垣として）意識したものであった可能性がある。

石組溝2は長さ約16.0m、幅約1.2mを検出した。北側は一部しか残存していないものの、全体としてさらに東西に延長すると考えられる。床面には主に割石が敷き詰められている。石組溝1を廃棄して造られており、廃棄時のものと考えられる遺物には19世紀中頃の肥前系磁器や瓦が認められた。また、南側上段には柱穴が一間及び二間幅の間隔で2列並行しており、塀の痕跡と考えられる。明瞭な重複関係が認められないことから、石組溝2と同時期に造られた可能性が高い。

石組暗渠は長さ約6.9m、幅約0.2mを検出した。石材は全て切石の花崗岩が使用され、蓋石が3枚残存している。南端部では側石、蓋石ともに面が揃っており、おそらく石組溝2に連結していたと考えられる。石の継ぎ目には漆喰が使用されており、同所から19世紀中頃の琉球の壺屋焼が出土していることから、この遺構は石組溝2とほぼ同時期に造られたと考えられる。

塀（櫓）は長さ約6.6mを検出した。礎石間には多数の小石が検出され、その構造から「太鼓塀」の可能性が考えられる。

礎石建物は2つの時期のものがあり、後期のは整地の状況から石組暗渠と同時に造られたと考えられる。建物の形状については今後の検討が必要である。

素掘りの溝は長さ約14.0mを検出した。東西に延長すると推定される。幅約0.6～0.9m、深さ約0.7mを測り、調査区内で最も古い遺構と考えられる。

【Ⅶ区】前年度調査のⅡ区で検出された石垣の延長部を確認した。石垣は高さ1.3mを検出し、全長は

前年度調査分を加えると約10mを測る。構造は、地山を掘り下げてその中から3段の築石を積み上げ、さらには上にも石垣が積まれていたと推測される。掘り込みは、地業と考えるには深すぎる。東側端部は人頭大の栗石のみで構成されており、東面は地山絶壁である。遺物は17世紀の肥前陶器等が出土している。

【Ⅷ区】岩盤を切り崩して造られた、Ⅵ区で検出された石組溝2の東端部が検出された。

小 結 今回の調査では①～③の目的に対し、概してそれぞれ以下のような成果が得られた。

①Ⅵ区の石組溝1は、県民館跡地調査で検出された幹線道路側溝（東側）の延長部分に相当すると考えられる。しかし、礎石建物の存在を考えると、道路はその手前（南側）で断絶していたと考えられ、絵図の記載とも符合する。②Ⅶ区の石垣は少なくとも敷地内中央までは東に延長すると予想されたが、上記の結果となった。構造的に不明瞭な部分が多いため、類例を検討したい。③Ⅵ区における堀跡は「太鼓塀」と考えられるが、このタイプの塀は防御性が高いことから、三之丸の境界である可能性が高い。ただし、西之丸の郭としての性格を表す遺構は検出されておらず、それについては今後の検討が必要である。また、今回のⅥ区の主な遺構は、大別すると3時期に分けて考えられる。

1期…素掘りの溝 2期…石組溝1（石垣）、塀（太鼓塀）、礎石建物① 3期…石組溝2、塀（横）、石組暗渠、礎石建物②

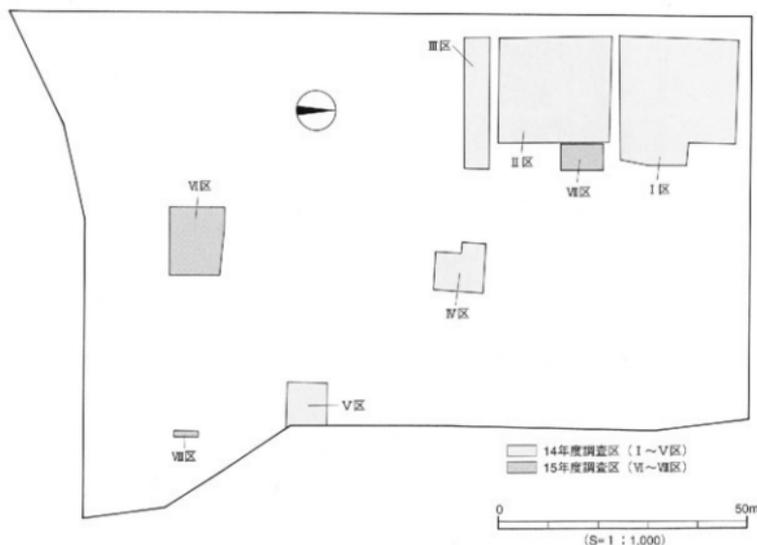


図2 調査区位置図

【補足：古絵図との比較】「三之丸御殿」を描いている古絵図は、現在知る限り3枚を確認している。但し1枚は写本と考えられるので、実質的には2種類である。両者とも御殿の東西南北の一辺ごとに寸法が記されており、なかでも南辺部には、それぞれ「南側東西七十七間六尺 東辻番所迄」（『御三丸圖』）、「南側東七十七間六尺 辻番所迄」（『三之丸惣輪圖』）と記されている。このことから三之丸南東側に「辻番所」の存在が推測され、VI区で検出した礎石建物は「辻番所」の可能性がある。

（西村）

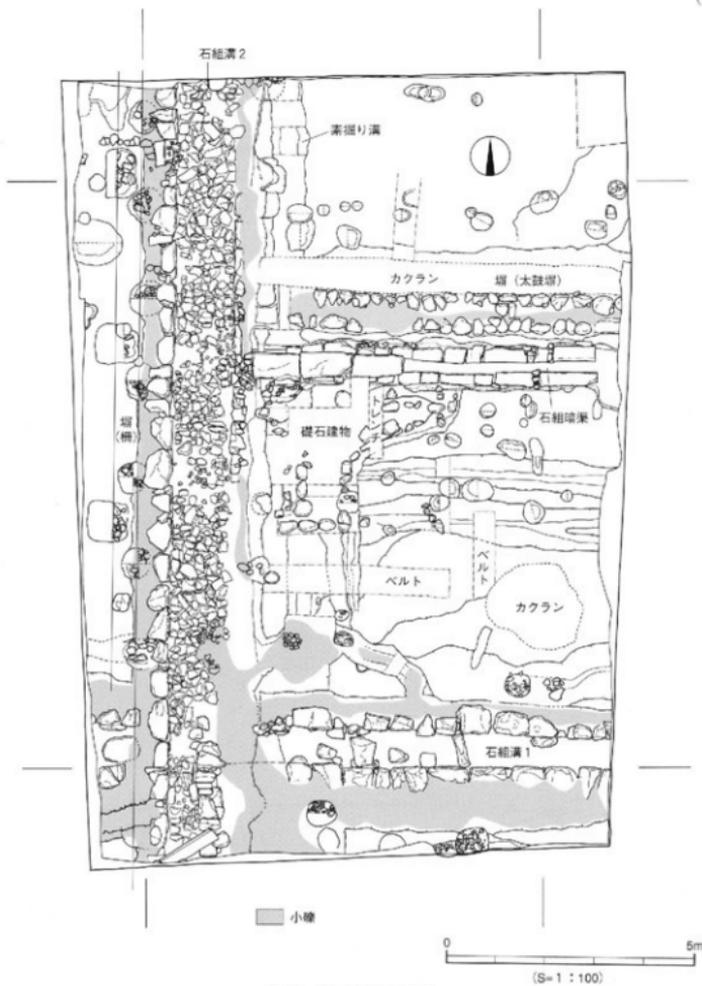


図3 VI区遺構配置図



写真1 IV区完掘状況（北西より）

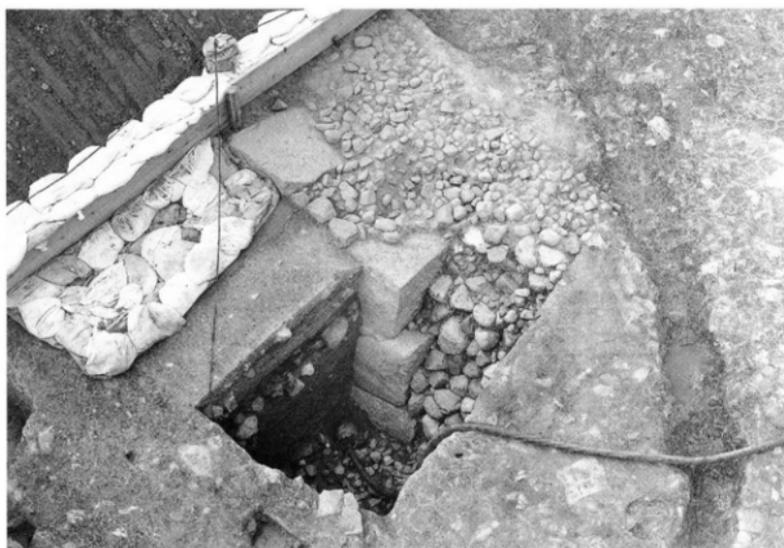


写真2 VI区石垣完掘状況（北東より）

## 来住廃寺29次調査地

所在地	松山市来住町833番地
期間	平成15年4月14日～同年6月23日
面積	230.84㎡
担当	田城武志・篠田久恵・田内真由美 (文化財課)



図1 調査地位置図

**経過** 本調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地「No127来住廃寺跡」内における宅地開発に伴う事前発掘調査である。調査地は、回廊状遺構の南門の南側に位置する。調査は、国からの補助を受けて実施した。

**遺物・遺構** 当該調査においては、溝状遺構(SD)5条、土坑(SK)8基、土壇墓(ST)1基、柱穴(SP)16基を検出した。以下、主な遺構の説明を行う。

SD004は、調査地中央部に位置する東西方向の溝である。検出面での幅は、1.0m～2.1m、検出面からの深さは0.26mを測る。埋土は大きく2層に分かれるが、流水を示す痕跡は確認されなかった。遺物は全て小片であり、弥生土器、須恵器、瓦が出土した。瓦には布日痕の認められるものと、小片であるため不明確であるが、近世瓦に近いものが確認された。ただし、後者は混入の可能性もあり、近世までには埋没していた溝であると考えられる。

調査地の中央西側に位置するST001は、平面形態が長方形を呈し、規模は南北約1.2m、東西約0.5mを測る。検出面からの深さは0.4mである。遺構北西隅において、副葬品と考えられる土師器の坏が1点、皿が3点出土した。埋土中に骨片、歯片等は確認されなかった。調査では土壇墓が単独で確認されたが、南に隣接する来住廃寺15次調査地においては、江戸時代初期の遺物が出土した土壇墓群が確認されており、西には現代の墓地在隣接していることから、これらとの関連が考えられる。

**小結** 今回検出された遺構のほとんどは大幅に削平を受けており、遺存状況は良好ではなかった。また、ST001以外には、遺構に伴う時期のわかる遺物は出土しなかった。柱穴は計16基検出されたが、建物を形成するような並びは認められなかった。

今回の調査では、寺院・官衛に関係すると考えられる遺構は確認されなかった。調査地は、回廊状遺構の南門前という位置であることから、建造物等は造られず、広く開けた場所であったと考えられる。(田内)

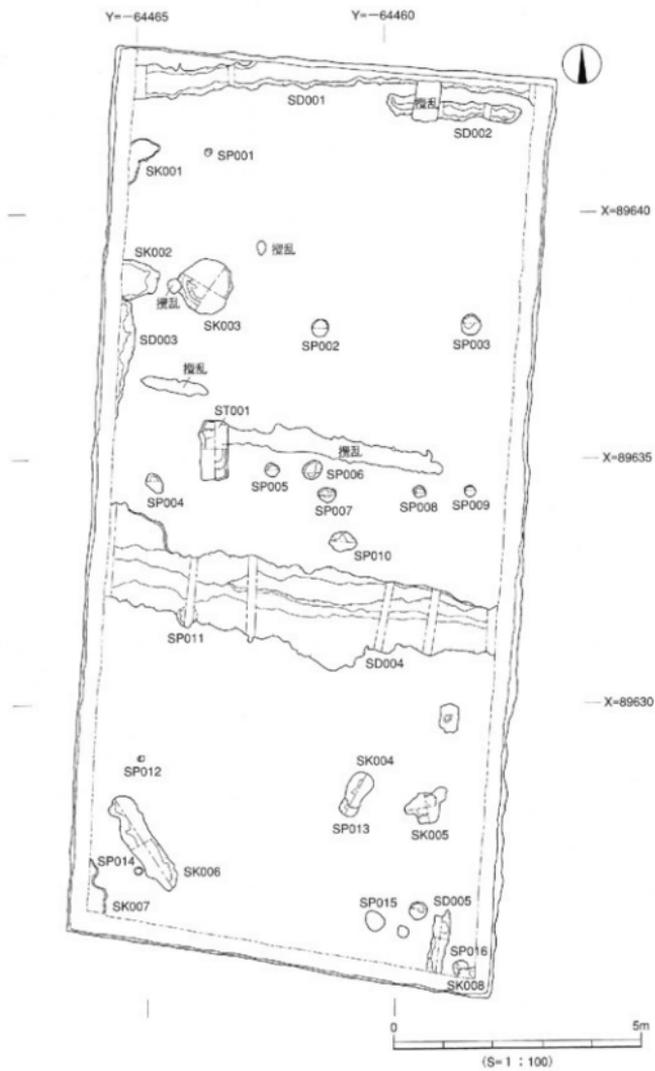


図2 遺構配置図



写真1 調査地遠景（北東より）



写真2 調査地近景（北より）

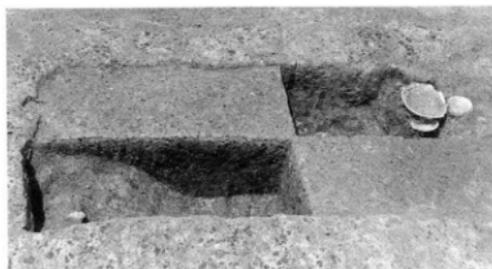


写真3 ST001半截状況(東より)



写真4 ST001遺物出土状況(南より)

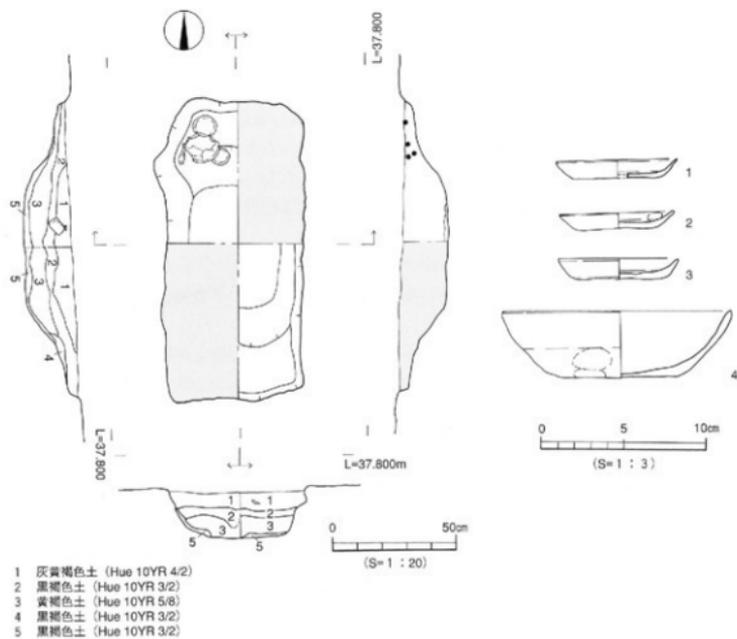


図3 ST001測量図 出土遺物実測図

## 来住廃寺30次調査地

所在地	松山市来住町817の一部
期間	平成15年7月7日～同年11月6日
面積	400㎡
担当	田城武志・篠田久恵・田内真由美 (文化財課)



図1 調査地位置図

**経過** 本調査は、来住台地の南辺縁部、塔基壇の南約60m付近において、来住廃寺の寺域の南限確定を目的として行った。調査は、国から補助を受けて実施した。

**遺構・遺物** 近世以降とみられる溝1条の他、柱穴40数基、土坑数基を確認した。調査区全体が水田造成による削平を大きく受けていることに加えて出土遺物も少ないことから、時期を特定できる遺構は多くない。古代の寺院に関係する遺構は確認できなかった。以下、個別の遺構について概略を述べる。

調査区中央部に位置する南北方向の溝 S D001は、幅0.8m～1.2m、検出面からの深さは最深部で0.2mを測る。埋土からは須恵器や古代の瓦のほか、近世以降の陶磁器が出土している。埋土中には、拳大の礫を多く含む。遺物の出土状況から、近世以降に埋まったものだろうと考えられる。溝の用途は不明だが、埋土の堆積状況からは、流水を示す痕跡はみられない。

調査区南側に位置する東西方向の溝と列石は、水田に関する暗渠ではないかと考えている。埋土からは近世以降の瓦と磁器が出土している。

列石1と列石2は高さの違いはあるが、ほぼ並列しており、同時期につくられたものと考えている。詳しい時期はわからないが、下層から近世以降の陶磁器が出土しているため、それよりは新しい時期と考えられる。

その他のピットや土坑は、出土した遺物が小片であるため、時期の特定が難しい。

**小結** 調査地は、もともと南に下がる台地の南辺である。ここに水田を造成するにあたって段状に地形を削り、必要に応じて水はけを良くするための暗渠を設置し、近年これらの段差をさらに改良し、より面積の広い水田に改良を重ねていった過程が今回の調査で明らかになった。(田内)

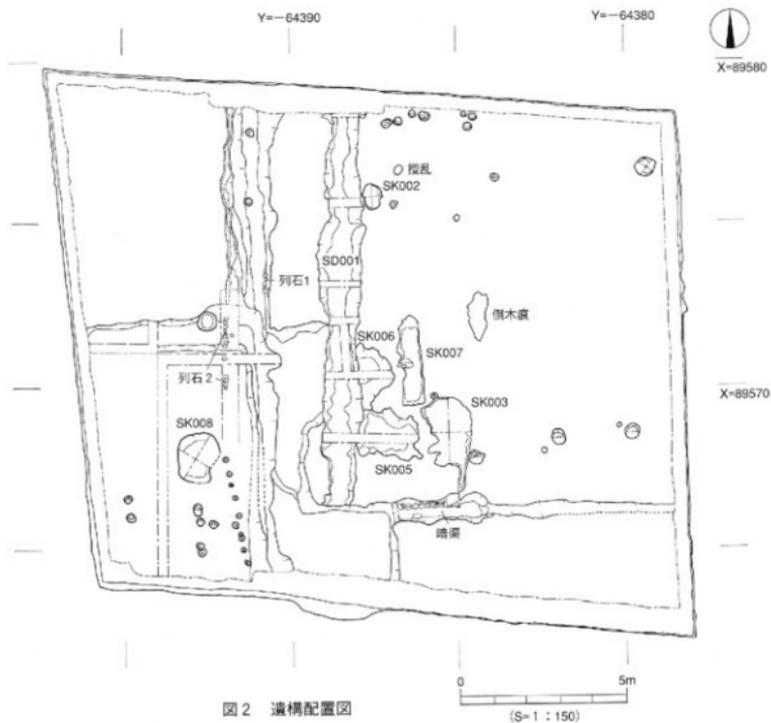


図2 遺構配置図



写真1 調査区全景(北より)

## く め た か ほ け 久米高畑遺跡57次調査地

所在地	松山市東住町887-1の一部・888-2
期 間	平成15年4月14日～同年11月4日
面 積	約917m <sup>2</sup>
担 当	橋本雄一



図1 調査地位置図

**経 過** 久米官衙遺跡群の中央部、正倉院東濠の東約50mに位置する水田において、宅地造成に先だ  
って調査を実施した。調査は国庫補助によっておこなわれた。調査地は、平成14年度におこなわれた  
久米高畑遺跡54次調査地のすぐ北隣に位置している。54次同様、官衙関連施設のほか、弥生時代の倉  
庫や穴蔵などに関する情報が得られるものと期待された。

**遺構・遺物** 弥生時代の円形土坑4基、方形土坑15基、4本柱の掘立柱建物11棟、古墳時代後期の方  
形竪穴住居3棟、古墳時代後期から官衙段階の掘立柱建物6棟、官衙の区画溝と一本柱列各1条のほ  
か、溝6条など、多数の遺構を検出した。調査地の北東部は低地になっており、黒褐色の包含層が最  
大で40cm堆積している。調査は、順次この包含層を掘り下げながら遺構検出を実施したが、完掘す  
るには至っていない。一部の遺構については、包含層の上面から下部において検出が可能であったが、  
この他にも未確認の遺構の存在が予想される。

官衙関連遺構と确实視される遺構には、調査地西部に位置する区画溝SD001、54次との境付近に  
東西方向に設定されている一本柱列SA001がある。建物では、掘立001・002・010の3棟が区画施設  
に伴う官衙関連施設の可能性も考えられる。なお、掘立001は南面に庇が付くことから、ある程度格  
式の高い建物であると推測される。柱穴も長方形のものが含まれることから、官衙関連の建物である  
可能性もある。

さらに、弥生時代と考えられる4本柱の建物を11棟検出した。このうち掘立011は、54次（年報15）  
で認定された12棟のうちの1棟と共通の建物である。調査地北西部に位置する掘立003・004・005の  
3棟は、54次で確認された一群とは方位が異なることなどから、別の群を構成するものと考えられる。  
また、建物長軸の方位が若干東に振れる掘立012、大きく傾いた掘立009と同様の建物は、54次でも検  
出されている。さらに、正方位に対応し、細長い形状の掘立006（長辺5.75m×短辺2.10m）と同様の  
建物は、西隣の26次（年報IX）などにも存在することから、少数ではあるが認定可能であると考えて  
いる。ただし、調査地東部で検出された掘立013については、4本柱としては隣接の調査地を含めて  
例が無い規模の建物であることから注目している（長辺4.86m×短辺3.67m）。平面形状と方位は掘立  
004に似ているが、柱穴の深さが圧倒的に深く、地山面から約0.65mを測る。間柱は確認されていな  
い。これらのことから、掘立013は、他の4本柱建物とは上部構造の規模が異なるものと考えられる。  
**小 結** 54次と26次の調査成果もふまえると、これらの建物は、形状や方位の違いによって最大で6  
群に区分可能である。これはおそらく、各時期ごとの建物形状の変化や集落における配置の変遷を反  
映した結果と理解している。具体的には、弥生時代中期以降の高床式倉庫を想定している。（橋本）

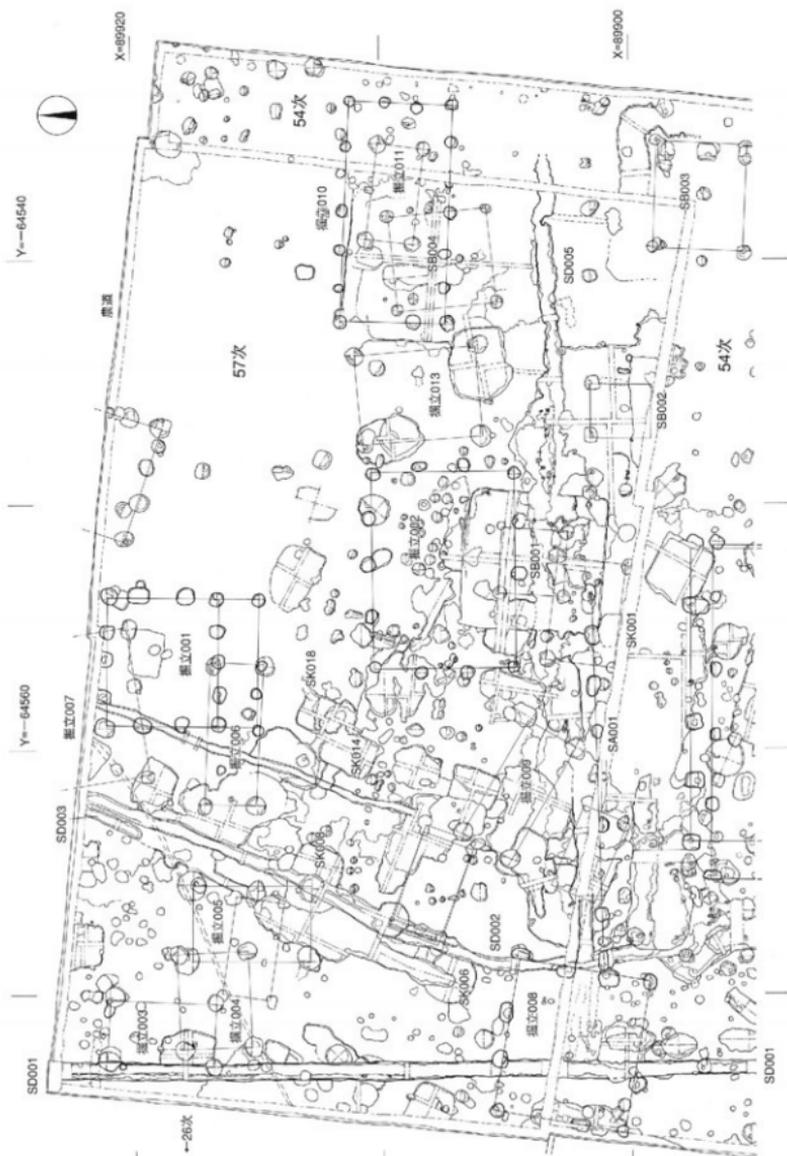


図2 遺構配置図

(S=1:200)



写真1 調査地全景（南東より）

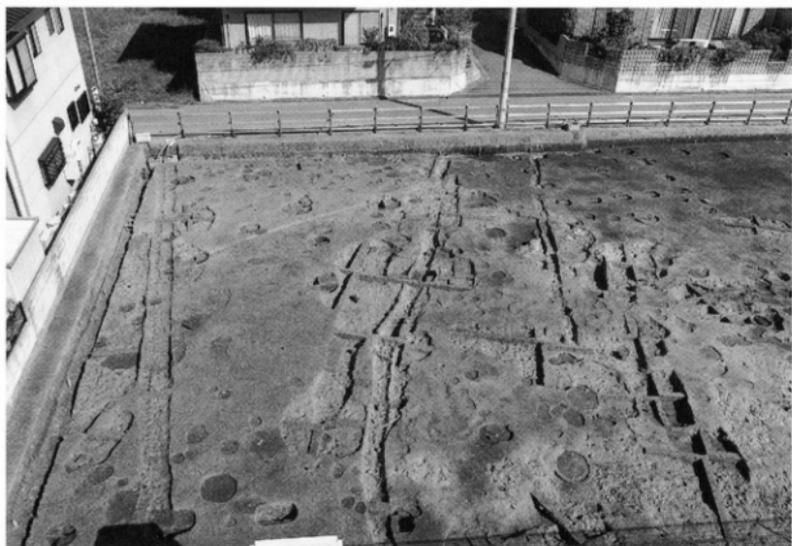


写真2 西部完掘状況（南より）



写真3 掘立001全景（東より）



写真4 南東部竪穴式住居址群完掘状況（西より）

## く め たがたけ 久米高畑遺跡58次調査地

所在地	松山市来住町923
期 間	平成15年11月4日～平成16年3月31日
面 積	560㎡
担 当	田城武志（文化財課）・小笠原彰



図1 調査地位位置図

**経 過** 本調査地は来住台地南西の台地端部に立地し、『史跡久米官衙遺跡群 久米官衙遺跡 来住廃寺跡』の主要部の一つである「回廊状遺構」の西側に位置する。また、周辺には久米高畑遺跡9次・36次調査地などが存在し、それらの成果から「回廊状遺構」西方への官衙関連遺構の展開が明らかになりつつある。今回の調査は、それら西方の官衙関連遺構の範囲と用途をより明確にするため、重要遺跡確認調査として国庫補助により実施された。

**遺構・遺物** 調査前の状況は水田であり、耕作土直下が基盤層（遺構検出面）であった。また、近年調査された調査地南隣の56次調査地は大きく削平を受けていたため遺構が少なく、本調査地の残存も良好ではないと予想されたが、比較的多くの遺構が検出された。ただし、期待していた古代（飛鳥・奈良）期の遺構は皆無で、弥生時代終末～古墳時代前期のものが主であった。検出された主な遺構は、竪穴式住居址8棟、掘立柱建物址3棟、土坑5基、不明遺構1基、溝1条、倒木痕跡3基、柱穴多数である。

**【弥生時代】** 遺構は、竪穴式住居址8棟、掘立柱建物址1棟、土坑1基が検出された。中でも土坑SK01からは弥生時代前期末～中期初頭の土器が出土しており、今回の調査のなかで最も古い時期の遺構と考えられる。また、竪穴式住居址のうち4棟（SB01～04）は、全てから弥生時代終末の土器が出土しているものの重複関係にあり、SB04→SB02・03→SB01の新古状況を確認することができた。掘立柱建物址1棟（掘立01）は2間×1間以上の規模をもつもので、さらに調査区外南に延長する可能性がある。柱穴からは、弥生時代終末の土器が出土している。

**【古墳時代】** 遺構は、性格不明遺構（SX01）が検出された。平面プランは明瞭ではなく、土層観察より不整形の土坑と考えられる。遺構内からは古墳時代前期（布留Ⅱ式併行期）のほぼ完形の土師器が一括して出土した。

**【飛鳥時代以降】** 遺構は、溝1条（SD01）が検出された。出土遺物は皆無であるが、周辺遺跡との遺構埋土の土色及び土質の比較検討から、8世紀以降の所産と考えられる。

**小 結** 今回の調査では、期待された官衙関連遺構等は確認できなかったが、来住台地南西端部において弥生時代の集落が濃密に展開することが明らかとなった。本調査地からは南の小野川に向け旧地形が緩やかに下っており、水の便も良く、居住するには適した場所だったと考えられる。また、注目すべき成果として、性格不明遺構（SX01）からの古墳時代前期の土師器の一括出土は、土師器の編年のみならず、官衙造営以前の来住台地における土地利用の変遷を考える上でも貴重な資料となるものである。（文化財課 西村）

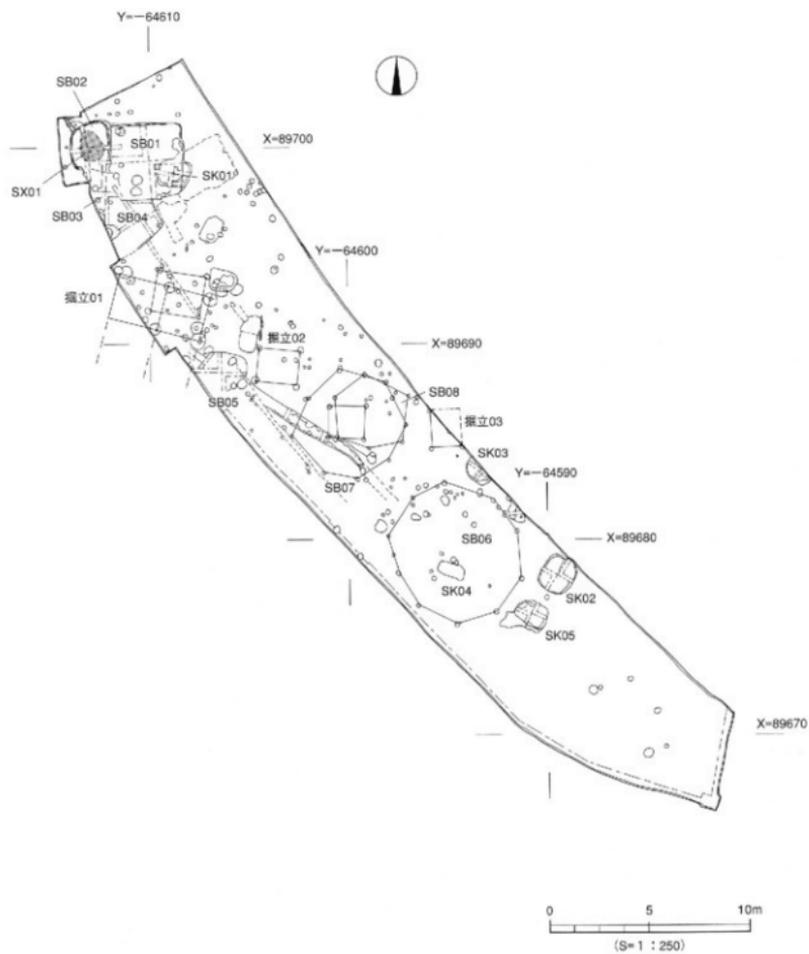


図2 遺構配置図



写真1 調査地全景（北より）



写真2 竪穴式住居址群調査状況(北より)



写真3 SB02・SX01遺物出土状況(東より)

## く め た か ば ね 久米高畑遺跡60次調査地

所在地	松山市来住町900-1の一部
期 間	平成15年11月4日～平成16年3月31日
面 積	500㎡
担 当	田城武志・田内真由美 (文化財課)



図1 調査地位置図

**経 過** 調査地は、久米官衙遺跡群内の正倉院の南東に位置する。調査地の東側にある久米高畑遺跡52次調査地では、8世紀の地割を示す溝と考えられている東西方向の2条平行な溝が見つかっている。しかし、52次調査地より西は未調査の部分が多いため、古代の土地利用を明らかにするため、この地点での調査を実施した。調査は国から補助を受けておこなった。

**遺構・遺物** 竪穴式住居1棟、溝10条、土坑14基の他、柱穴多数を確認した。土坑の多くは、弥生時代前期末～中期初頭の貯蔵穴である。平面形態では、円形（SK005、SK009）と方形（SK004、SK006、SK007、SK010～012）の2種類がある。土坑内からは、弥生時代前期末～中期初頭の甕の口縁部から胴上半部の破片が多く出土している。SK004からは壺状の片刃石斧が1点出土している。SK013の埋土は、縄文晩期以降の遺構ではみられない褐色粘質土で、平面形は円形を呈する。埋土等の特徴が50次調査のSK2・3・4と類似しており（年報13、2001）、今後詳しい検討が必要だろう。

調査地南側に位置する東西方向の溝SD001は、幅3.5m～4.6m、検出面からの深さは最深部で0.5mを測る。溝からは柱状片刃石斧、縄目叩きの平瓦、6世紀～8世紀の須恵器、6世紀の土師器、12世紀～13世紀の龍泉窯系青磁等が出土している。埋土の堆積状況からは、流水を示す痕跡は認められない。この溝は12世紀～13世紀頃までに埋まったものであろう。

調査地南東端のSB001は古墳時代の竪穴式住居址である。大きく削平を受けており、検出面から深さは10cm程しか残っていない。平面プランは方形を呈しているが、南東部分が調査区外に続くため、全体の規模は不明である。住居址北壁付近に焼土の広がりを確認したことから、つくりつけカマドが存在した可能性が考えられる。また、埋土上位付近から土師器甕の口縁部から胴上半部にかけての破片が1点出土している。おそらく古墳時代後期のものであろう。

また、調査地北側の低地部に堆積する黒色の遺物包含層は、トレンチ調査を実施した。包含層中からは弥生前期末～中期初頭と、後期の土器が出土している。この低地は、過去に調査された久米高畑遺跡31次、43次、46次、公共工事に伴う確認調査（H11-172）でも確認されている。今回検出したものは、その一部であると考えられる。

**小 結** 今回の調査では、明確に官衙関係と認定できる遺構は確認できなかった。しかし、過去の調査地点と同様に、弥生時代前期末～中期初頭の土坑群を検出した。過去の調査地の土坑と比べ、本調査の土坑はやや大型で、軸線の向きが異なっているなど、若干特徴の違いがみられる。現在のところこの違いが何を示すかは不明であり、今後の検討課題である。（田内）

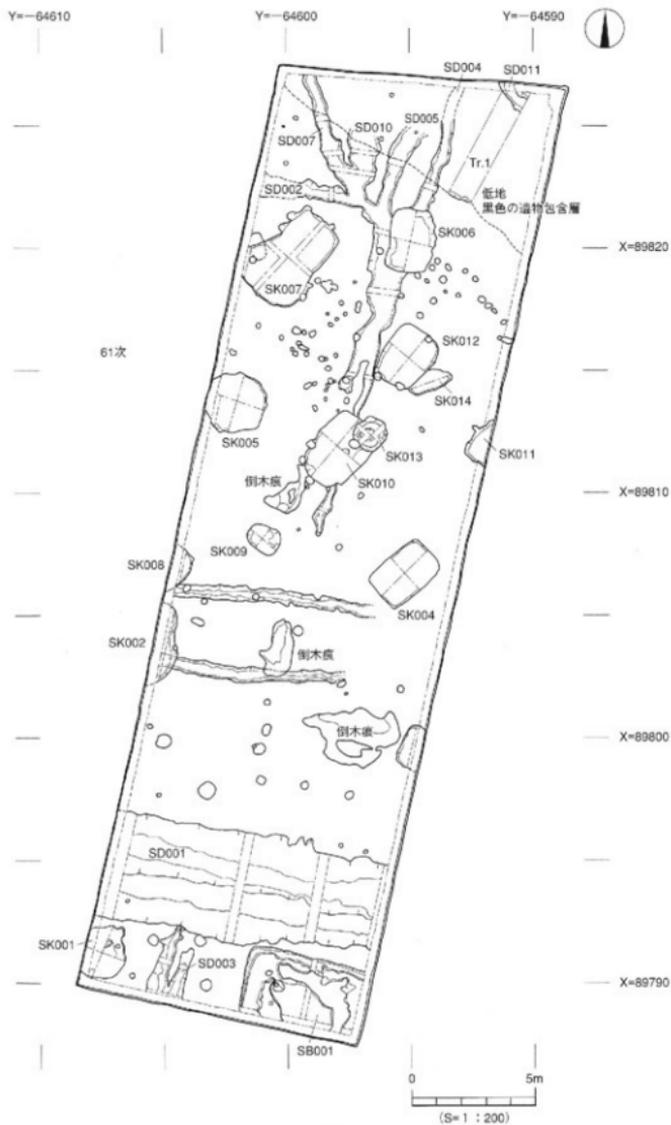


図2 遺構配置図

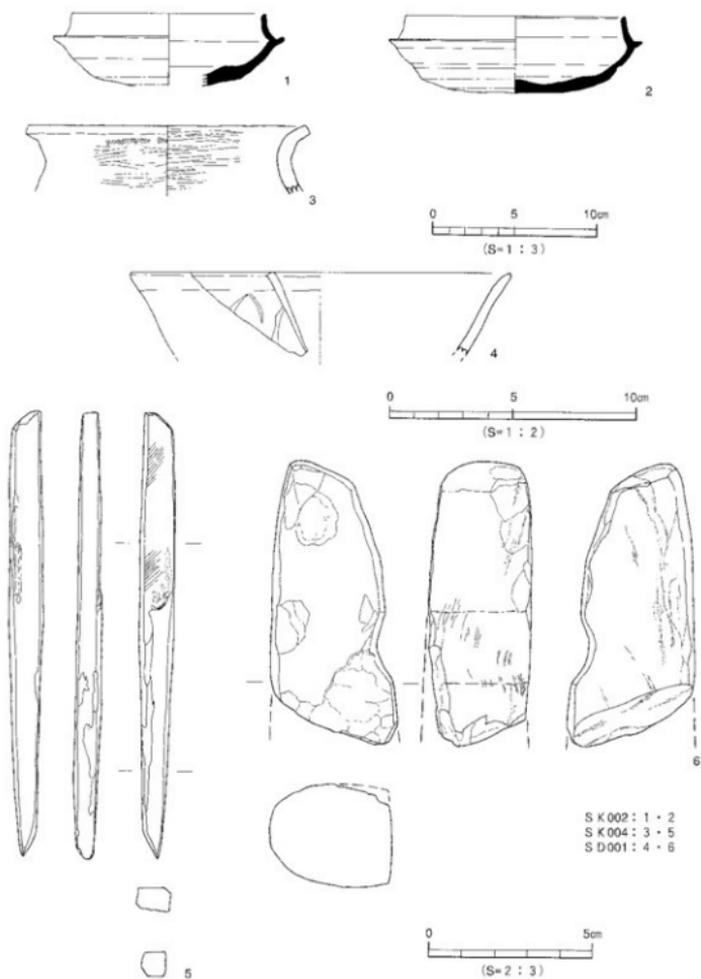


図3 出土遺物実測図



写真1 調査地全景（北西より）



写真2 SB001完掘状況（北より）



写真3 SB001遺物出土状況（南より）

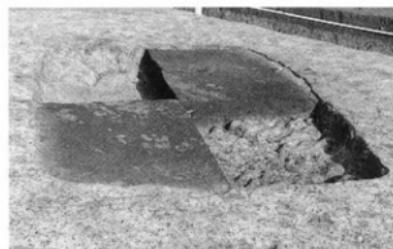


写真4 SK004完掘状況（南西より）

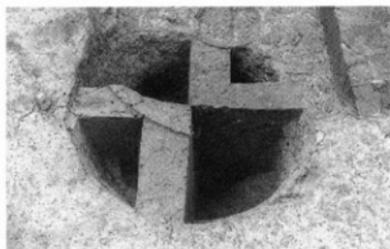


写真5 SK013完掘状況（北東より）

# 久米地区公共工事に伴う確認調査

## (中単2609汚水雨水管工事に伴う埋蔵文化財調査)

所在地	松山市南久米町577番地 外
期間	平成15年3月24日～同年6月30日
面積	404.7㎡
担当	相原浩二・武正良浩



図1 調査地位位置図

**経過** 本調査は、松山市久米地区内における上・下水道の敷設工事に伴う事前確認調査である。調査地は市指定の埋蔵文化財包蔵地〔No126高畑遺物包含地、No127米住廃寺跡〕内にあり、官衙関連遺跡群の久米高畑遺跡や国指定史跡の米住廃寺等が知られている。調査は工事の掘削深度が1.5mを超えないことから、基本的に調査の最大深度を範囲内に留め、計31本のトレンチ（T1～31）を設定して実施した。

**遺構・遺物** 調査地は、松山平野南東部を流れる堀越川と小野川に挟まれた微高地の米住台地に所在し、標高36mを測る。基本土層は、第Ⅰ層造成土①（コンクリート及びアスファルト舗装・アンダー砕石・真砂土、層厚20～240cm）、第Ⅱ層造成土②（攪乱土、層厚20～140cm。T7～24で検出し、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、陶磁器の小破片が出土）、第Ⅲ層造成土③（埋戻土、層厚10～60cm）、第Ⅳ層旧耕作土（暗灰色土/暗青灰色土、層厚20～25cm）、第Ⅴ層遺物包含層（暗灰褐色土/暗灰褐色粘質土/黒褐色土、層厚10～60cm。本層からは弥生土器、土師質土器、須恵器が出土）、第Ⅵ層地山（淡黄色土/淡黄茶色土）である。遺構は第Ⅴ層及び第Ⅵ層上面で検出した。遺構は、下水管敷設のために掘削したトレンチ内で確認しており、自然流路3条（T20・21・26・27内）、土坑墓1基（T4内）である。

土坑墓：墓坑の平面形態は、楕円形を呈するものと考えられ、規模は長さ3.46m、幅1.04m、深さ1.38mを測る。坑上は灰色土で2～3cm大の丸礫石が含まれる。墓坑下部からは、桶棺（内径30cm）が出土した。内部からは被葬者の歯牙が一部検出されたが人骨、副葬品等は確認できなかった。時期特定は困難であるが、土層観察及び桶棺から中世以降とする。

歯牙：桶棺内から上下顎前歯・臼歯など全顎の2割強（7歯）の歯牙が出土した。全資料の遺存状態は歯冠部のみである。また、全ての歯牙は永久歯である。

**小結** 調査では、弥生時代～中近世の遺構と遺物を確認することができた。また、第Ⅵ層の堆積と遺構の分布状況から、旧地形の様相と遺跡の広がりについて、新たな知見を得ることができた。T3～6を設定した南久米公園北側は、旧地形が落ち込み、第Ⅵ層は未検出である。ただし、T4内から土坑墓を検出したことから、このエリア周辺が墓域として利用されていた可能性がある。T25～T29からは地山や遺構を検出しており、南久米公園北東側は安定した土地環境であったと思われる。T20からは弥生時代後期の土器が出土していることから、小高い丘状を呈する南久米公園一帯にはこの時期の集落関連遺構が存在することが予想される。（武正）

【文献】小笠原善治 1996 「古畑遺跡8次調査A地区出土の人の歯牙について」『古畑遺跡第8・9次調査』松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

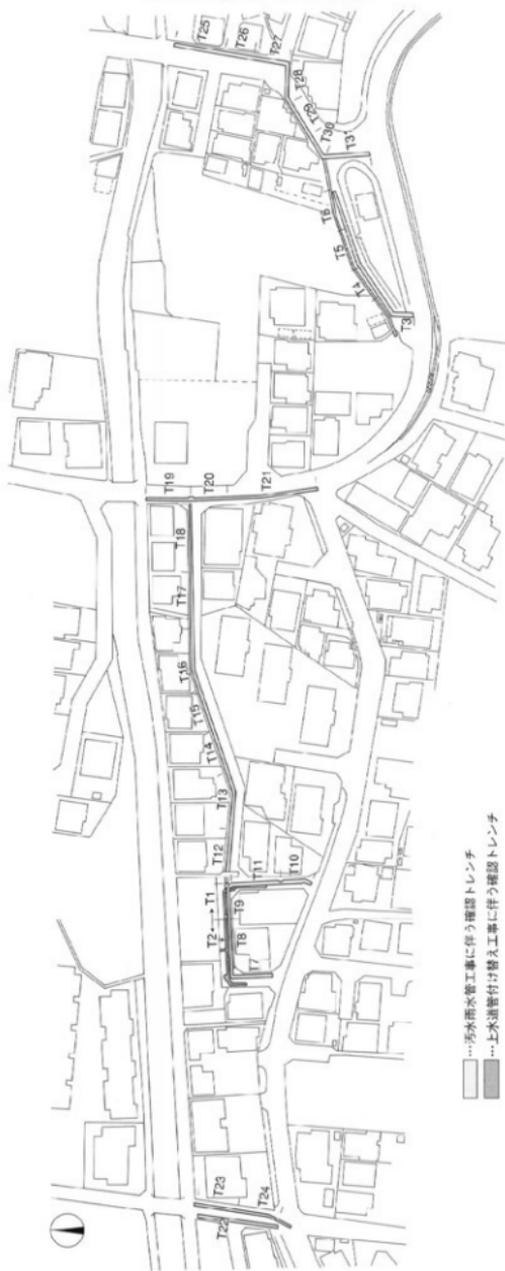


図2 確認調査トレンチ位置図 (S=1:1,500)

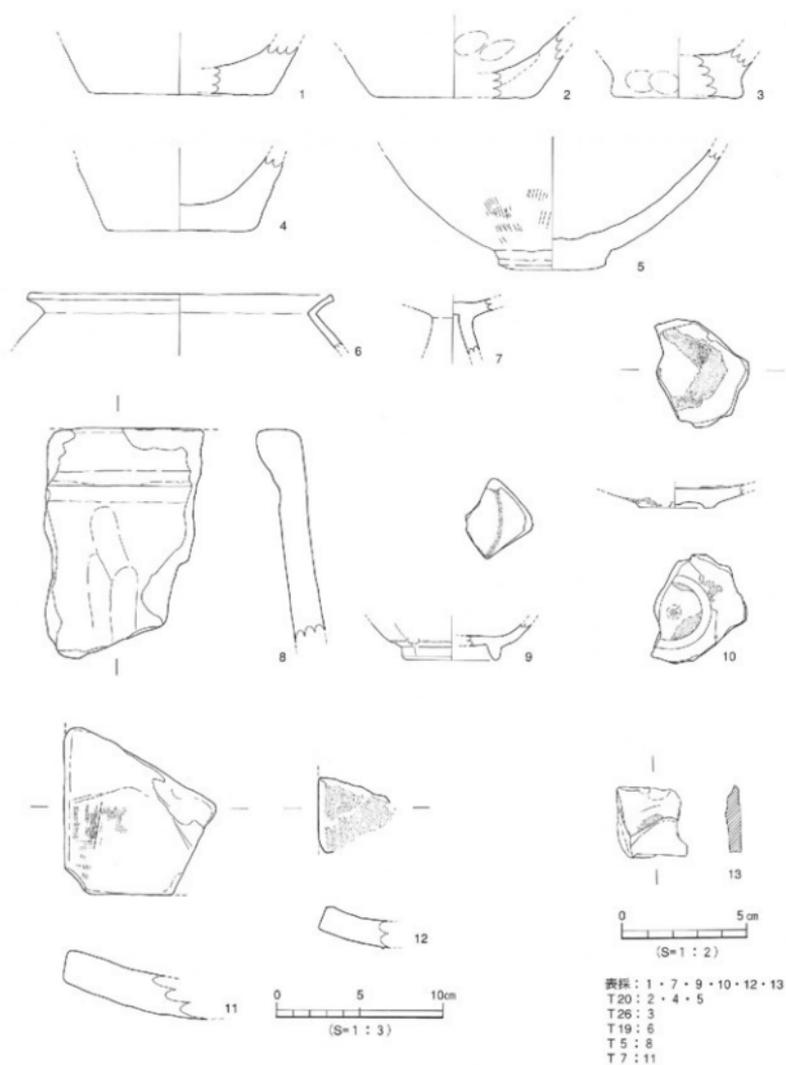


図3 出土遺物実測図



写真1 T6完掘状況（南西より）



写真2 T20自然流路完掘状況（南より）

## 政庁における試掘調査 (H14-321)

所在地	松山市南久米町769番
期間	平成15年2月3日～同年2月7日、 平成15年5月19日～同年6月6日
面積	約981㎡
担当	橋本雄一



図1 調査地位位置図

**経過** 平成14年12月25日、武智常雄氏より当該箇所における埋藏文化財確認願が提出されたことを受けて、松山市教育委員会文化財課は武智氏と協議を行った。対象地は平成13年度に調査が実施され、久米官衙遺跡群の政庁の存在が知られている久米高畑遺跡51次調査地の南に接しており、関連の施設が展開することが確実であったことから、取り扱いは協議を重ねた。最終的に地権者の同意が得られないことから、本格的な調査の実施は困難と判断されたが、最低限の情報を得るために、試掘調査の実施が決定された。調査は平成15年2月に5日間にわたって行われたが、その後、開発の具体的な内容が提示され、集合住宅の浄化槽と給水管の設置によって遺構の保護ができない箇所の存在が判明したため、改めて追加の調査を実施した。時間的な制約から、基本的に遺構を検出するにとどめたが、浄化槽設置の可能性が高い場所については、掘り下げを実施した箇所もある。最終的には、浄化槽の位置が変更されたため、重要遺構の存在が明らかになった場所に関しては、遺構は保護されている。

**遺構・遺物** 図2と図4に、2回の調査成果を合わせて提示する。

調査の結果、政庁本体の遺構としては、北の51次調査地(年報14)から続く政庁東脇殿の南端を確定したほか、政庁南辺の柱列とこれに付随する付属舎1棟を確認した。この他、政庁廃絶後の大型の南北棟と東西棟各1棟のほか、東西方向に一直線に掘られた区画溝の下部からは、遺構の廃絶時期の上限を示す良好な遺物が検出された。

東脇殿(久米高畑51次-掘立003)南端の柱穴5基を検出し、この建物の規模が、桁行15間(約31.27m・105尺)×梁行2間(3.60m・約12尺)、方位はN-0.5°-Eであることが判明した。北端から10間(70尺)の位置に間仕切りの柱穴が掘られていることが、51次調査で明らかになっている。

政庁南辺を構成する柱列：SA1を構成する柱穴10基(9間分・約19.4m)を検出した。このうち、西よりの4間分に梁行2間の掘立1が取り付く。掘立1の東妻柱が、後出する掘立7の柱穴と重複していることから明確でないが、桁行4間(約9m)×梁行2間(約3.5m)程度の規模で復元している。方位はN-93°-Wで、東脇殿や正殿とは若干のずれが認められる。

掘立7は、桁行6間(12.04m・40尺)×梁行3間(4.82m・16尺)、N-4.5°-Eの南北棟。桁行の5分の2を梁行の長さとしたものと考えられる。基準尺には、回廊状遺構などの主要箇所でも認められる1尺30cm強程度のものを使用した可能性が高い(年報13)。

掘立2は、東西不明×南北3間(約6m・20尺)の掘立柱建物の一部である。おそらく東西棟の東側柱列を検出したものであろうと考えられる。方位や柱穴の特徴が一致すること、建物北辺の位置が揃っていることなどから、東隣の掘立7と密接な関係にある建物であると考えられる。



図2 政庁周辺における遺構配置図

0 10 20m  
(S=1:600)

掘立3、5、6は官衙より先行する段階の建物であると考えられるが、規模等の詳細は不明である。

SD1は官衙の区画溝である。幅1.25~1.85m、N-93.5°-E、全長約20m弱を検出し、ほぼ全掘した。SA1とは方位が大きく異なることなどから、政庁焼絶後の段階の区画溝であると想定している。掘立7の南側柱列と接しているが、先後関係は不明である。この溝の西端下部において、須恵器の一群が出土した(図3、図4)。このうち坏蓋の2と3は完形、1は土圧によって元位置において割れていたが、完形に復元されている。これらの坏蓋等は、面を描えた状態で出土している(写真3、4)。須恵器の近くには、少量ながら炭化物が集中する状況も確認されていることなどから、この溝において祭祀が行われた可能性も想定している。溝の底には、厚さ16~20cm程度の土が堆積した状態で須恵器が存在することから、溝が掘られてから須恵器が投棄されるまでの間には、泥が溜まる程度の時間の経過があったものと想定される。なお、溝の土層は、須恵器群出土位置より上位においても自然に堆積したものであって、人為的に埋められた形跡は認められない。それらの埋土中から出土する遺物の示す年代は、遺物群よりも概ね古い時期が中心である。

小 結 政庁より後出する段階の掘立7とSD1については、調査地に隣接する久米高畑51次と同1次の際に検出されている複数の建物などと同様、回廊状遺構が所属する7世紀中頃の地割を伴う段階に位置づけ可能である。SD1出土須恵器の存在は、この見解を裏づけるものである。ただし、両者の位置関係からも明らかなように、これら政庁の跡地に建てられる諸施設には、ある程度の時間幅を考慮しておく必要があるであろう。(橋本)

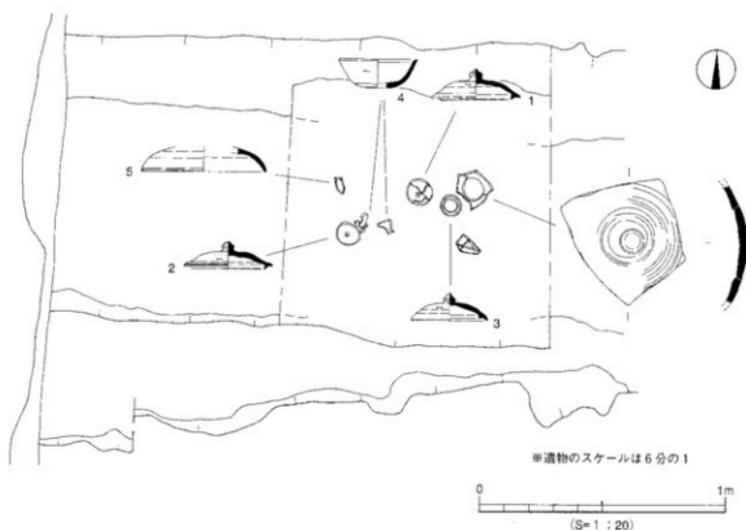


図3 SD1遺物出土状況図

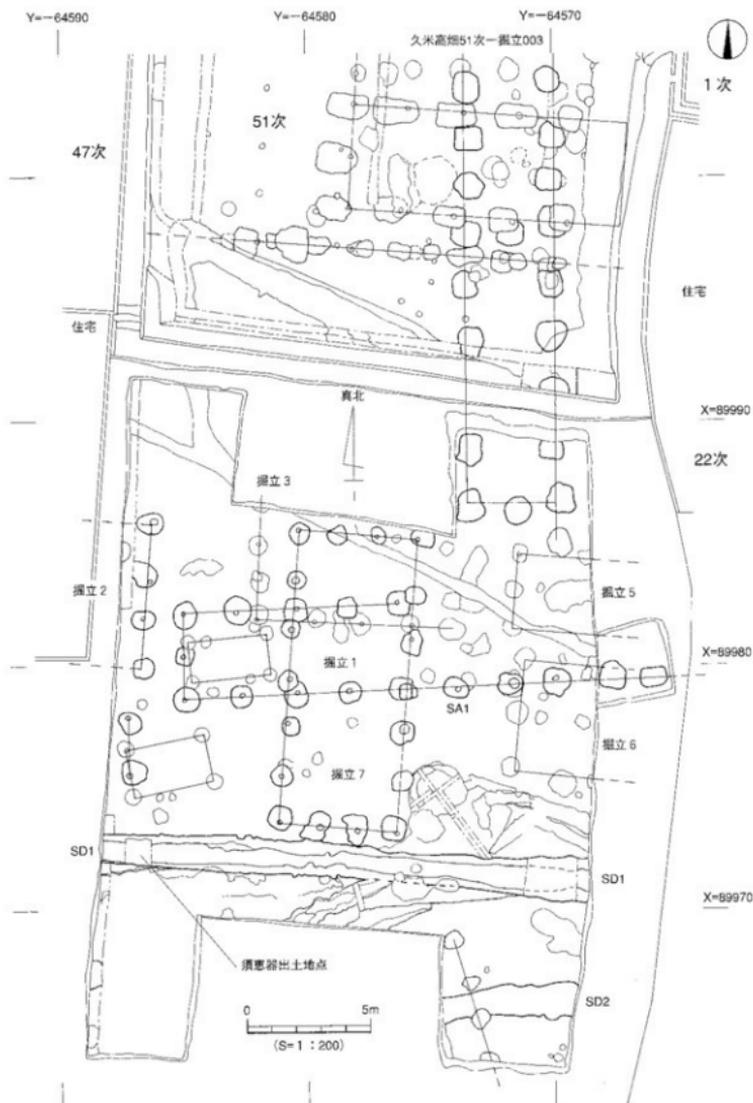


図4 調査地北部遺構配置図



写真1 調査地北部検出状況 (南より)

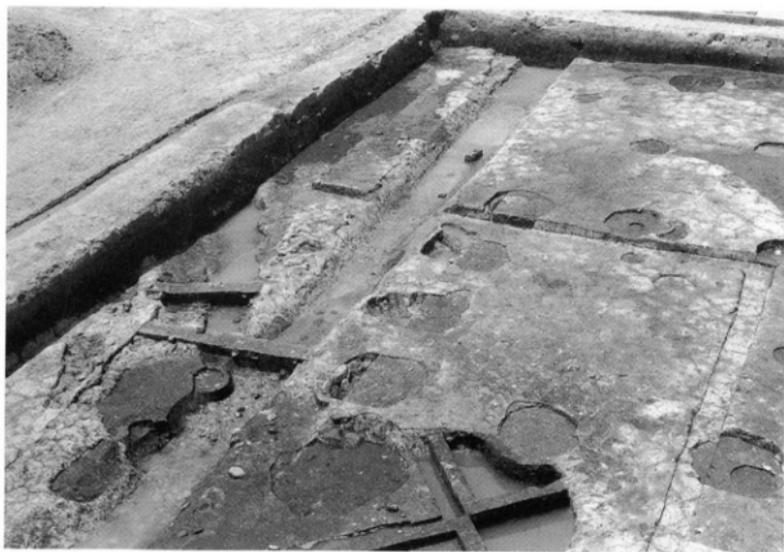


写真2 SD1完掘状況 (北東より)



写真3 SD1土層堆積状況と出土遺物（東より）

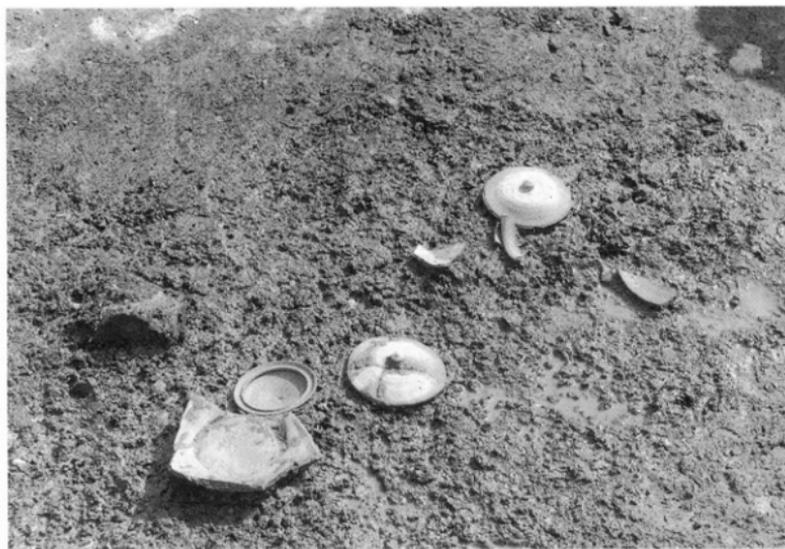


写真4 SD1須恵器出土状況（北東より）

## 久米官衙遺跡群 ～平成15年度の成果と今後の展望～

### H14-321出土の須恵器について

政庁における試掘調査（H14-321、p76）の際に、官衙の区画溝：SD1の下部から出土した須恵器の一群と、出土状況が酷似する同様の遺物の出土例が、過去の調査において知られている。1987年から88年にかけて行われた来住廃寺5次調査の際に、回廊状遺構の北側の濠（SD6）において、完形の坏蓋2点を含む遺物が出土している（年報Ⅱ）。年代のわかる遺物が少ない当遺跡群においては、主要遺構の所属時期を知ることのできる貴重な遺物として重要視されてきたものである。

両者を比較すると、坏蓋の形態そのものは極めて似ているが、今回出土したものの方が、宝珠つまみが小さく、薄手で口縁部内側のかえりがしっかりしており、やや古いものである印象を受ける。従来、この5次調査出土遺物には、7世紀第3四半期ごろの年代が与えられてきたが、今回のものについても、概ね、これと同様の評価をしておきたい。

時間的に近接するだけでなく、両者の出土状況に関しても似た状況が認められる。

来住廃寺5次調査における出土場所は、回廊状遺構の南北中軸線付近にあたる。今回の出土場所は、政庁廃絶後に設けられる区画施設（久米高畑51次-S A003、年報14）に付属する門の南正面の延長線上に近接している。また、この場所は、先行する段階の政庁の推定南北中軸線にも一致している。今回の出土地点であるSD1は、51次のS A003や、その北に広がる建物群ならびに今回の試掘で検出された掘立2と掘立7などと方位が一致することから、政庁廃絶後の一連の施設のひとつであると評価している。ただし、この溝に接する位置に建てられた掘立7との間には、一定の時間差が存在するものと考えられる。したがって、この溝は、政庁廃絶後の施設であるとしても、北に位置する建物群の南面を区画するためのものではなく、溝の南側区域に存在が予想される別の施設の北面を区画するために掘られたものであると考えられる。この溝が、回廊状遺構北半の区画溝ならびに正倉院の濠に次ぐ規模の区画溝であることから、溝の南には、かなり重要度の高い施設が展開するものと想定可能である。仮に重要施設の北面区画溝であると理解すると、これらの須恵器が出土した場所は、回廊状遺構に対する出土位置と同様、施設の南北中軸線近くに該当する可能性も想定される。

SD1の南側にどのような施設が存在するのか、調査が行われない状況では知ることはできないが、政庁における51次調査の成果に関連して年報14にて言及したとおり、回廊状遺構が所属する時期（あるいはその後）の政庁が存在する可能性もあるのではないかと考える。

なお、両出土地点において共通の事項として、完形もしくはそれに近い坏蓋数点が出土したにも関わらず、坏身については各1点しか確認されない事実を指摘しておきたい。今回の土器群の中に、坏身の破片が3点含まれていたが、これらを接合しても1個体の半分に満たない状況であった。5次調査にいたっては、近年の整理作業の際に、付近の出土遺物中において破片1点を認定したのみである。今回出土した坏蓋の端部が薄手のつくりでありながら、まったく欠損していないことと比較すると対照的な状況である。このような状況から、いずれの地点においても、祭祀の終了時に坏身が意図的に打ち割られた可能性もあると想定している。

以上、特徴的な遺物の出土状況から、主要2施設において、ほぼ同時期に、似通った形態の祭祀が行われていた可能性を指摘しておきたい。この事実、遺跡群内で南北に離れて立地する二つの役所施設が、当時、密接な関連のもとにあった状況を示唆するものと言えよう。（橋本）



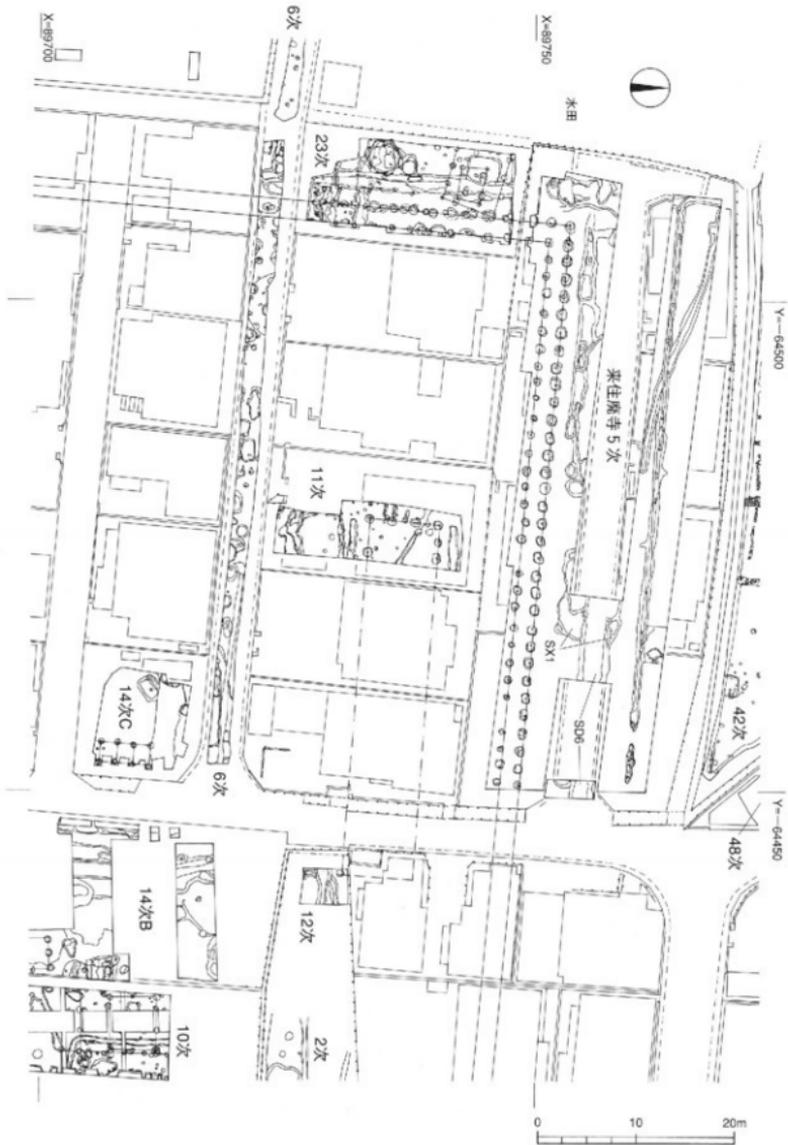
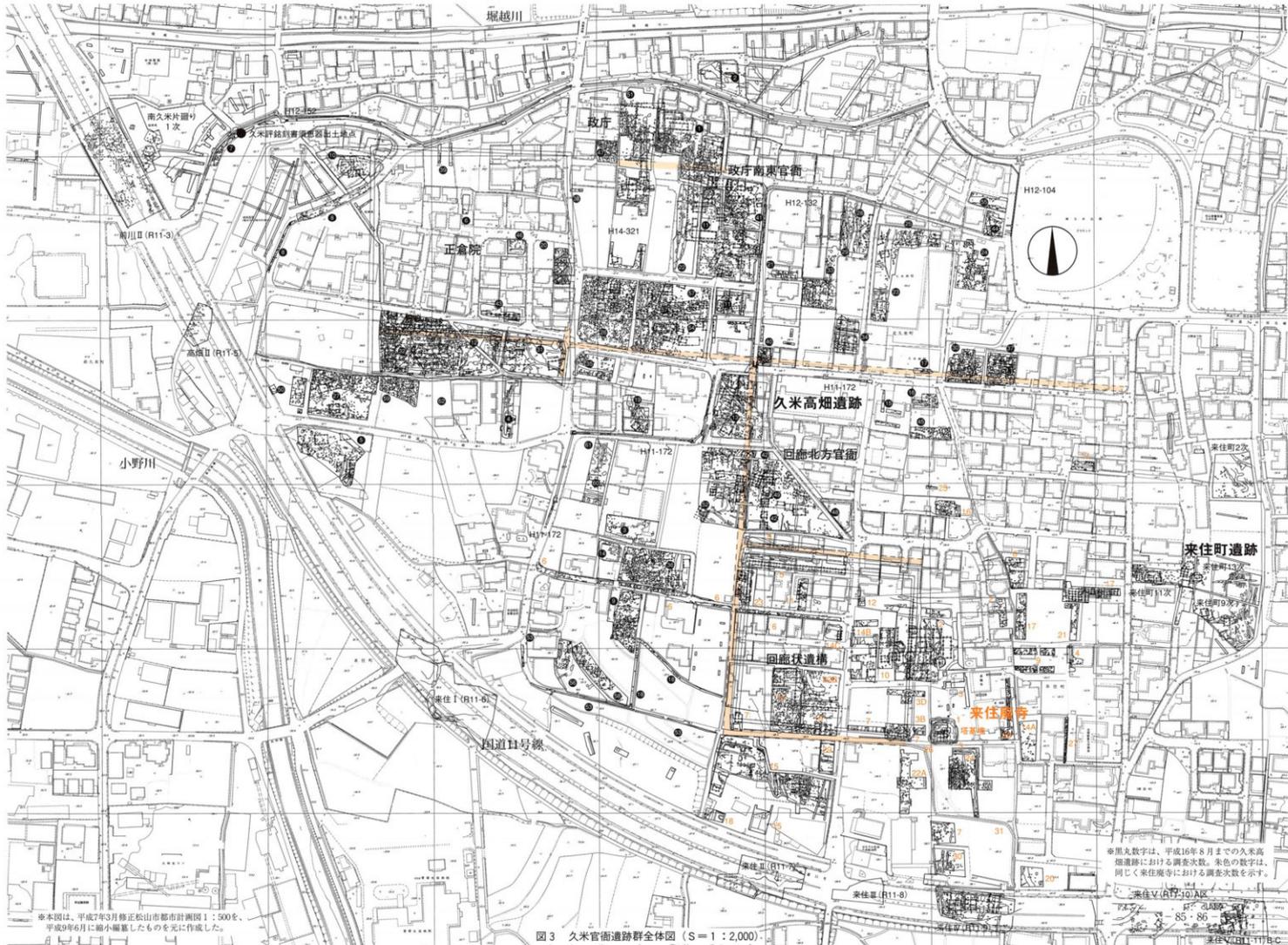


図2 SD6ならびにSX1位置図

(S-1 : 500)



※本図は、平成7年3月修正松山市都市計画図1:500を、平成9年6月に縮小編纂したものを元に作成した。

※黒丸数字は、平成16年8月までの久米高畑遺跡における調査次数。赤色の数字は、同じく来住庵寺における調査次数を示す。

図3 久米官衙遺跡群全体図 (S=1:2,000)

## II 平成15年度

### 松山市埋蔵文化財調査関係資料

表1 平成15年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

NO.	遺 跡 名	所 在 地	調査目的	時代	工芸品類・遺物等	対象面積(m <sup>2</sup> )	野外調査期間	NO.
395-3	〔松山市道北久米前原遺跡〕西石井遺跡3次調査地	西石井6丁目200番地11 外	緊急	弥生	土器・土器片・土器等	3,200	H15.3.10～H16.2.13	395-3
401-2	〔松山市道小野158分科岡田遺跡〕上坊間遺跡4次調査地	牛井町甲176番地 外	緊急	弥生	土器・土器片・土器等	996.20	H15.2.1～H15.7.31	401-2
404 2-A	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡3次調査地	徳味津4丁目229番 外	緊急	古墳	埴輪・土器	1,177.9	H15.4.10～H15.9.15	404 2-A
2-B	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡4次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	古墳	埴輪・土器	671.63	H15.4.10～H15.9.15	2-B
404 3-A	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡5次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	弥生	土器・土器片・土器等	1,217.03	H15.8.1～H16.1.30	404 3-A
408 1-B	〔松山市道水尾南井線間遺跡〕水尾遺跡1次調査地	水尾町1346番 1 外	緊急	古代	土器	2,800	H15.8.1～H16.3.21	408 1-B
408 2-A	〔松山市道水尾南井線間遺跡〕水尾遺跡2次調査地	水尾町464-1 外	緊急	中世	土器	1,764	H15.4.14～H15.7.21	408 2-A
413	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡3次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	中世	土器	230.84	H15.4.14～H15.6.23	413
414	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡4次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	中世	土器	917	H15.4.14～H15.11.4	414
415	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡5次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	弥生	土器	150	H15.4.14～H15.5.16	415
416	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡6次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	弥生	土器	400	H15.9.1～H16.1.30	416
418	〔松山市道徳味津宮前遺跡〕徳味津宮前遺跡7次調査地	徳味津4丁目200番 外	緊急	弥生	土器	245.35	H15.8.4～H15.8.29	418
419 1	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺1次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	1,502	H15.9.1～H16.1.30	419-1
420	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺2次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	443.83	H15.11.4～H15.12.25	420
421	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺3次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	500	H15.11.4～H16.3.31	421
422	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺4次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	300	H15.11.4～H16.3.31	422
423	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺5次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	500	H15.11.4～H16.3.31	423
424	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺6次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	165.30	H16.2.2～H16.3.19	424
425	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺7次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	35	H16.1.6～H16.3.31	425
426	〔松山市道南北極寺間遺跡〕南極寺8次調査地	南極寺5丁目1329-1、1329-2	緊急	中世	土器	339	H16.1.19～H16.3.26	426



図1 平成15年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図 (S=1:75,000)

### Ⅲ 平成15年度 保存処理及び出土遺物整理

# 1. 平成15年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査の整理作業と並行して、過去約20年間の調査資料の整理作業も行っている。今年度は昨年度に引き続き、膨大になってきた収蔵品の再整理と、保存処理を必要とする資料への対応を重点項目とした。

## 1. 遺物

青銅製品：保存処理および復元・科学分析を外部委託しているが、本年度は該当資料がない。

鉄製品：収蔵品目録の製作を重点的に行う。保存処理は当センターで行うが、特殊な資料やX線撮影は外部委託している。今年度の重要資料の外部委託は鉄刀2点、刀装具1点、塗製品1点を財元興寺文化財研究所に依頼する。

植物遺体：木製品や種実は品種同定を外部委託し、そのうえで当センターで保存処理をしている。今年度は樹種同定2件を奈良環境研究所に委託する。

なお、平成8年度に実施した久米高知遺跡27次調査の自然科学分析の結果を掲載する。同遺跡の調査報告は『松山市文化財調査報告書第101集』（2004年3月刊行）中で行っているが、紙面の都合から分析結果を取り上げることが出来なかったため、ここで公開することにした。分析は、珪酸体分析・花粉分析・炭化材樹種同定・放射性炭素年代測定を実施している。

動物遺体：洗浄や保護の作業を行う。品種同定は、来年度以降に行いたい。

土器：収蔵庫整理では、報告書の刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行う。特に、展示会や類例調査等で使用頻度の高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保管した。今年度は、古墳時代の朝鮮半島系土器を主体に整理を進め、台帳作成後に、館外貸し出しを念頭に入れた保管をした。

石器：土器と同様の作業を進め、特に、選別作業を重視した。

採取品：平成14年に届けのあった市内平田町の耕作中に採取された土器・石器を掲載している。

## 2. 写真

ネガ：35mm判と6×7判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所で収納する。4×5判は写真担当者が整理する。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをコンテナに収納し、収蔵庫に保管する。

## 3. 実測図・日誌・報告書原図

遺構測量図・遺物実測図・日誌・報告書原図は収蔵庫の所定の場所で保管する。

(山本・梅木)

## 2. 保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理（PEG含浸処理）、金属製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に向向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。  
(山本)

### 1. 木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理はPEG（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。PEG含浸法は、木製品中の水分をPEGに置き換える方法で、20%の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100%濃度のPEG溶液をしみこませることになる。この処理は1～1.5年位を要する。平成15年度は木製品の保管数が少なく、保存処理は行っていない。

### 2. 金属製品の保存処理

前処理（脱水・脱塩・安定化処理）を行っていた金属製品は、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・RPシステム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を表1に記す。

表1 平成15年度 金属製品保存処理遺跡名一覧

No	遺跡名	点数	作業工程	刊行物
3	かいなご1号墳	1	脱塩中	松山市文化財調査報告書第6集
151	朝日谷2号墳	8	脱塩中	松山市文化財調査報告書第63集
166	福吉小学校構内	48	処理済	松山市文化財調査報告書第50・91・95集
263	粟佐池古墳	30	脱塩中	松山市文化財調査報告書第92集
281	瀬戸風峠	346	処理済	松山市文化財調査報告書第59集
347	福前塚天神山古墳	505	脱塩中	松山市文化財調査報告書第83集
402	権味高木遺跡 6次調査地	47	脱塩中	松山市埋蔵文化財調査年報15

### 3. 人骨・獣骨（動物遺骸体）の保存処理

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けて全体（内部まで）を強化し保護する。また、収蔵遺物の再整理を行い収蔵台帳の作成も行っている。平成15年度は保存処理は行っていない。

### 4. 遺構・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合

に遺構・遺物の取り上げを行う。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い（骨を土ごと取り上げること、年報11、保存処理事業Ⅰ-3参照）、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる（年報X、保存処理事業Ⅰ-3参照）。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がりが、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成15年度は遺構・遺物の取り上げは行っていない。

### 5. 土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取り転写は、転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成15年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献：1～5奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター「埋蔵文化財ニュース16・24・28・31」

### 6. 出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

以下の表に平成15年度調査により出土した遺跡名、種類、点数を記す。

表2 平成15年度 調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

No	遺跡名	種類	点数	内訳
401-2	上瓦屋遺跡4次調査地	植物遺体	19ブロック	炭化種子
404-3-A	御味高木遺跡8次調査地	金属製品	1	鉋・鋸先
417	茶町遺跡	金属製品	1	耳環
419-1	南梅本上方遺跡	金属製遺物	2	各種不明
		木製遺物	21	柱材など
		植物遺体	3	桃核など
423	東本遺跡7次調査地	金属製品	6	鉋・鋸先など
430	北久米遺跡3次調査地	金属製遺物	3	釘・洋など
	試掘	木製遺物	15	楕円
		動物遺体	1	人骨(足など)



写真1 瀬戸風峠1号墳出土櫛（処理前）



写真2 瀬戸風峠1号墳出土櫛（処理後）



写真3 瀬戸風峠1号墳出土鉄斧(処理前)



写真4 瀬戸風峠1号墳出土鉄斧(処理後)

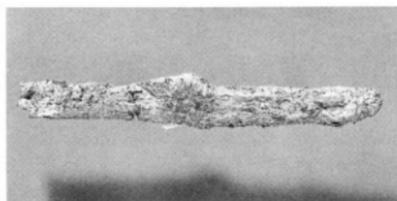


写真5 瀬戸風峠1号墳出土刀子(処理前)

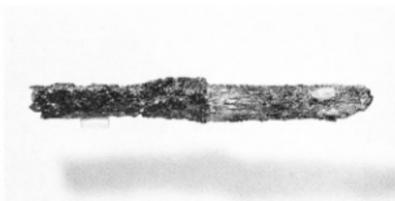


写真6 瀬戸風峠1号墳出土刀子(処理後)



写真7 瀬戸風峠1号墳出土鉄身部(処理前)



写真8 瀬戸風峠1号墳出土鉄基部(処理前)



写真9 瀬戸風峠1号墳出土鉄(処理後)



写真10 瀬戸風峠1号墳出土鉄側面(処理後)



写真11 福音小学校構内遺跡出土鑄造鉄斧（処理前）



写真12 福音小学校構内遺跡出土鑄造鉄斧（処理前）



写真13 福音小学校構内遺跡出土鑄造鉄斧（処理後）



写真14 福音小学校構内遺跡出土鋤鎌（処理前）



写真15 福音小学校構内遺跡出土鋤鎌（処理後）



写真16 福音小学校構内遺跡出土鋤・鋤先（処理前）



写真17 福音小学校構内遺跡出土鋤・鋤先（処理後）

### 3. 出土遺物整理

**古墳時代の朝鮮半島系土器** 松山市内では、この10年で陶質土器・非陶質系須恵器・軟質系土器の出土が目覚ましく、県内外で注目されるようになってきている。松山市考古館でも平成14年度の特別展では『海を渡ってきた ひと もの わざ』と題し、松山平野出土品の西日本の位置付けを試みた。平成15年度までに当センターで保管している該当資料は201点であり、これらの土器はここ3か年で実測し、台帳を作成して、特別収蔵庫を主体に保管している。以下、一覧表と実測図を掲載し、資料の公開に努めたい。

(山之内・梅木)

#### 【掲載文献】

- 高尾和長 1999「船ヶ谷遺跡－2次調査－」『松山市文化財調査報告書』第70集  
高尾和長 2002「船ヶ谷遺跡－4次調査－遺構・遺物編」『松山市文化財調査報告書』第88集  
高尾和長 2002「樽味四反地遺跡－5次調査－」『松山市文化財調査報告書』第87集  
山之内志郎 2001「福音寺地区の遺跡Ⅲ」『松山市文化財調査報告書』第84集  
武正良浩 2003「福音小学校構内遺跡Ⅱ－古墳時代以降編－」『松山市文化財調査報告書』第91集  
田城武志・高尾和長 1994「東山古墳群－4・5次調査－」『松山市文化財調査報告書』第41集  
松山市史料集編集委員会 1980「松山市史料集 第1巻」松山市役所  
河野史知・相原浩二 1995「辻町遺跡－2次調査地－」『松山市文化財調査報告書』第51集  
梅木謙一 2001「東雲神社遺跡」『松山市文化財調査報告書』第79集  
水本完児 2001「東野中畦遺跡」『松山市文化財調査報告書』第82集  
梅木謙一 1996「福音寺地区の遺跡」『松山市文化財調査報告書』第52集  
橋本雄一 1994「北久米沼蓮寺遺跡－3次調査地－」『松山市文化財調査報告書』第42集  
森光晴 1984「国道11号バイパス福音寺・星ノ岡・北久米遺跡」『松山市文化財調査報告書』第17集  
森光晴 1979「五郎兵衛谷古墳」『松山市文化財調査報告書』第13集  
梅木謙一 1998「石井・浮穴の遺跡」『松山市文化財調査報告書』第65集  
梅木謙一・宮内慎一 1994「桑原地区の遺跡Ⅱ」『松山市文化財調査報告書』第46集

表1 陶質土器・陶質系土器一覽

序号	遺跡名	出土地	器種	残存	時期	種類	文献
1	船ヶ谷遺跡2次	SR1	壺	口縁~腹部	5世紀後半	陶質系土器	市70集「船ヶ谷2次」-107
2	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	小型器台	完整	5世紀前半	陶質土器	市88集「船ヶ谷4次」-205
3	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	小型器台	完整	5世紀前半	陶質土器	市88集「船ヶ谷4次」-206
4	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	坏蓋	口縁~天身部	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-314
5	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	坏蓋	口縁~天身部	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-515
6	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	坏蓋	口縁~天身部	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-516
7	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	坏身	口縁~底部	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-517
8	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	坏身	口縁~底部	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-520
9	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏または小型器台	坏部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-564
10	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏または小型器台	坏部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-565
11	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏または小型器台	坏部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-568
12	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏または小型器台	坏部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-399
13	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏または小型器台	柱部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-601
14	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏または小型器台	柱部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-602
15	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	蓋	底部片	5~6世紀	陶質系土器-継文	市88集「船ヶ谷4次」-609
16	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	ほぼ完整	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-610
17	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	胴部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-611
18	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	胴部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-612
19	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	胴部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-613
20	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	ほぼ完整	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-653
21	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	底部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-655
22	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	広口小壺	ほぼ完整	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-672
23	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	短頸壺	ほぼ完整	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-679
24	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	ほぼ完整	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-680
25	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	広口小壺	体部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-683
26	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	器台	坏部片	5~6世紀	陶質系土器・山形文	市88集「船ヶ谷4次」-730
27	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	器台	坏部片	5~6世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-740
28	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	高坏または小型器台	坏部片	6~7世紀	陶質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1139
29	船ヶ谷遺跡4次	SK2	高坏・壺	口縁~天身部	5世紀前半	陶質土器	市88集「船ヶ谷4次」-1570
30	船ヶ谷遺跡4次	新発見	不明	胴部片	6~7世紀	高質系土器・焼文	市88集「船ヶ谷4次」-1673
31	榊林四反地遺跡5次	SR1①層	器台	胴部片	5世紀後半以降	陶質系土器・山形文	市87集「榊林四反地5次」-254
32	榊林四反地遺跡5次	SR1①層	器台	胴部片	5世紀後半以降	陶質系土器・山形文	市87集「榊林四反地5次」-256
33	福富小学校境内遺跡	SX533	特殊扁壺	胴部片	6世紀	陶質系土器	市91集「福富小学校境内遺跡II」-761
34	東山古墳群4次	9号墳南溝	壺	口縁~肩部	6世紀初葉	陶質系土器	市41集「東山古墳群」-25
35	小野周辺		長頸壺	完整	6世紀前半	陶質土器	松江市史料集第1巻「原野53」14

表2 非陶器系須恵器一覽

(1)

序号	遺跡名	出土地	器種	残存	時期	分類	文献
1	船ヶ谷遺跡2次	SR1 E16区	壺	口縁~腹部	5世紀後半	I類	市70集「船ヶ谷2次」-106
2	船ヶ谷遺跡2次	SR1 D17K	器台	口縁部片	5世紀後半	I類	市70集「船ヶ谷2次」-111
3	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏	胴部片	5~6世紀	II類	市88集「船ヶ谷4次」-566
4	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏	口縁部片	5~6世紀	II類	市88集「船ヶ谷4次」-567
5	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏	口縁部片	5~6世紀	II類	市88集「船ヶ谷4次」-568
6	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏	胴部片	5~6世紀	II類	市88集「船ヶ谷4次」-603
7	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	高坏	胴部片	5~6世紀	II類	市88集「船ヶ谷4次」-604
8	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	完整	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-607
9	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	把手付壺	完整	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-648
10	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	把手付壺	口縁~底部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-649
11	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	把手付壺	底部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-650
12	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	把手付壺	胴部片	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-651
13	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	口縁~胴部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-656
14	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	完整	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-667
15	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	口縁部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-668
16	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	口縁部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-659
17	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	完整	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-664

非陶器系須恵器一覽

(2)

番号	遺跡名	出土地	器種	残存	時期	分類	文献
18	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	腹部以下残存	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-665
19	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	腹部以下残存	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-666
20	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	肩部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-668
21	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	底部以下残存	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-666
22	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	底部以下残存	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-669
23	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	口縁部	5~6世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-729
24	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	壺	胴部片	5~6世紀	II類	市88集「船ヶ谷4次」-731
25	船ヶ谷遺跡4次	棚7-1	高坏	坏部片	6世紀前半以降	II類	市88集「船ヶ谷4次」-1902
26	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅳ層	壺	口縁~腹部	6~7世紀	I類	市88集「船ヶ谷4次」-1656
27	辻町遺跡2次	第Ⅳ層	高坏	坏部片	6世紀前半	I類	市51集「辻町2次」-244
28	東雲神社遺跡	D地点	壺	胴~腹部	5世紀末~6世紀初葉	I類	市79集「東雲神社」-72
29	畑と竹ヶ谷古墳群	S号墳	壺	口縁部片	6世紀初葉	I類	市82集「東野中嶋」-30
30	梅堤四反地遺跡5次	SR1②層	壺	胴部片	5世紀後半以降	I類	市87集「梅堤四反地5次」-235
31	駒込F遺跡	S P81	壺	胴部片	5世紀後半	I類	市52集「都野寺地区の遺跡」-371
32	船津日遺跡	S K30	壺	口縁~腹部	6世紀以降	I類	市52集「福富寺地区の遺跡」-90
33	福音小学校構内遺跡	S B102	壺	ほぼ完形	5世紀後半	I類	市91集「福音小構内遺跡Ⅱ」-223
34	福音小学校構内遺跡	S B46	壺	腹部以下残存	5世紀中ごろ	I類	市91集「福音小構内遺跡Ⅱ」-363
35	福音小学校構内遺跡	S X533	壺	ほぼ完形	6世紀	I類	市91集「福音小構内遺跡Ⅱ」-753
36	福音小学校構内遺跡	1区	壺	口縁部	6世紀	I類	市91集「福音小構内遺跡Ⅱ」-867
37	北久米浄土寺遺跡3次	聖六住居跡Ⅰ	壺	口縁~腹部	6世紀	I類	市42集「北久米浄土寺2次」-98
38	狭立C遺跡	S D	壺	口縁~腹部	6世紀	I類	市17集「国道11号バイパス」-第31回1
39	狭立C遺跡	S D	器内	脚部	6世紀	I類	市17集「国道11号バイパス」-第31回3
40	東山古墳群4次	9号墳周溝	高坏	完形	6世紀初葉	I類	市41集「東山古墳群」-19
41	東山古墳群4次	9号墳周溝	高坏	完形	6世紀初葉	I類	市41集「東山古墳群」-28
42	東山古墳群4次	9号墳周溝	高坏	胴部片	6世紀初葉	I類	未報告
43	東山古墳群5次	T 4	壺	完形	6世紀初葉	I類	市41集「東山古墳群」-223
44	東山古墳群5次	T 4	高坏	口縁部片	6世紀初葉	I類	市41集「東山古墳群」-224
45	五郎長南谷古墳	6号墳	高坏	坏部	5~6世紀	I類	市13集「五郎長南谷」-2
46	船ヶ谷向山古墳		高坏	胴部片		I類	未報告
47	船ヶ谷向山古墳		器台	坏部片		I類	未報告
48	船ヶ谷向山古墳		壺	口縁~腹部		I類	未報告
49	赤雲小学校構内遺跡		把手付鉢	ほぼ完形		I類	未報告
50	赤雲小学校構内遺跡		壺	口縁~腹部		I類	未報告
51	赤雲小学校構内遺跡		壺	口縁~腹部		I類	未報告
52	西石井完持堂遺跡	T P 1	把手付鉢	口縁~空部		I類	市65集「石井・浮石の遺跡」-第84回 61

表3 軟質土器・軟質系土器一覽

(1)

番号	遺跡名	出土地	器種	残存	時期	種類	文献
1	船ヶ谷遺跡2次	SR1第10地点	壺	口縁~腹部	5世紀前半	軟質土器	市70集「船ヶ谷2次」-21
2	船ヶ谷遺跡2次	SR1 D14区	瓶	把手部	5世紀前半	土師器・切り込み	市70集「船ヶ谷2次」-91
3	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	口縁~腹部	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-262
4	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	胴部片	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-263
5	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	胴部片	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-264
6	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	胴部片	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-265
7	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	胴部片	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-266
8	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-423
9	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-424
10	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-425
11	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-426
12	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・刺突穴	市88集「船ヶ谷4次」-427
13	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・刺突穴	市88集「船ヶ谷4次」-428
14	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶	把手部	5~6世紀	土師器・刺突穴	市88集「船ヶ谷4次」-429
15	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	口縁~腹部	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-742
16	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	口縁~腹部	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-743
17	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	瓶または長胴壺	胴部片	5~6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-744



## 軟質土器・軟質系土器一覽

(3)

番号	遺跡名	出土地	器種	残存	時期	種類	文献
73	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	飯または長胴甕	胴部片	5～6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-800
74	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	飯または長胴甕	胴部片	5～6世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-801
75	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	飯	把手形	6～7世紀	土師器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-1189
76	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1191
77	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1192
78	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1193
79	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1194
80	船ヶ谷遺跡4次	SR1①層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1195
81	船ヶ谷遺跡4次	SK14	飯または長胴甕	胴部片	5世紀前半	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1417
82	船ヶ谷遺跡4次	SK14	飯または長胴甕	胴部片	5世紀前半	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1418
83	船ヶ谷遺跡4次	SK24	飯または長胴甕	胴部片	5世紀後半	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1497
84	船ヶ谷遺跡4次	SK2	飯	把手部	5世紀前半	軟質系土器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-1569
85	船ヶ谷遺跡4次	掘立1	平底鉢	胴～底部片	6世紀前半以降	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1597
86	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅲ層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1674
87	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅳ層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1675
88	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅳ層	飯または長胴甕	胴部片	6～7世紀	軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1676
89	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅳ層	飯	把手部	6～7世紀	土師器・切り込み	市88集「船ヶ谷4次」-1685
90	船ヶ谷遺跡4次	出土地点不明	飯または長胴甕	胴部片		軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1764
91	船ヶ谷遺跡4次	出土地点不明	飯または長胴甕	胴部片		軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1765
92	船ヶ谷遺跡4次	出土地点不明	飯または長胴甕	胴部片		軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1766
93	船ヶ谷遺跡4次	出土地点不明	飯または長胴甕	胴部片		軟質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1767
94	辻町遺跡2次	第Ⅲ層	甕	口縁部片	6世紀初頭	軟質系土器	市51集「辻町2次」-202
95	辻町遺跡2次	第Ⅳ層	平底鉢	胴～底部片	6世紀初頭	軟質系土器	市51集「辻町2次」-203
96	榑味高木遺跡3次	第Ⅳ層	飯または長胴甕	胴部片	5～6世紀	軟質系土器	市46集「桑原地区の遺跡Ⅰ」-第36図
97	榑味四反地遺跡5次	SR1①層	飯または長胴甕	胴部片	6世紀以降	軟質系土器	市87集「榑味四反地5次」-14
98	榑味四反地遺跡5次	SR1③層	飯	底部	5世紀後半以降	土師器・多孔系瓦器	市87集「榑味四反地5次」-1316
99	船場下遺跡	SB1	飯または長胴甕	胴部片	6世紀前半	軟質系土器	市52集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-265
100	船場下遺跡	SB5内SK2	甕	底部片	5世紀前半	軟質系土器	市84集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-89
101	船場下遺跡	SB7	飯	底部	5世紀前半	土師器・多孔系瓦器	市84集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-146
102	船場下遺跡	SB7	飯	口縁部片	5世紀前半	軟質系土器	市84集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-149
103	船場下遺跡	SB7	甕	胴縁～胴部	5世紀前半	軟質系土器	市84集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-151
104	船場下遺跡	SB3	飯または長胴甕	胴部片	5世紀前半	軟質系土器・縄文	市84集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-65
105	船場下遺跡	SB7	飯または長胴甕	胴部片	5世紀前半	軟質系土器・縄文	市84集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-130
106	川附	包含層	飯	底部		土師器・多孔系瓦器	市52集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-105
107	川附	包含層	飯	把手部		土師器・切り込み	市52集「福吉寺地区の遺跡Ⅰ」-110

表4 瓦質土器・瓦質系土器一覽

番号	遺跡名	出土地	器種	残存	時期	種類	文献
1	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	甕台?	坏部片	5～6世紀	瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-737
2	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	甕台?	坏部片	5～6世紀	瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-738
3	船ヶ谷遺跡4次	SR1②層	甕台?	坏部片	5～6世紀	瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-739
4	船ヶ谷遺跡4次	掘立1	甕台?	坏部片	6世紀前半以降	瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1601
5	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅳ層	甕台?	坏部片	6～7世紀	瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1665
6	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅳ層	甕台?	坏部片	6～7世紀	瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1666
7	船ヶ谷遺跡4次	出土地点不明	甕台?	坏部片		瓦質系土器	市88集「船ヶ谷4次」-1763

陶質土器

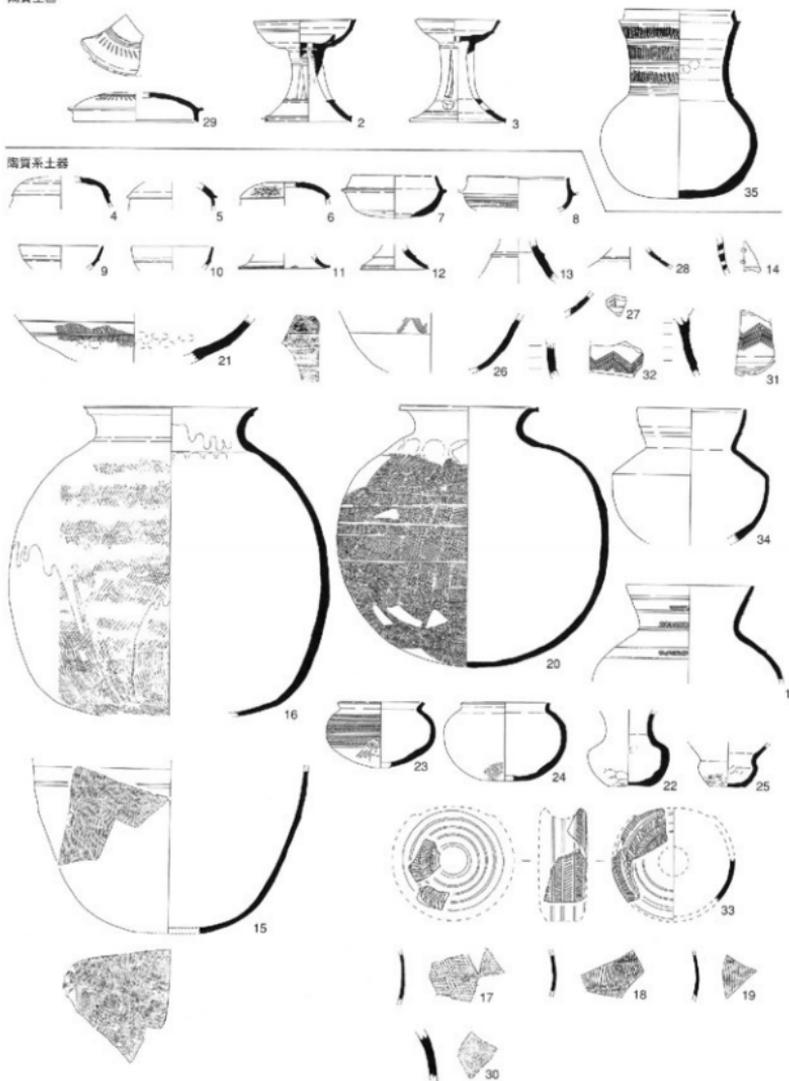


図1 陶質・陶質系土器 (S=1:6)

非陶器系須惠器I類

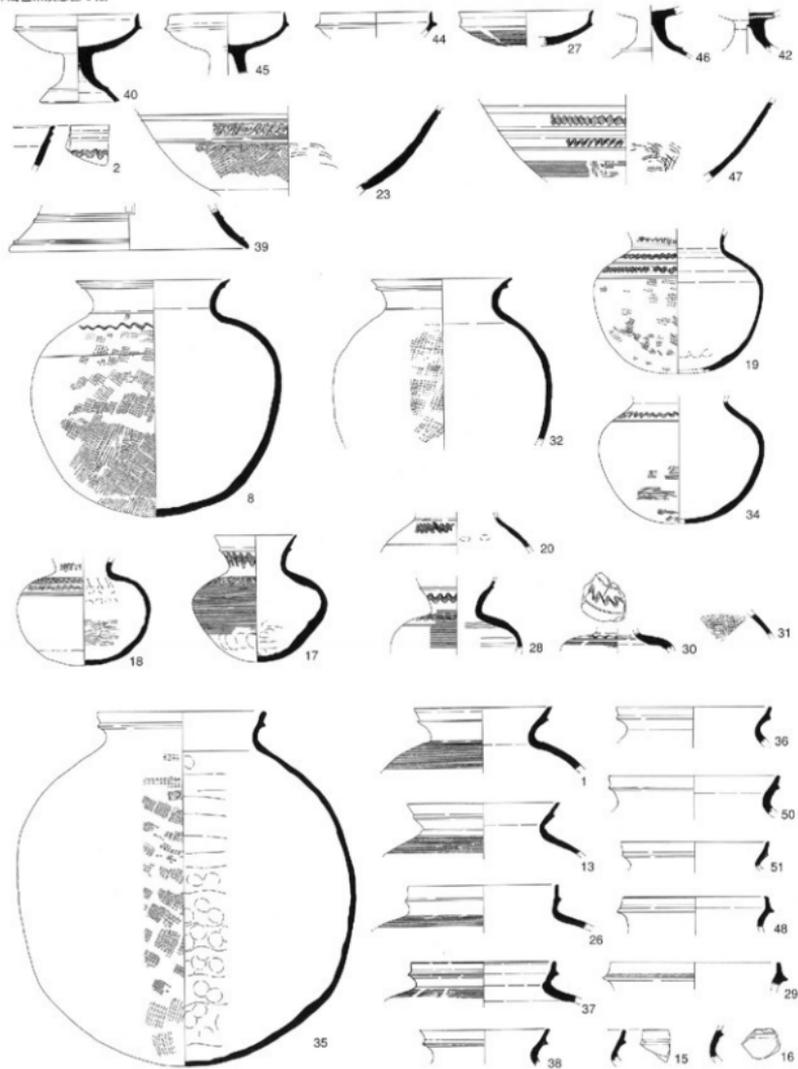
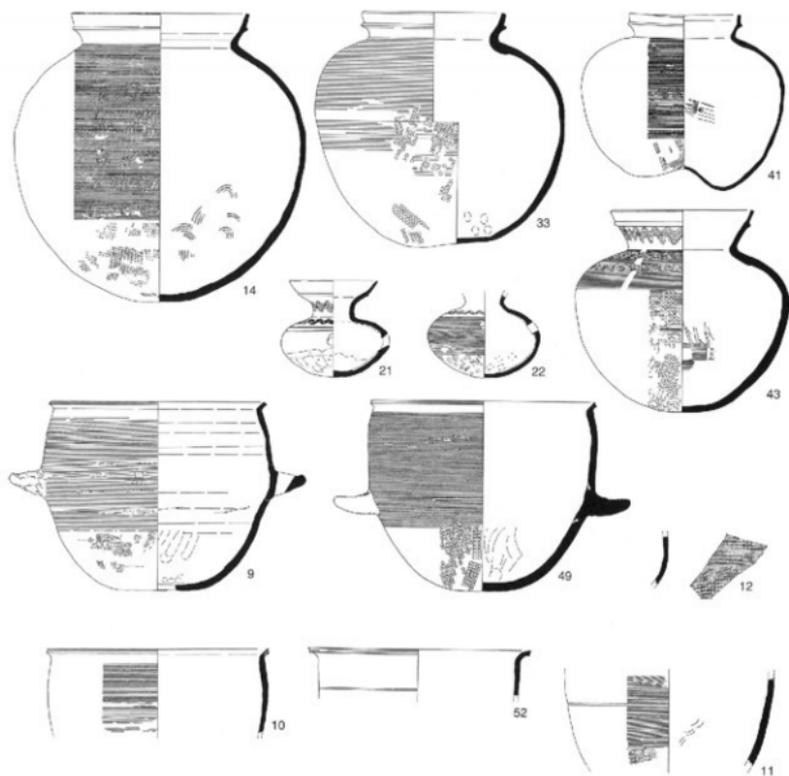


圖2 非陶器系須惠器(1) (S=1:6)

非陶器系須惠器Ⅰ類



非陶器系須惠器Ⅱ類



図3 非陶器系須惠器(2) (S=1:6)

軟質土器

軟質系土器



図4 軟質・軟質系土器(1) (S=1:6)

軟質系土器



図5 軟質・軟質系土器(2) (S=1:6)

瓦質系土器



図6 瓦質系土器 (S=1:6)

## 4. 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

### I. 植物珪酸体分析

#### 1. 試料

試料は、久米高畑遺跡27次調査地検出のSK11内焼土(試料No 1)、SD6埋土③下位(試料No 2)、SK33埋土⑤(試料No 3)、第VI層(試料No 4)の4点である(図2)。

#### 2. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対して直径約40 $\mu$ mのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42kHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu$ m以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10<sup>-9</sup>g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94、ススキ属(ススキ)は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマガサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。

#### 3. 分析結果

##### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真(写真1・2)を示す。

##### [イネ科]

機動細胞由来: イネ、キビ族型、ススキ属型(ススキ属など)、ウシクサ族型

表1 久米高畑遺跡27次調査地における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群/試料	1	2	3	4
イネ科				
イネ		23	7	
キビ族型		8		
ススキ属型	7			
ウシタサ属型	56	53	30	15
タケ亜科				
メダケ節型	77	137	112	61
ネザサ節型	252	213	262	161
クマザサ属型	84	99	82	84
ミヤコザサ節型				8
未分類等	112	228	479	459
その他のイネ科				
表皮毛起源			30	8
棒状珪酸体	666	592	898	857
葉部起源		8	7	
未分類等	624	577	659	666
カヤツリグサ科				
			7	
植物珪酸体総数	1,880	1,936	2,575	2,320

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ		0.67	0.22	
ススキ属型	0.09			
メダケ節型	0.89	1.59	1.30	0.71
ネザサ節型	1.21	1.02	1.26	0.77
クマザサ属型	0.63	0.74	0.62	0.63
ミヤコザサ節型				0.02

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	33	47	41	33
ネザサ節型	44	30	40	36
クマザサ属型	23	22	19	30
ミヤコザサ節型				1

[イネ科—タケ亜科]

機動細胞由来：メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

[イネ科—その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、莖部起源、未分類等  
[カヤツリグサ科]

(2) 植物珪酸体の検出状況

S K11内焼土（試料№1）では、ネザサ節型や棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族型やメダケ節型、クマザサ属型なども検出された。その他の試料でもおおむね同様の結果であるが、S D 6埋土③下位（試料№2）とS K33埋土⑤（試料№3）ではイネが検出された。イネの密度は、前者で2,300個/g、後者でも700個/gと比較的低い値である。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にメダケ節型やネザサ節型が優勢であることが分かる。

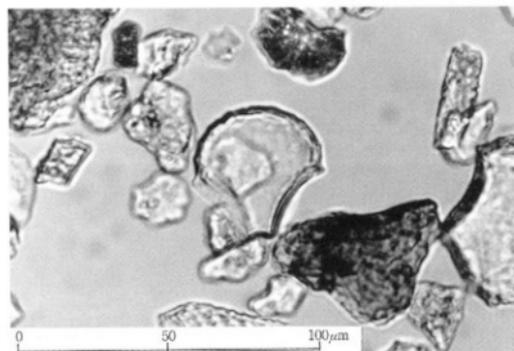
4. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

弥生時代前期以前とされるVI層から8世紀にかけては、メダケ節（もしくはヤダケ属）やネザサ節などのタケ亜科を主体としてウシクサ族なども見られるイネ科植生が継続されたものと推定される。また、8世紀とされるS D 6および古墳時代とされるS K33の埋没当時は周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから遺構内に何らかの形でイネの植物珪酸体が混入したものと推定される。

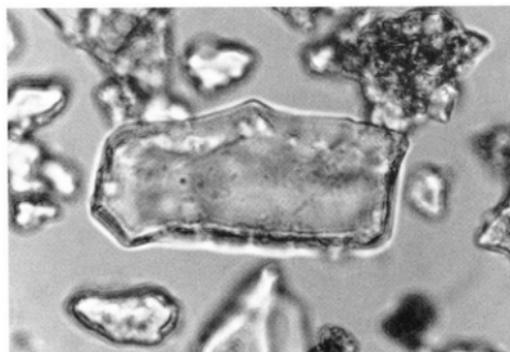
[参考文献]

- 杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83。  
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学，9，p.15-29。  
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学，17，p.73-85。

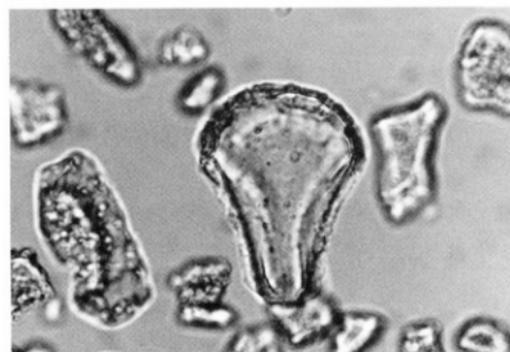




1. イネ

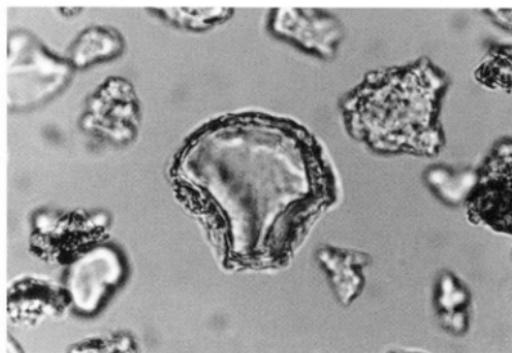


2. キビ族型



3. メダケ節型

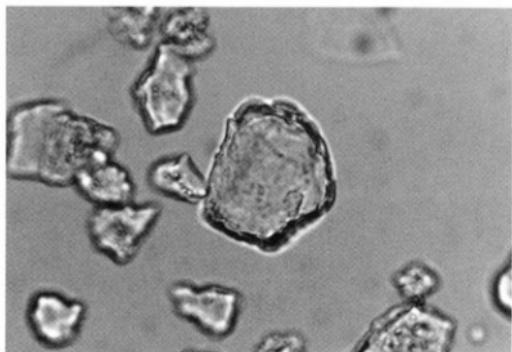
写真1 久米高畑遺跡27次調査地出土の植物珪酸体の顕微鏡写真(1)



4. ネザサ節型



5. ネザサ節型 (側面)



6. クマザサ属型

写真2 久米高畑遺跡27次調査地出土の植物珪酸体の顕微鏡写真(2)

## II. 花粉分析

### 1. 試料

試料は、SD6埋土③下位(試料No2)とSK33埋土⑤(試料No3)の2点である。

### 2. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1,500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

鏡検はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1,000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村(1974, 1977)を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

### 3. 結果

出現した分類群は、樹木花粉5、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉11、シダ植物胞子2形態の計19である。これらの学名と和名および粒数を表3に示し、主要な分類群を写真3に示す。以下に出現した分類群を示す。

[樹木花粉]: マツ属複雑管束亜属、サワグルミ、クリーシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]: クワ科-イラクサ科

[草本花粉]: イネ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ科、タンポポ血科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物胞子]: 単条溝胞子、三条溝胞子

- 1) SD6埋土③下位(試料No2)

花粉密度が低く、未分解の植物遺体片は含まれない。草本花粉の比率が高く、ヨモギ属、ナデシコ科、アカザ科-ヒユ科、イネ科、カヤツリグサ科、ソバ属などが出現する。

- 2) SK33埋土⑤(試料No3)

花粉密度が極めて低く、未分解の植物遺体片は含まれない。草本花粉のイネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属、ソバ属が出現する。

#### 4. 花粉分析から推定される植生と環境

古墳時代とされるSK33の埋没当時は、イネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属などの草木が生育するやや乾燥した人為改変地が広がっていたと考えられ、周辺ではソバ属などの畑作が行われていたものと推定される。8世紀とされるSD6の埋没当時も、ヨモギ属、ナデシコ科、アカザ科-ヒユ科、イネ科、カヤツリグサ科などの草木が生育する乾燥した集落域が広がっていたと考えられ、周辺ではソバ属などの畑作が行われていたものと推定される。

#### [参考文献]

中村純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.

金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.

高倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, p.60.

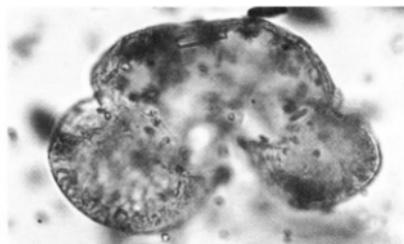
中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, p.91.

中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

表3 久米高畑遺跡27次調査地における花粉分析結果

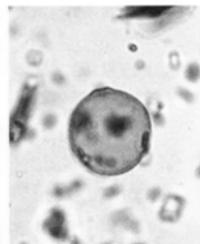
学名	分類群	和名	試料	
			SD6埋土③下位	SK33埋土④
<b>Arboreal pollen</b>				
樹木花粉				
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属 微種管束原属	1	
<i>Phloxaryia rheuifolia</i>		サワグルミ	1	
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lapylobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanus</i>		コナラ属アカシガ属	2	
<b>Arboreal・Nonarboreal pollen</b>				
樹木・草本花粉				
Monacace-Urticaceae		タワ科・イラクサ科	1	
<b>Nonarboreal pollen</b>				
草本花粉				
Gramineae		イネ科	3	3
Cyperaceae		カヤツリグサ科	3	2
<i>Polygonum</i> sect. <i>Pterisaria</i>		タデ属サナエタデ節	1	
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	2	1
Chenopollaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	3	
Caryophyllaceae		ナデシコ科	3	
Cruciferae		アブラナ科		2
Umbelliferae		セリ科		1
Lactacoidae		タンポポ科	1	
Asteroidae		キク亜科	2	
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	9	2
<b>Fern spore</b>				
シダ植物胞子				
Monolete type spore		単条溝胞子	1	
Trilete type spore		三条溝胞子	5	4
<b>Arboreal pollen</b>				
樹木花粉				
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	1	0
<b>Nonarboreal pollen</b>				
草本花粉				
Total pollen		花粉総数	27	11
Unknown pollen		未同定花粉	0	0
Fern spore		シダ植物胞子	6	4



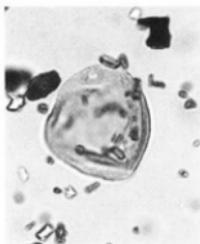
1. マツ属複維管束亜属



2. コナラ属アカガシ亜属



3. クワ科-イラクサ科



4. イネ科



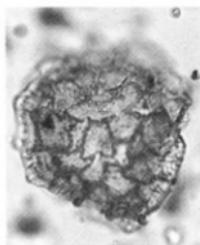
5. カヤツリグサ科



6. ツバ属



7. ツバ属



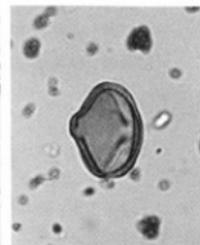
8. タデ属サナエタデ節



9. ナデシコ科



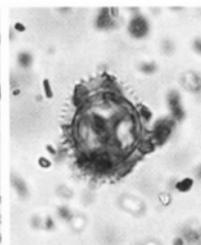
10. アブラナ科



11. セリ科



12. セリ科



13. タンポポ科



14. ヨモギ属



15. シダ植物三条溝胞子  
45μm

写真3 花粉・胞子遺体の顕微鏡写真

## Ⅲ. 炭化材の樹種同定

## 1. 試料

試料は、久米高畑遺跡27次調査のSK11内から出土した炭化材である。

## 2. 方法

試料は割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は試料標本をその解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

## 3. 結果

結果を表4に示し、同定根拠となった特徴を記す。また各断面の顕微鏡写真（写真4）を示す。

表4 久米高畑遺跡27次調査で出土した炭化材の樹種同定結果表

試料	樹種（和名／学名）
炭化材	コナラ属アカガシ亜属 <i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* ブナ科

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

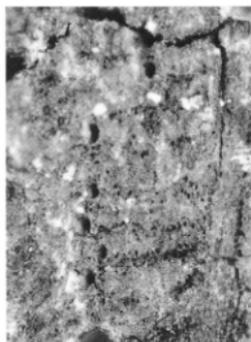
接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。照葉樹林の主要高木の一つである。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

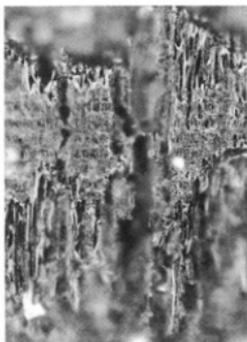
## 〔参考文献〕

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p20-48。

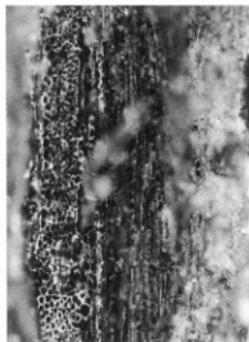
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p49-100。



横断面 ————— : 0.4mm  
炭化材 コナラ属アカガシ亜属



放射断面 ————— : 0.1mm



接線断面 ————— : 0.2mm

写真4 久米高畑遺跡27次調査地出土炭化材の顕微鏡写真

## IV. 放射性炭素年代測定結果

## 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	SK11内出土	炭化材 (アカガシ軍属)	酸-アルカリ-酸洗浄 石墨調整	加速器質量 分析 (AMS) 法

## 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 交点 ( $1\sigma$ )	測定No (Beta $^{-}$ )
No 1	2190 $\pm$ 60	-25.8	2170 $\pm$ 60	BC 190 (BC 355~290) (BC 230~115)	108055

1)  $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950年AD) から何年前 (BP) かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は5,568年を用いた。

2)  $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

## 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$ は補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $\sigma$ 値が表記される場合もある。

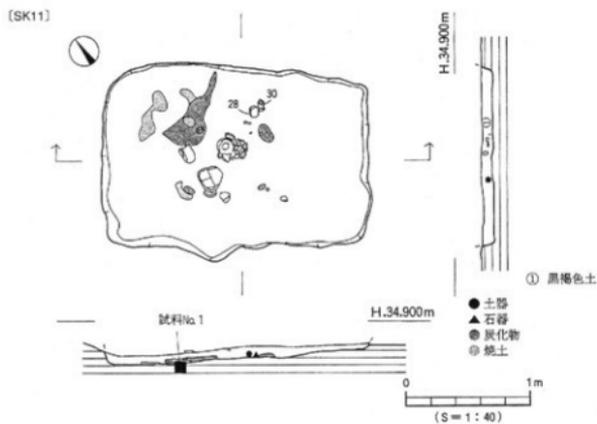
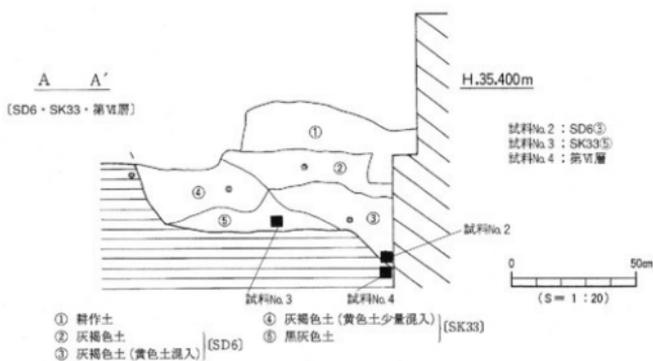
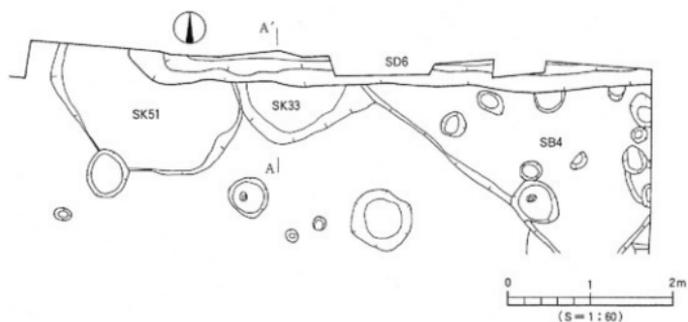


図2 試料サンプル地点

## 5. 平田町採取品

平成14年4月、松山市考古館に來館した市民より、耕作中に採取した土器2点・石器1点の持ち込みがあった。採取者からは市内平田町に農地を所持し、その土地の耕作中に出土したことを聞き、所在地についても確認をした。出土地点は平田町のバス停北山田の西側で、東200mには潮見古墳群、北500mには平田七反地遺跡があり、遺跡の豊富な地域である。今回採取の土器2点は弥生時代終末期の壺(1)と甕(2)で、石器1点(3)は叩き石かと思われ、弥生時代中期以前に比定されよう。資料は大型破片であり、摩滅がほとんどなく、当地もしくは一帯に包含されていたものと見てよい。したがって、今回の資料は、平田町一帯で平田七反地遺跡の古墳時代初頭直前にも集落が存在していたことを示すものである。(梅木)

参考文献：西川真美編 2000『道々谷古墳・池の奥古墳・平田七反地遺跡』(愛媛県埋蔵文化財調査センター)



図1 位置図 (S=1:5,000)

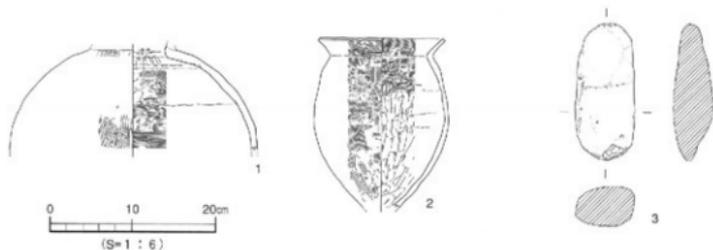


図2 採取遺物実測図

## IV 平成15年度 普及啓発事業

## 平成15年度の普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料などを整理・保管している。発掘調査終了後は、随時、現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書を刊行することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や遺跡めぐり・講演会・体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成15年度は下記の各種事業を実施した。

1. 展示活動
2. 教育普及活動
3. 収集・保管活動
4. 広報・出版活動
5. 施設の利用
6. 資料の貸出・調査
7. 職員研修・会議

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって、埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

### 1. 展示活動

常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとした立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

また常設展示室に隣接した特別展示室では、期間を限定して開催する展示会として、(1)テーマ展、(3)発掘調査速報展、(4)特別展、(5)取藏品展を開催するとともに、(2)発掘調査写真展を松山城二之丸史跡庭園・松山市役所・いよてつ高島屋の3か所で開催した。

#### (1) テーマ展「おおむかしの食事」(表1-①)

この展示会は、当館に所蔵している遺物の中で、ひとつのテーマに絞り広く公開することを目的としたものである。当年度は、「食事」にスポットを当て、遺物約100点を分かりやすく解説しながら展示を展開した。また、アラカシを用いた古代食の復元実験の成果も盛り込んだ。

#### (2) 発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを掘る」(表1-②)

この展示会は、後述する(3)発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」の予告を兼ねて前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山城二之丸史跡庭園・松山市役所本館1階ロビー・いよてつ高島屋ふれあいギャラリーの3か所において16遺跡の写真パネルと解説パネル各20枚を設置し、PRに努めた。

#### (3) 発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」(表1-③)

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された松山城二之丸跡4次調査地を含む21遺跡を取り上げ、その出土遺物約100点を展示した。

## (4) 特別展「渡来人の足跡」(表1-④)

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、朝鮮半島から渡ってきた渡来人の足跡を探ることを目的に古墳時代中期の遺構や遺物を中心に展示を行った。展示点数は約150点である。



写真1 特別展風景

## (5) 収藏品展「名本二六雄コレクション展」(表1-⑤)

この展示会は、個人の精力的な採集活動等により松山市教育委員会に寄贈された遺物などを展示するものである。当年度は、現在、松山市在住の名本二六雄氏が採集された資料などを寄贈していただき、それに併せて展示会を行ったものである。その採集資料と関連資料約100点の展示を行った。

表1 展示活動一覧表

No	展示会名	会 期	会 場	観覧者数
①	テーマ展 「おおむかしの食事」	平成15年4月26日(土)～6月29日(日)	特別展示室	4,856人
②	発掘展示写真展 「むかし・昔のまつやまを語る」	①平成15年5月14日(金)～25日(日) ②平成15年6月4日(金)～13日(金) ③平成15年6月18日(土)～23日(金)	①二之丸史跡竊窟 ②松山市役所本館 ③いよてつ高島屋	一般市民対象
③	発掘調査連続展 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成15年7月19日(土)～8月31日(日)	特別展示室	1,507人
④	特別展 「渡来人の足跡」	平成15年10月4日(土)～11月30日(日)	特別展示室	2,803人
⑤	収藏品展 「名本二六雄コレクション展」	平成16年2月21日(土)～3月28日(日)	特別展示室	2,680人

## 2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の普及啓発を目的とした講演会・体験学習セミナー・考古学講座などがある。

## (1) 調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言をいただき、職員の資質向上をめざしている。

## (2) 講演会・展示解説会

当年度は、テーマ展展示解説会・発掘調査報告会・特別展記念講演会・収藏品展記念講演会を行った。テーマ展展示解説会は、テーマ展開催を記念して担当学芸員による展示解説を特別展示室にて行った(表2-①)。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展開催初日に統括報告及び調査研究報告を行った(表2-②)。特別展記念講演会は、特別展開催を記念して2回開催し、2名の先生方による古墳時代中期を中心とした対外交渉や伊予における渡来人やその子孫が残した痕跡について他地域の実例を挙げながらご講演いただいた(表2-③)。収藏品展記念講演会は、2名の先生方による古墳時代における道後平野の集落と古墳の分布や県内の考古学の歩みについてご講演いただいた(表2-④)。

## (3) 初心者のための考古学講座「とことん考古学Ⅲ」

当年度は、「祭祀」をテーマに計5回で弥生時代から古墳時代を中心にした祭祀の類例やそのあり方について理解が深められるように内容を工夫した。また、第3回は発掘調査現場見学を取り入れることで、よりグローバルな展開を図っている(表2-⑤)。



写真2 「とことん考古学Ⅲ」第3回風景

表2 教育普及活動一覧表(1)

(敬称略)

No	事業名	日時	会場	講師・報告者	聴講者数
①	テーマ展示解説会	平成15年4月26日(土)	特別 展示室	当考古館学芸員 野崎 史	48人
②	発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成15年7月19日(土)	講堂	当センター次長兼調査係長 西尾 幸則 当センター副委員長 朝原 秀仁 橋本 健一	110人
③	特別記念講演会 第1回「中瀬古墳文化と対外交渉」 第2回「考古学からみた 渡来人の足跡」	平成15年10月4日(土)	講堂	福岡大学教授 小田富士雄	116人
		平成15年11月1日(土)		岡山理科大学教授 亀田 修一	97人
④	収蔵品展記念講演会 「古代遺物の表面採集からみた 道後平野」 「道後平野の古墳と集落」	平成16年2月21日(土)	講堂	日本考古学協会会員 名本二六雄 愛媛大学助手 三吉 秀充	168人
⑤	初心者のための考古学講座 「とことん考古学Ⅲ」				
	第1回 船ヶ谷遺跡4次調査の発掘	平成15年5月31日(土)	講堂	当センター調査員 高尾 和長	49人
	第2回 辻町遺跡2次調査地の発掘	平成15年6月7日(土)	〃	〃 相原 浩二	43人
	第3回 西石井遺跡2次調査の概要	平成15年6月21日(土)	現場	〃 宮内慎一・相原秀仁	47人
	第4回 出作遺跡の発掘と政治	平成15年7月5日(土)	講堂	愛媛県教育委員会 谷若 倫郎	45人
第5回 まつりの考古学	平成15年7月12日(土)	〃	兵部教育委員会 大平 茂	47人	

## (4) 夏休み親子体験学習セミナー

## 「古代のアクセサリ・勾玉を作ろう!Ⅲ」

(表3-①)

当セミナーは、小学5年生から中学生とその保護者を対象に、子供たちの自由な発想で滑石製勾玉を製作することで古代人の苦勞や知恵を学ぶことを目的としており、子供たちの社会科学習の一助とするだけでなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。



写真3 「古代のアクセサリ・勾玉を作ろう!Ⅲ」風景

## (5) 大人のための体験学習セミナー「ガラス勾玉を作ろう!Ⅳ」(表3-②)

当事業は、一般市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦勞や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。

表3 教育普及活動一覧表(2)

No	事業名	日時	会場	参加者数
①	夏休み親子体験学習セミナー 「古代のアタセサリー・勾玉を作ろう！Ⅲ」	平成15年8月2日(土)	講堂	33人
②	大人のための体験学習セミナー 「ガラス勾玉を作ろう！Ⅳ」	①平成15年11月15日(土)	講堂	20人
		②平成15年12月6日(土)	文化財情報館	19人

## (6) 遺跡めぐり「～古代浪漫の旅～伊豫のまほろば探訪Ⅲ」

当事業は、地域に所在する史跡や埋蔵文化財に参加者に身近に感じていただくことを目的として開催するものである。当年度は、平成15年5月25日(日)に44名の参加者ととも越智郡大西町妙見山古墳及び朝合村樹之本古墳を見学した。



写真4 「ガラス勾玉を作ろう！Ⅳ」風景



写真5 「伊豫のまほろば探訪Ⅲ」風景

## (7) 現地説明会(表4)

遺跡の見学を通して、より一層一般市民に埋蔵文化財に対する興味や関心を持ってもらうため開催するものである。当年度は、5ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。

表4 教育普及活動一覧表(3)

No	遺跡名	日時	遺跡の主な概要	見学者数
①	御味高反地遺跡8次調査地 御味高本遺跡7次調査地	平成15年9月6日(土) 13:30～14:30	(御味高反地8次) 弥生時代～中世の遺構と遺物 古墳時代前期の大型建物 (御味高本7次) 弥生時代～古代の遺構と遺物 古墳時代中期の竪穴式住居	350人
②	東住座寺遺跡29・30次調査地 久米高畑遺跡57次調査地	平成15年10月18日(日) 10:30～11:30	(東住座寺29次) 溝状遺構・土城・土坑墓・柱穴 (東住座寺30次) 溝・柱穴 (久米高畑57次) 弥生時代の土城・竪穴建物 古墳時代後期の竪穴式住居跡	120人
③	香町遺跡	平成16年2月7日(土) 10:00～11:00	江戸時代の武家屋敷跡・庭園遺構(池)	200人
④	久米高畑遺跡 58・59・60次調査地	平成16年3月13日(土) 10:30～11:30	(久米高畑58次) 竪穴式住居・竪穴建物・土坑 (久米高畑59次) 竪穴式住居・竪穴建物・土坑 (久米高畑60次) 竪穴式住居・溝状遺構・土坑	150人
⑤	松山城三之丸跡2次調査地	平成16年3月27日(土) 10:30～11:30	石組溝・石垣・石組貯蔵・塙・礎・礎石建物・溝・柱穴	80人

## (8) 博物館学芸員実習

平成6年度から、博物館学芸員資格の取得を希望する学生のための実習を実施している。当年度は、9月1～7日（屋外実習）と9月15～20日（屋内実習）の日程で、奈良女子大学生1名と愛媛大学生1名を受け入れた。展示実習（展示解説や来館者案内）、写真実習（機材の取り扱いや撮影技術）、保存処理（技術や工程）などのカリキュラムを実施した。

## (9) 職場体験（表5）

当センターでは、中学生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。当年度は、2校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務や屋内整理業務等を体験していただいた。

表5 教育普及活動一覧表(4)

No	学校名・学年	日 時	内 容	参加者数
①	柳谷村立梅谷中学校 2年生	平成15年8月12日(水) 10:20～15:20	西石井遺跡3次調査地での発掘体験	1人
②	東予市立西中学校 2年生	平成16年3月10日(水) 10:30～12:00	考古館での業務体験	3人

## (10) 出前考古学教室（表6）

「総合的な学習の時間」などの利用により、各学校からの要請を受けて学校や発掘現場に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は9回実施した。



写真6 出前考古学教室風景（松山市立北中学校）

表6 教育普及活動一覧表(5)

No	学校名・学年及び団体名	期 間	内 容	参加者数
①	松山市立味酒小学校	①平成15年6月12日(木) ②平成15年6月26日(木)	総合的学習・地域調べ	140人
②	愛光中学・高等学校	平成15年7月1日(火)	国書館活動・地域調べ	40人
③	松山市立北中学校	平成15年7月11日(金)	総合的学習・勾玉づくり	20人
④	松山市立桑原中学校	平成15年10月24日(金)	総合的学習・遺跡見学と火おこし	20人
⑤	松山市立津田中学校	平成15年11月7日(金)	総合的学習・勾玉づくり	20人
⑥	松山市立桑原中学校	平成15年11月15日(土)	文化の日参加体験学習・土器づくり	30人
⑦	松山市立城西中学校	平成15年10月23日(水) ～12月9日(水)	遺物の展示	全校生徒 対象
⑧	松山市立新玉小学校	平成15年12月9日(水) ～16年1月30日(金)	遺物の展示	全校生徒 対象
⑨	松山市立味酒小学校	平成16年2月3日(水) ～3月12日(金)	遺物の展示	全校生徒 対象

## 3. 収集・保管活動

## (1) 埋蔵文化財関連

当年度は、松山市教育委員会に対し1名の篤志家から考古資料の寄贈を受けた。今後も継続して整理・研究を実施する。

## (2) 大連古代ハス(巻頭図版3)

平成10年4月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただいた。この古代ハスは、平成8年1月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張安氏から大連市で出土した1千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたもので、その後、農業指導センターで育成していたものである。当年度は、3つ開花した。

## 4. 広報・出版活動(表7・8)

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやリーフレットを発行したり、発掘調査が行われた遺跡について発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の普及啓発に役立つものと思われる。

表7 出版物一覧表(1)

No	出版物名	発行日	対象	版数・頁	部数
①	テーマ展 ポスター ＊ チラシ	平成15年4月	一般	B2 A4 2頁	500枚 2,500枚
②	考古学講座(1) レジュメ ＊ (2) ＊ ＊ (3) ＊ ＊ (4) ＊ ＊ (5) ＊	平成15年5～7月	聴講者	A3 3頁 A4・A3 5頁 A4・A3 4頁 A4・A3 6頁 A3 3頁	50部 50部 50部 50部 50部
③	遺跡めぐり 旅のしおり	平成15年5月	参加者	A4 18頁	50部
④	発掘調査速報展 ポスター ＊ パンフレット ＊ はがき	平成15年7月	一般	A2 A4 20頁 はがき	500枚 3,000枚 3,000枚
⑤	発掘調査報告会 レジュメ	平成15年7月	聴講者	A3 9頁	150部
⑥	夏休み体験学習セミナー パンフレット	平成15年8月	参加者	A3 2頁	40部
⑦	特別展 ポスター ＊ パンフレット ＊ チラシ ＊ 図録	平成15年10月	一般	B2 A4 4頁 A4 2頁 A4 32頁	500枚 1,000部 5,000枚 500冊
⑧	特別展 記念講演会(1) レジュメ ＊ ＊ (2) ＊	平成15年10・11月	聴講者	A3 5頁 A3 7頁	150部 150部
⑨	大人のための体験学習セミナー パンフレット	平成15年11・12月	参加者	A4 10頁	30部
⑩	収蔵品展 ポスター ＊ チラシ	平成16年2月	一般	B2 A4 2頁	300枚 2,000枚
⑪	収蔵品展 記念講演会 レジュメ	平成16年2月	聴講者	A4 18頁 B4 10頁 A3 5頁	200部

表8 出版物一覧表(2)

No	報告書名	発行日	対象	版形・頁	冊数
①	松山市文化財調査報告書 第96集 「北久米遺跡2次調査地・南久米町遺跡4次調査地」	平成16年3月31日	一般	A4 88頁	1,000冊
②	松山市文化財調査報告書 第97集 「東山古墳群Ⅱ - 3次調査・6次調査-」	平成16年3月31日	一般	A4 174頁	1,000冊
③	松山市文化財調査報告書 第98集 「北久米遺跡3次調査地」	平成16年3月31日	一般	A4 66頁	1,000冊
④	松山市文化財調査報告書 第99集 「藤原遺跡5次調査地」	平成16年3月31日	一般	A4 80頁	1,000冊
⑤	松山市文化財調査報告書 第100集 「米住・久米地区の遺跡Ⅳ」	平成16年3月31日	一般	A4 138頁	300冊
⑥	松山市文化財調査報告書 第101集 「米住・久米地区の遺跡Ⅴ」	平成16年3月31日	一般	A4 204頁	1,000冊
⑦	松山市歴史文化財調査年報15 (平成14年度)	平成16年3月31日	一般	A4 122頁	1,000冊

## 5. 施設の利用(表9)

当センターは、考古館主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会会場としても利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

表9 施設利用一覧表

(敬称略)

No	団体名・テーマ	日時	会場	代表・発表者
①	瀬戸内海考古学研究会 第78回(10周年記念講演会) 「愛媛県における前期古墳について」	平成15年5月17日(土)	講堂	代表 下條 信行
②	中国四国文化研究会 「中国四国地方の縄文時代石器の変相」	平成15年6月28-29日(土・日)	講堂	代表 中橋 利夫 丹羽 祐一
③	瀬戸内海考古学研究会 第79回 「弥生時代における片刃石斧の変遷と技法について」	平成15年7月26日(土)	講堂	川之江市教育委員会 中 勇衛
④	古代学協会四国支部人会 「遺具の生産流通と地域間関係の形成」	平成15年10月18-19日(土・日)	講堂	代表 下條 信行
⑤	中国四国石器文化研究会 「中・西国地方旧石器文化の地域性と集団関係」	平成15年11月29-30日(土・日)	講堂	代表 樋口 孝司
⑥	瀬戸内海考古学研究会 第81回 「愛媛県における初期須恵器の様相」	平成16年3月27日(土)	講堂	松山市歴史文化財センター 山之内志郎

## 6. 資料の貸出・調査(表10・11)

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の展覧や、研究者の資料調査などの要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出や調査を行っている。

表10 資料の貸出一覧表

(敬称略)(1)

No	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出・利用者
①	岩崎遺跡出土 土馬	1点	企画展「愛媛・絵馬堂へようこそ!」に 展示・写真掲載	平成15年7月3日 ～9月11日	愛媛県歴史文化博物館
②	石井小小学校構内遺跡出土 弥生土器 岩崎遺跡出土 弥生土器 久米高畑遺跡13次調査地出土 弥生土器 森院山遺跡出土 弥生土器 投付穴7場遺跡出土 弥生土器 大峰ヶ内遺跡4次調査地出土 弥生土器 東庄寺遺跡15次調査地出土 弥生土器 東雲神社遺跡出土 弥生土器 文京遺跡3次調査地出土 弥生土器 松山大学構内遺跡3次調査地出土 弥生土器 桑原田中遺跡出土 弥生土器 谷ノ口遺跡9次調査地出土 弥生土器 久米高畑遺跡43次調査地出土 絵馬土器 松山大学構内遺跡3次調査地出土 絵馬土器	2点 3点 3点 1点 4点 1点 2点 1点 3点 9点 7点 1点 1点 1点	企画展「二千年の鼓動-弥生土器の世界-」に 展示・写真掲載	平成15年9月30日 ～12月17日	大分県立歴史博物館

資料の貸出一覧表

(敬称略) (2)

No	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出・利用者
③	松山市久米出土 卑風式銅環(レプリカ)写真 松山市孫遊塚古墳群出土 銅環複製写真	2点 1点	研究発表資料に掲載	平成15年4～5月	愛媛大学 村上 恭通
④	松山市若草町遺跡出土 絵圖十器写真	1点	『歴史写真研究14号』 に掲載のため	平成15年5～7月	大西 朋子
⑤	勾玉作り体験学習セミナー-風景写真	3点	『フリークリー-えびめりっく』に掲載のため	平成15年6～7月	愛媛新聞社 中館 晴子
⑥	岩崎遺跡出土 土馬写真 岩崎遺跡・榎Ⅲ301遺物出土状況写真 岩崎遺跡・土馬の出土状況写真 岩崎遺跡・第1地区完掘状況写真 遺後今市遺跡9次調査地・遺構面2完掘状況写真 遺後今市遺跡9次調査地・足跡完掘状況写真	1点 1点 1点 1点 1点	企画展「海芸城周辺の 遺跡展」に写真パ ネル展示のため	平成15年6～11月	財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター 理事長 野本 俊二
⑦	遺後今市遺跡9次調査地・遺構面2完掘状況写真	1点	『海芸城より』 3号に掲載のため	平成15年8～9月	財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター 理事長 野本 俊二
⑧	古照遺跡透景写真 「久米評」織刺土器写真 回廊状遺構透景写真	1点 1点 1点	社会科資料集編集のため	平成15年11月	松山市立豊川中学校 川崎 洋幸
⑨	業佐池古墳1号石室写真	1点	『藤岡町史 遺史編』 に掲載のため	平成15年12月～ 16年3月	藤岡町教育委員会 教育長 山崎 民彦
⑩	朝倉村横上より松古墳出土青銅鏡写真 朝倉村野々瀬古墳出土青銅鏡写真	1点 1点	『朝倉村の至宝展』 出版物に掲載のため	平成16年1～3月	朝倉村教育長 白石 敏夫
⑪	岩崎遺跡第1地区完掘状況写真	1点	『古代文化』第66巻 第4号に掲載のため	平成16年1～3月	財団法人 古代学協会 理事長 角田 文衛
⑫	松山市考古館外観写真 古照遺跡復元展示倉庫写真 古照遺跡の復元展示写真 環状孔五神五取鏡 常設展示室透視コーナー 常設展示室ジオラマ	1点 1点 1点 1点 1点 1点	『お父さん！お母さん！ 遺跡へ行こうよ！』(収録)に掲載のため	平成16年2～3月	株式会社 弥島久 代表取締役 松本恵津子
⑬	「久米評」織刺土器写真	1点	『伊予の古代史の歪みを 正す』に掲載のため	平成16年3～5月	会田 洋一
⑭	東雲神社遺跡出土 高坏(舞部)写真 岩崎遺跡出土 土器片写真	1点 2点	『考古資料大観』 第1巻に掲載のため	平成16年5月	
⑮	業佐池古墳1号石室出土 土器一括写真 業佐池古墳2号石室出土 土器一括写真 東山9号墳周溝出土 土器一括写真 津辺1号墳出土 子持鏡付白付壺写真 松ヶ谷古墳出土 子持器台写真	1点 1点 1点 1点 1点	『考古資料大観』 第3巻に掲載のため	平成16年8月	
⑯	松山大学構内遺跡3次調査地出土 板状鉄製品写真	1点	『考古資料大観』 第7巻に掲載のため	平成16年9月	
⑰	福音小学校構内遺跡出土 鉄鍬(正面)写真 福音小学校構内遺跡出土 鉄鍬(側面)写真 福音小学校構内遺跡出土 鉄鍬(裏面)写真 東本遺跡4次調査地出土 鉄鍬写真 福音小学校構内遺跡出土 鍬造鉄斧写真 福音小学校構内遺跡出土 鍬先写真	1点 1点 1点 1点 1点 1点	『考古資料大観』 第7巻に掲載のため	平成16年10月	株式会社 小宇船 代表 取締役社長 相賀 高志
⑱	播磨塚天神山古墳出土 円筒埴輪写真 播磨塚天神山古墳出土 朝顔形埴輪写真 播磨塚天神山古墳出土 蓋形埴輪写真 播磨塚天神山古墳出土 盾形埴輪写真 播磨塚天神山古墳出土 埴輪写真 播磨塚天神山古墳 全景写真 播磨塚天神山古墳 遺物出土状況写真 三島神社古墳出土 円筒埴輪写真 三島神社古墳出土 朝顔形埴輪写真 三島神社古墳 遺物出土状況写真	14点 3点 2点 2点 1点 1点 1点 12点 1点 1点	『考古資料大観』 第4巻に掲載のため	平成16年12月	

表11 資料の調査一覧表

(敬称略) (1)

No	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
①	忍術遺跡出土 石器 筋違1遺跡出土 石器 祝谷六丁場遺跡出土 石器	一式	研究発表のための実測 及び写真撮影	平成15年5月1日	愛媛大学法文学部 村上 恭通
②	石井幼稚園遺跡出土 黒色土器 古照遺跡7次調査地出土 土師器 古照遺跡8次調査地出土 土師器 古照遺跡10次調査地出土 土師器ほか 古照ブツ遺跡3次調査地出土 土師器ほか 佐佐木寺遺跡18次調査地出土 土師器ほか 筋違F遺跡出土 土師器 筋違G遺跡出土 土師器 北久米浄蓮寺遺跡6次調査地出土 黒色土器	1点 6点 1点 8点 2点 8点 2点 6点 2点	研究のための実測	平成15年5月26日 ～6月8日	愛媛大学考古学研究室 中村 昌博
③	朝日谷2号墳出土土器 三島神社古墳出土地輪 播磨坂天神山古墳出土地輪	一式	研究会の基礎資料 調査のための写真撮影	平成15年6月20日	大手前大学人文科学部 森下 卓司
④	東山高が森2号墳出土 振り鐔 東山高が森2号墳出土 大刀	一式	研究論文作成のための 実測及び写真撮影	平成15年6月27日	名古屋市教育委員会 澤谷 淳
⑤	五部氏斎谷1号墳出土 三累環頭大刀 瀬戸風崎1号墳出土 大刀・鐔 平井谷1号墳出土 大刀・鐔 東山高が森2号墳出土 大刀・片金具	一式	資料調査のための実測	平成15年7月11日 ～7月15日	愛媛大学考古学研究室 西澤 昌平
⑥	大洲遺跡1・2次調査地出土 打製石廬丁・石鏃 筋違1遺跡出土 両刃石斧 南中学校構内遺跡2次調査地出土 両刃石斧 古市遺跡出土 石廬丁 南島山遺跡・久米才歩行遺跡出土 石鏃・両刃石斧 岩崎・祝谷六丁場遺跡出土 石廬丁・両刃石斧・片刃石斧 文京遺跡2・3次調査地出土 石廬丁・片刃石斧未成品 津田中学校構内遺跡出土 石廬丁	一式	修士論文作成のための 実測及び写真撮影	平成15年6月27日	立命館大学考古学研究室 板井 拓馬
⑦	東山高が森4・6・8号墳出土 鉄鏃 東山古墳5次調査出土 鉄鏃 岩谷10号墳出土 鉄鏃 大池東2号墳出土 鉄鏃	一式	卒業論文の資料作成 のための実測	平成15年9月29日 ～10月3日	別府大学 谷 尊祥
⑧	三島神社古墳出土 埴輪 斎院赤石山古墳出土 地輪 影前谷1号墳出土 埴輪 畑寺6号墳出土 埴輪 鶴ヶ崎G区出土 埴輪 船ヶ谷向山古墳出土 埴輪	一式	卒業論文作成のための 実測・写真撮影	平成15年7月30日 ～8月7日 平成15年11月19日 ～11月29日	愛媛大学考古学研究室 濱口 美加
⑨	米住庵寺出土 脇尾 久米高畑遺跡7次調査地出土「久米評」線刻土器 米住台地の遺構模型 米住庵寺遺跡5次調査地出土 硯 南久米町遺跡出土「時」忠孝土器 米住庵寺出土 軒瓦 米住庵寺出土 軒平瓦	一式	VTR・出版物作成 のための写真・ビデオ 撮影	平成15年11月25日	愛媛新聞社報道局 加藤 幸史
⑩	七郎ジグソーパズル・松山平野の遺跡復原 理の復元・大伴文化の伝播・平彩銅剣 瀬戸内のまつり・埴輪の世界 笠式住居での石器製作・古墳の出現 一鳥神社古墳・富ばれた飾式石棺 米住庵寺の脇尾・屋外展示	一式	CM製作のためのビデオ 撮影	平成15年11月27日	愛媛大学 澤田 光信
⑪	富野川遺跡出土 土	1点	えひめ地誌学報告書 及びインターネット 活用学習講座ホーム ページに掲載のための 写真撮影	平成15年11月	愛媛県生涯学習センター 所長 日野 孝雄
⑫	朝日谷古墳群出土 土類 岩谷古墳群出土 土類 久ノノ古墳群出土 土類 かいなご2号墳出土 土類	一式	博士論文作成のための 実測・写真撮影	平成15年12月9日	京都大学考古学研究室 大貫 克彦
⑬	近町遺跡出土 須恵器 近町遺跡2次調査地出土 須恵器 播磨小学校構内遺跡出土 須恵器	一式	資料調査のための実測 写真撮影	平成15年12月14日 ～16年3月31日	愛媛大学法文学部 三吉 秀亮
⑭	二ツ塚古墳出土 埴輪	一式	「紀要愛媛」への掲載 のための実測・写真撮影	平成15年12月20日	財団法人愛媛県歴史文化調査 センター 山内 英樹

資料の調査一覧表

(敬称略) (2)

No	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
㉔	古市遺跡出土 石彫丁 久米高塚遺跡27・28・29次調査地出土 石彫丁 滝尾山遺跡出土 石彫丁 文京遺跡2・3次調査地出土 石彫丁 津田中学校内遺跡出土 石彫丁 久米才歩行遺跡4次調査地出土 石彫丁 桑原遺跡出土 石彫丁	一式	修士論文作成のため 実測、写真撮影	平成16年1月6日	愛媛大学考古学研究室 児玉 洋志
㉕	弁天山古墳出土 簡式石椁	一式	簡式石椁集のため	平成16年2月11日	日本考古学協会 名本二六華
㉖	朝日谷2号墳出土 刀柄横 東山倉が森2号墳出土 鋭り環頭大刀	一式	資料調査のための写真 撮影	平成16年2月17日	福島市 菊地 芳明
㉗	縄文土器・弥生土器 地輪 表住原寺出土 軒瓦・平瓦 土器当てクイズ	一式	生涯学習施設文化財 資料室設置に伴う参 考のため	平成16年2月20日	広島県本郷町 土屋 征史

## 7. 職員研修・会議 (表12)

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の実質向上と業務の円滑な推進を図っている。

表12 職員研修・会議一覧表

No	研修・会議名	日 時	開催地	参加者数
①	全国歴史文化財法人連絡協議会年会	平成15年6月12・13日(木・金)	大阪市	1名
②	四国歴史文化財法人実務担当者会	平成15年8月28日(併)	香川県坂出市	2名
③	全国歴史文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	平成15年9月4・5日(木・金)	広島県東広島市	2名
④	歴史文化財発掘技術者専門研修 「古代集落遺跡調査課程」	平成15年10月1日(9～10日)衛	奈良市	1名
⑤	全国歴史文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	平成15年10月9・10日(木・金)	香川県高松市	3名
⑥	全国歴史文化財法人連絡協議会研修会	平成15年10月23・24日(木・金)	東京都港区	2名

## 8. その他 (表13)

表13 平成15年度 考古館月別入館者数調 (平成15年4月1日～16年3月31日)

(単位:人)

月	開館 日数	有料入館者			無料入館者				入館者 合計	一日平均 入館者
		個人 一般	個人 高齢者割引	団体 一般・ 各種割引	児童生徒	身障者	幼児	その他		
4	25日	209	19	0	530	6	5	223	982	39
5	27日	178	22	30	2,274	8	6	694	3,212	119
6	25日	178	75	142	137	4	25	859	1,420	57
7	27日	115	71	86	256	0	47	440	1,015	38
8	27日	210	27	22	238	4	22	328	871	32
9	24日	106	17	0	214	12	9	32	390	16
10	27日	245	192	225	441	14	15	571	1,703	63
11	26日	322	205	137	241	100	6	349	1,350	52
12	22日	69	5	0	75	3	4	33	189	9
1	24日	135	49	0	25	2	9	8	228	10
2	24日	190	66	112	226	2	25	303	924	39
3	26日	165	78	2	1,445	19	23	400	2,132	82
計	304日	2,122	826	756	6,112	174	196	4,240	14,426	47

## 松山市埋蔵文化財調査年報 16

---

平成16年12月31日 発行

編 集  
発 行

松 山 市 教 育 委 員 会

〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目6-1  
TEL(089)948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター

〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6  
TEL(089)923-6363  
FAX(089)925-0260

印 刷

セ キ 株 式 会 社  
〒790-8686 愛媛県松山市湊町7丁目7番地1  
TEL(089)945-0111

---

